

355  
224

0<sup>m</sup> 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0<sup>m</sup> 1 2 3 4 5

始



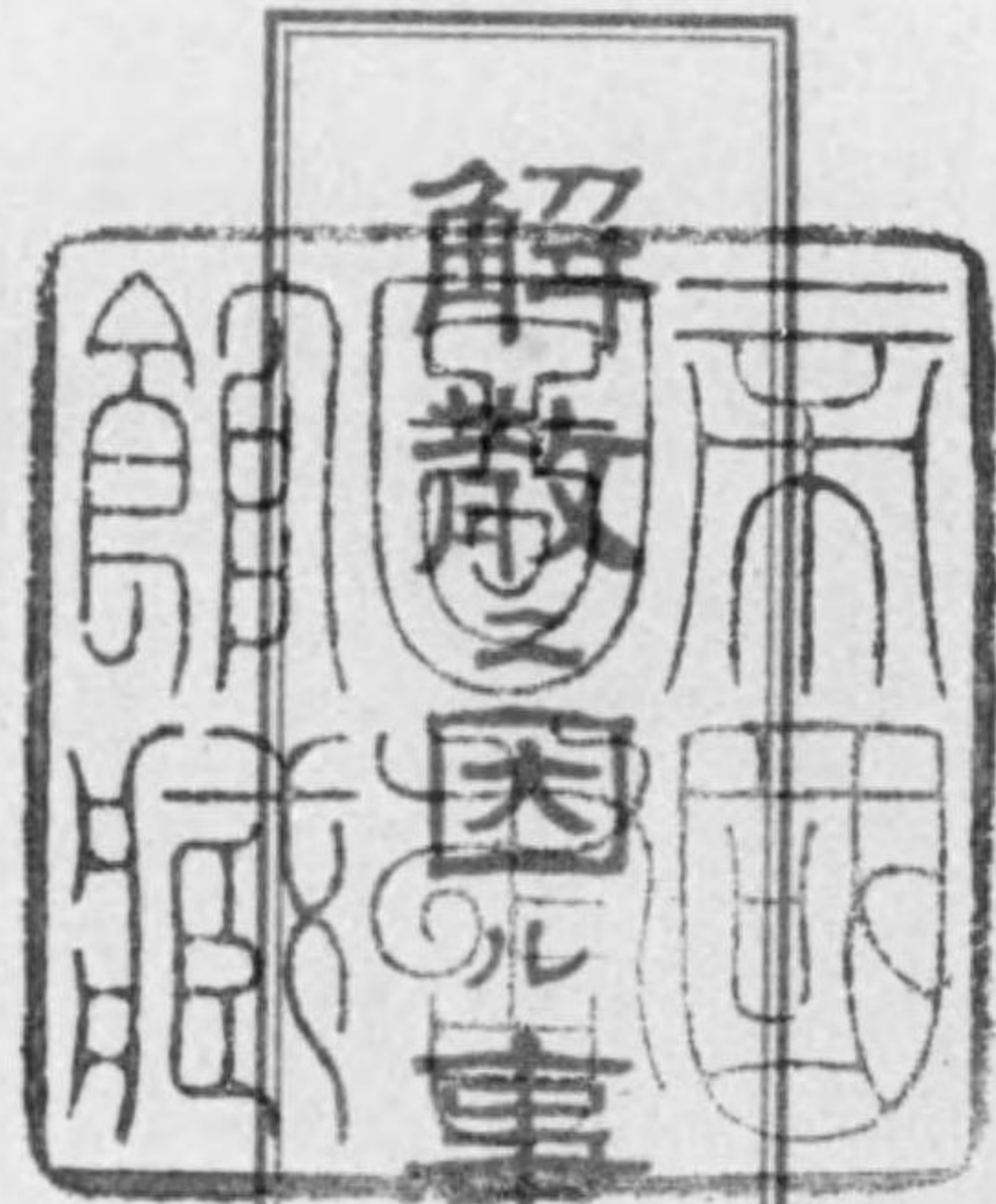
115

解  
數  
因  
子  
理  
論  
新  
著  
第  
一  
卷

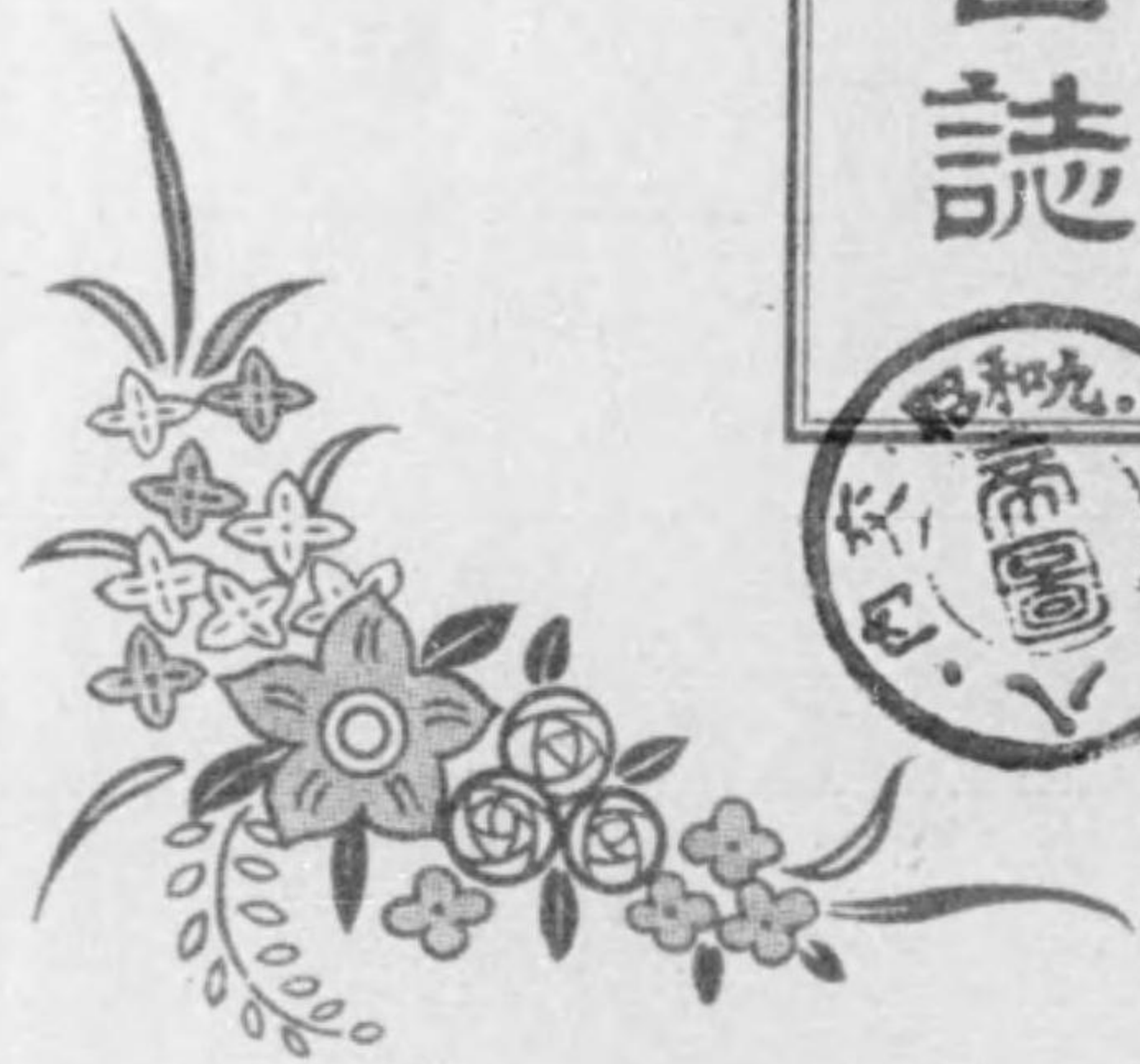
第  
一  
卷

1

特234  
330



解散  
因  
事  
業  
報  
告  
誌





組 合 長  
正 田 義 助



組 合 副 長  
片 桐 理 吉



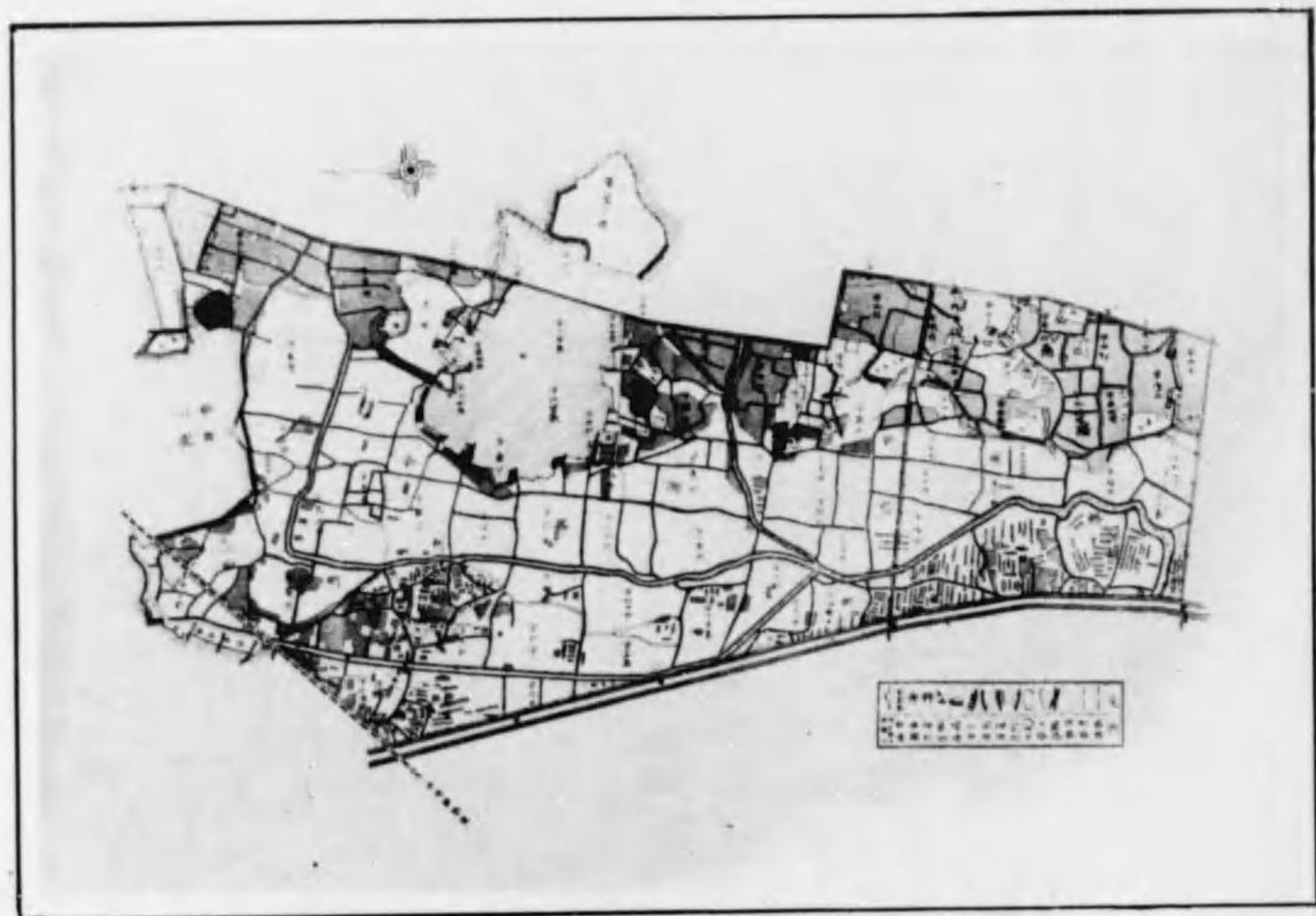
長合組 故  
郎太 辰原 笹



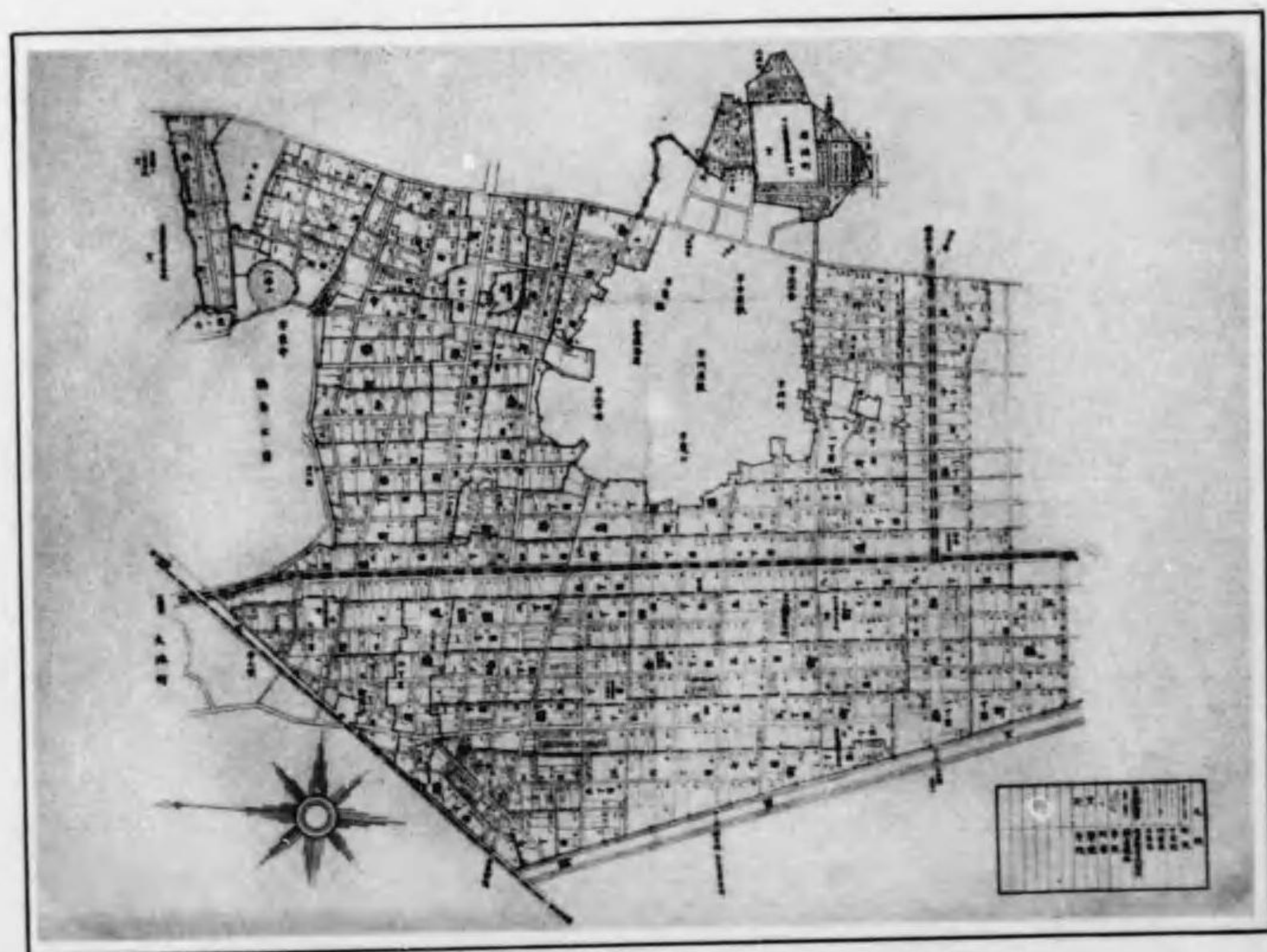
長合組 故  
七 村 川 谷 長



長合組 故  
三 勘 田 宮

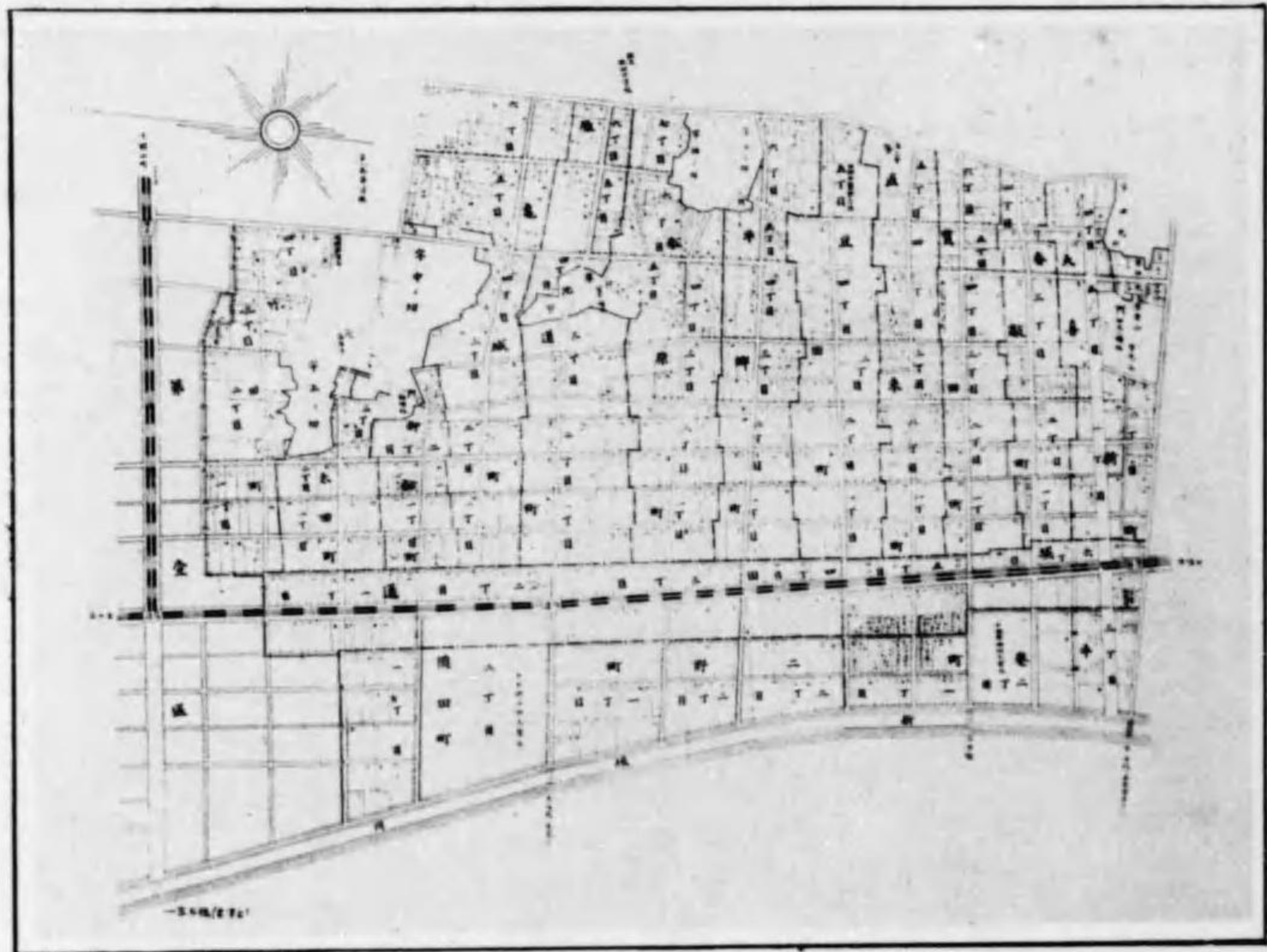


名古屋市東郊耕地整理組合地區現形略圖

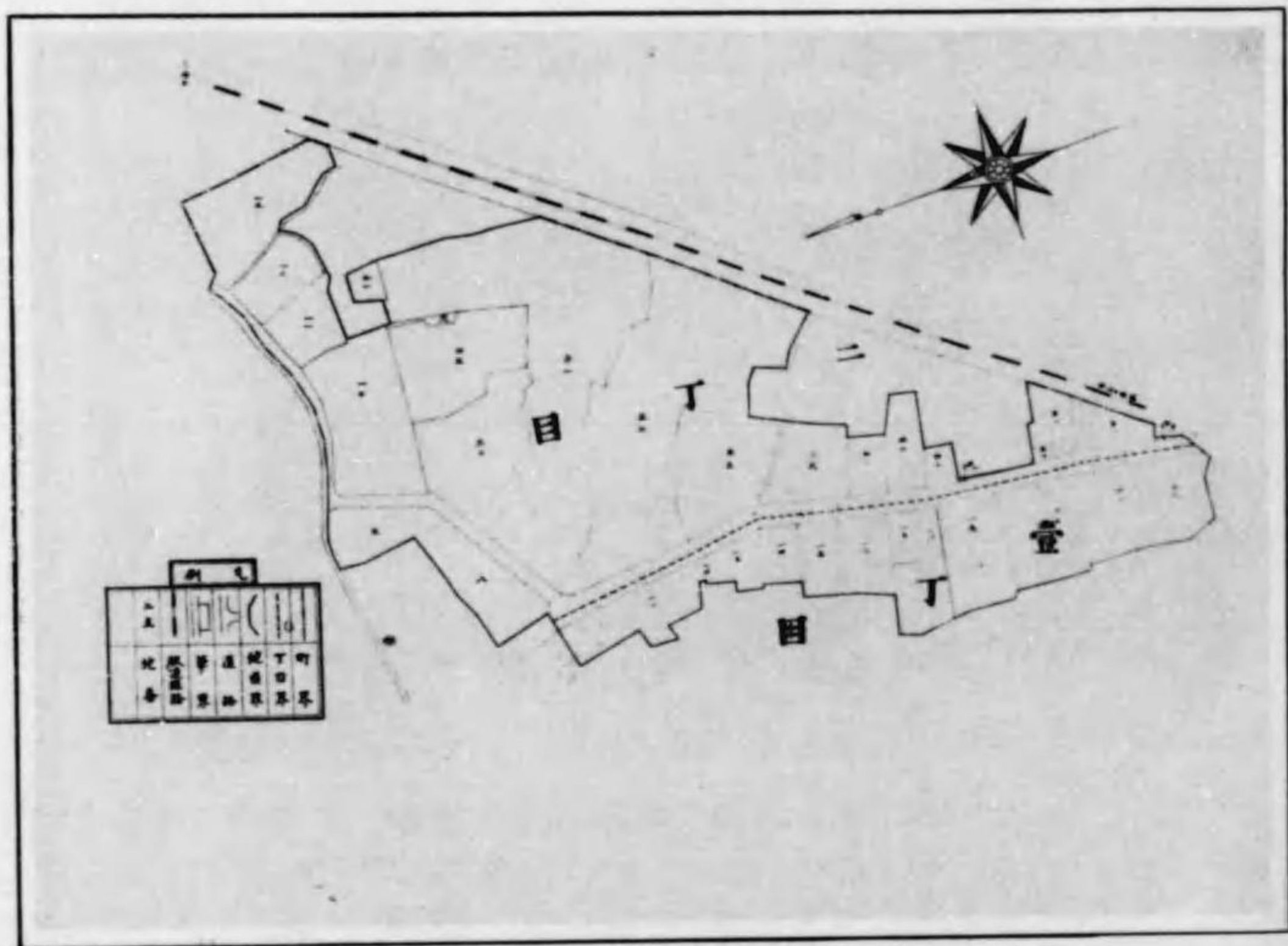


名古屋市東郊耕地整理組合第一區確定圖





圖定確區二第合組理整地耕郊東市屋古名



圖定確區三第合組理整地耕郊東市屋古名



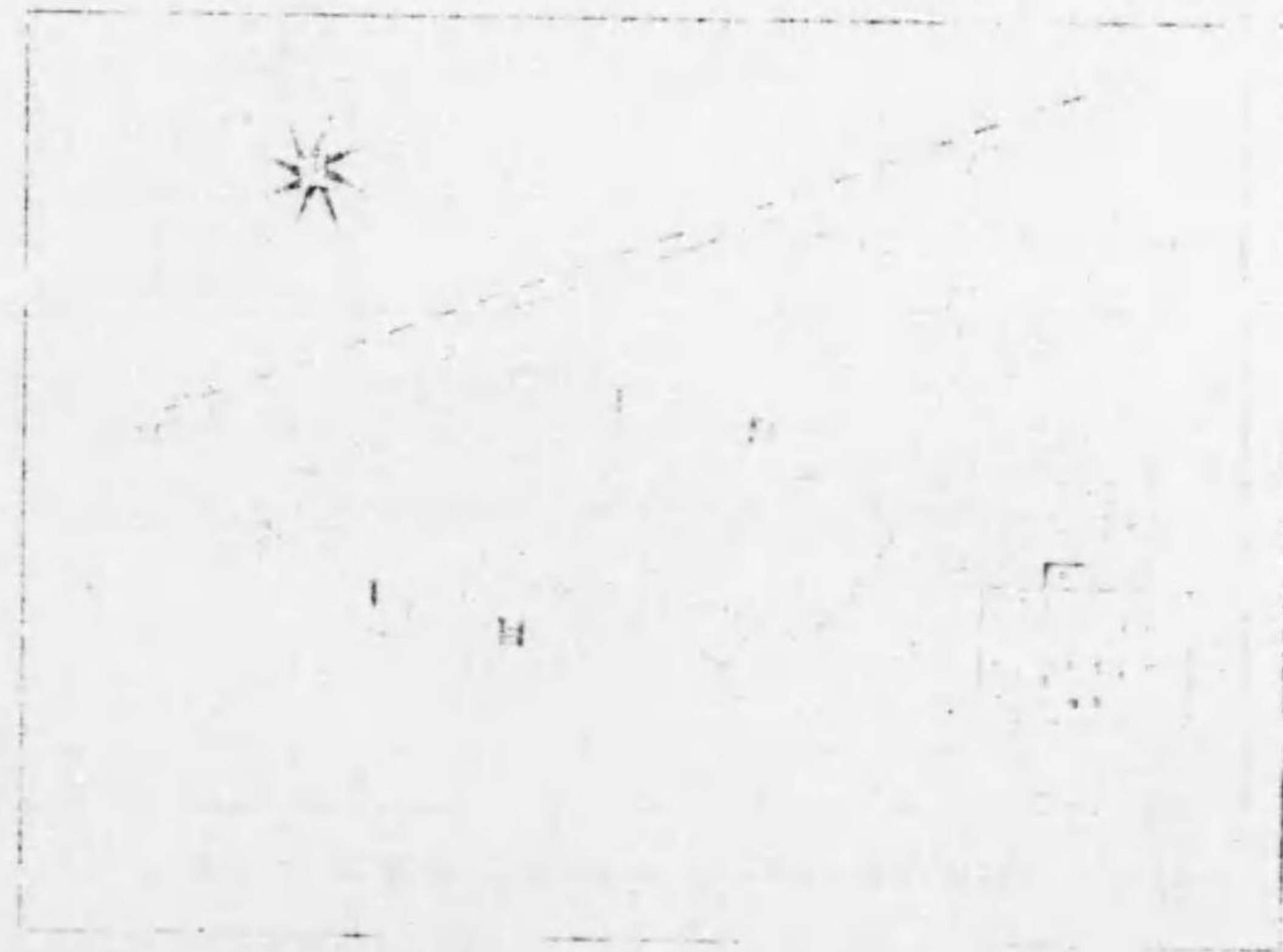
(時當散解) 所務事台組理整地耕郊東市屋古名



影撮念記員職役ノ時當立創合組



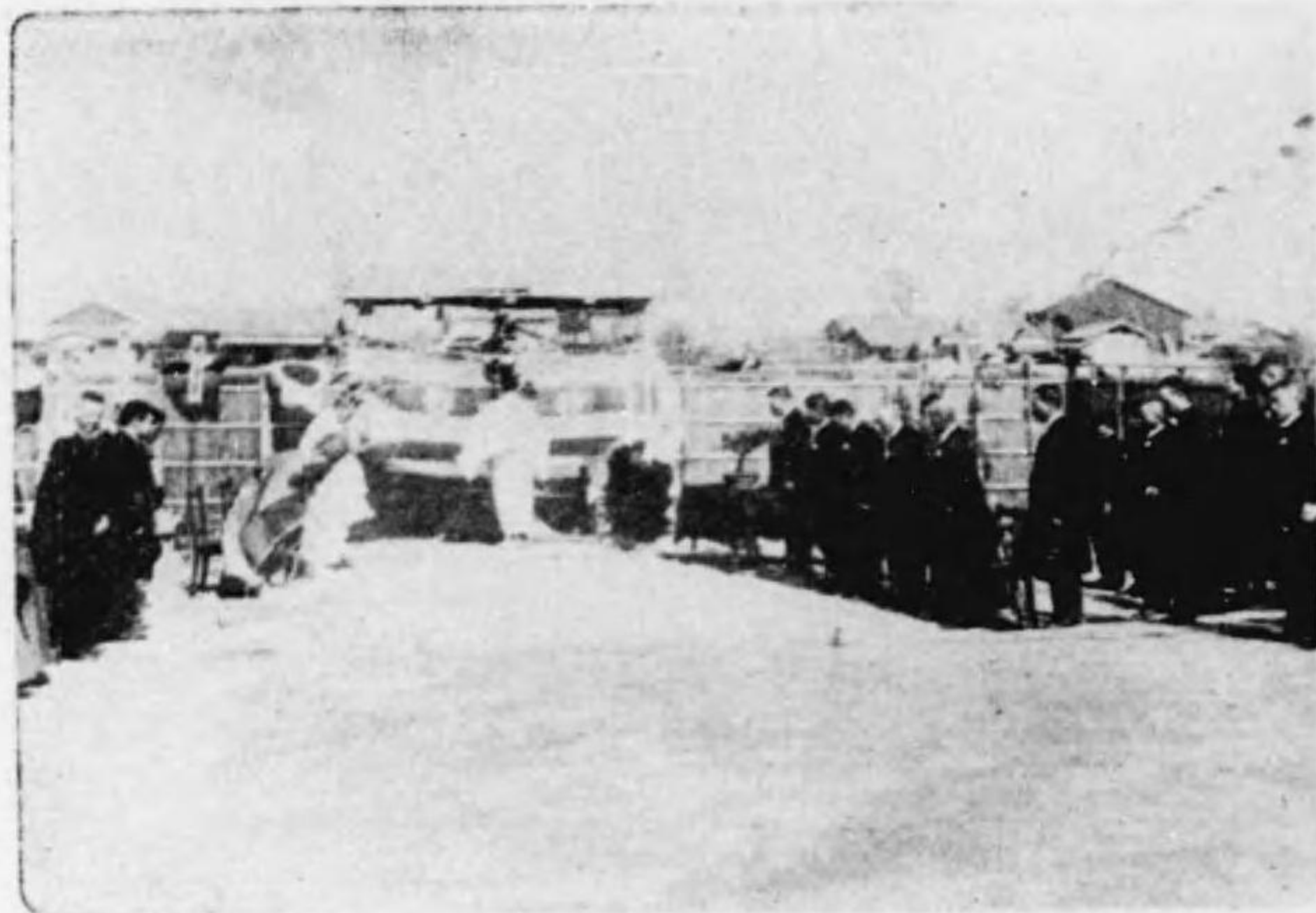
市東



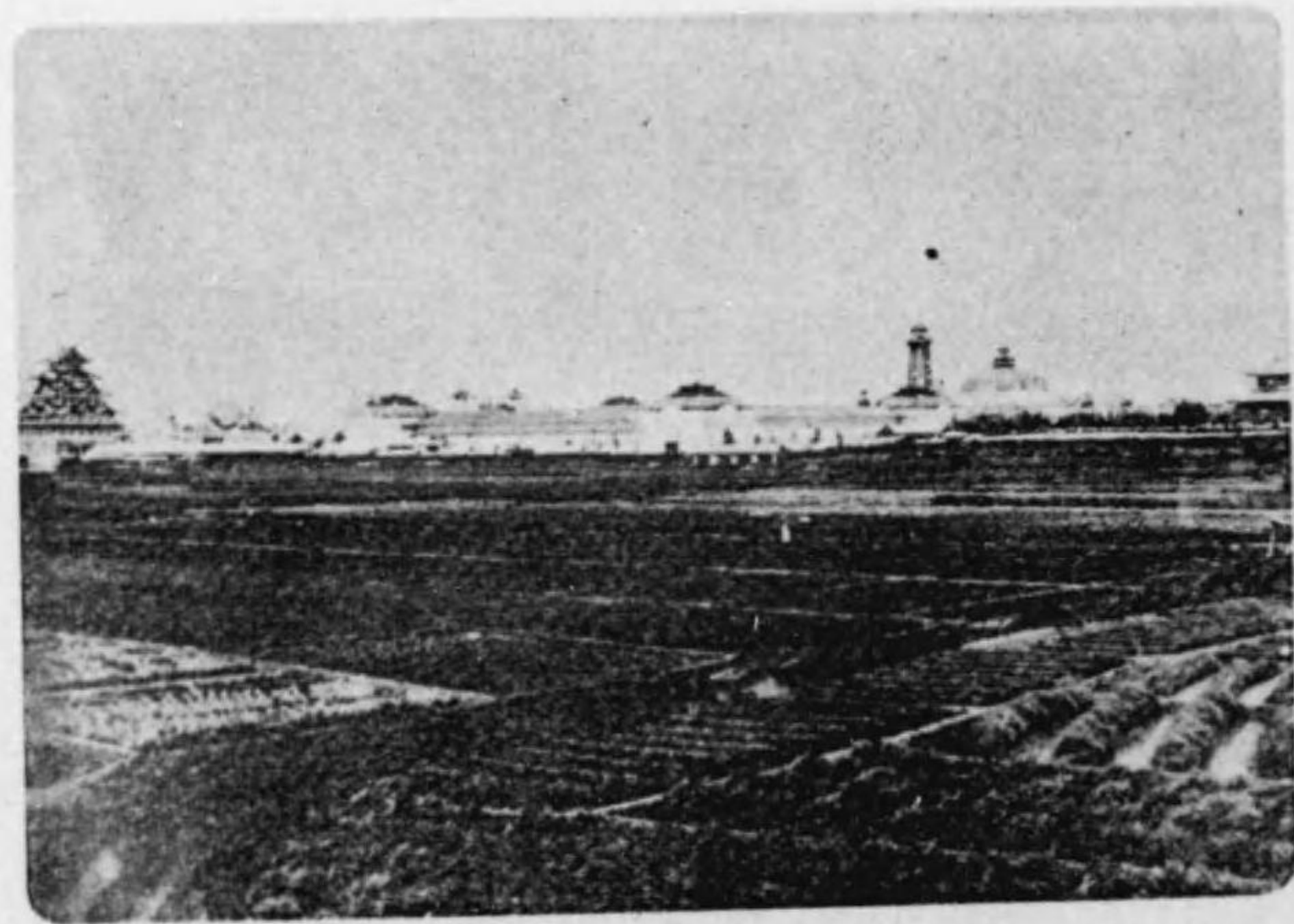
市東

市東





場 式 工 起



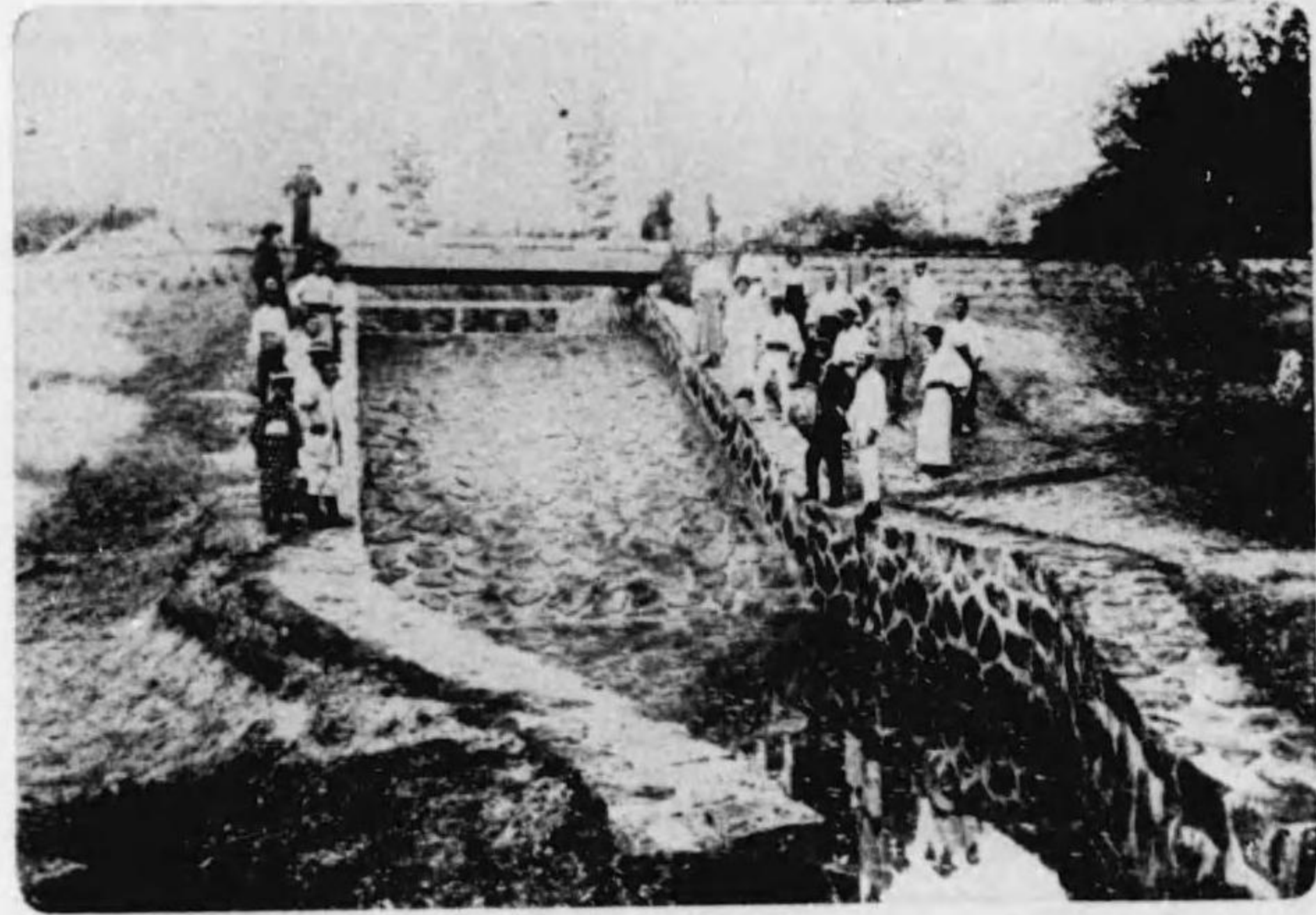
園公舞鶴りよ近附池天年三十四治明部一の内區地の前工起  
む望を場會進共るけ於に



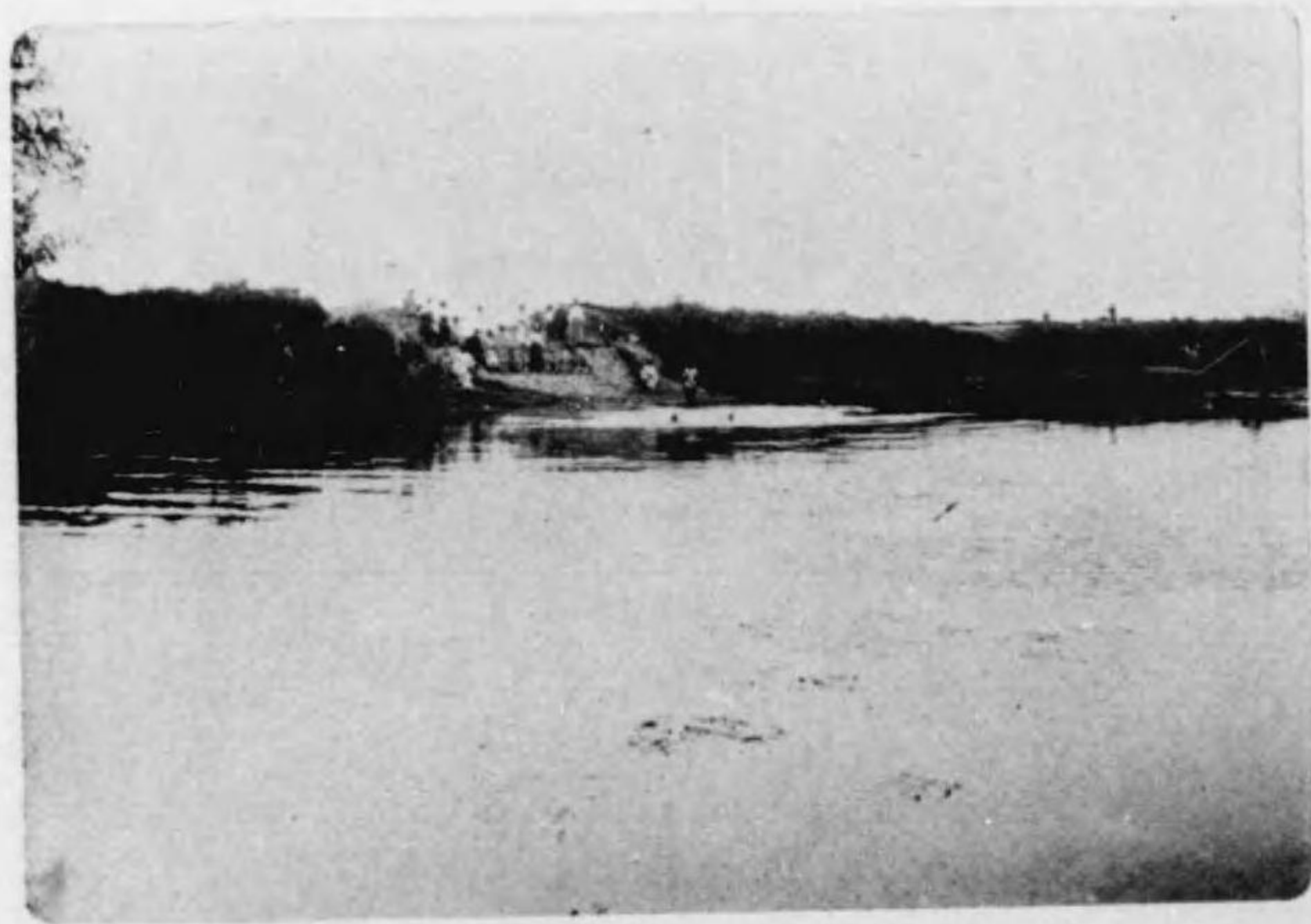
不明な写真



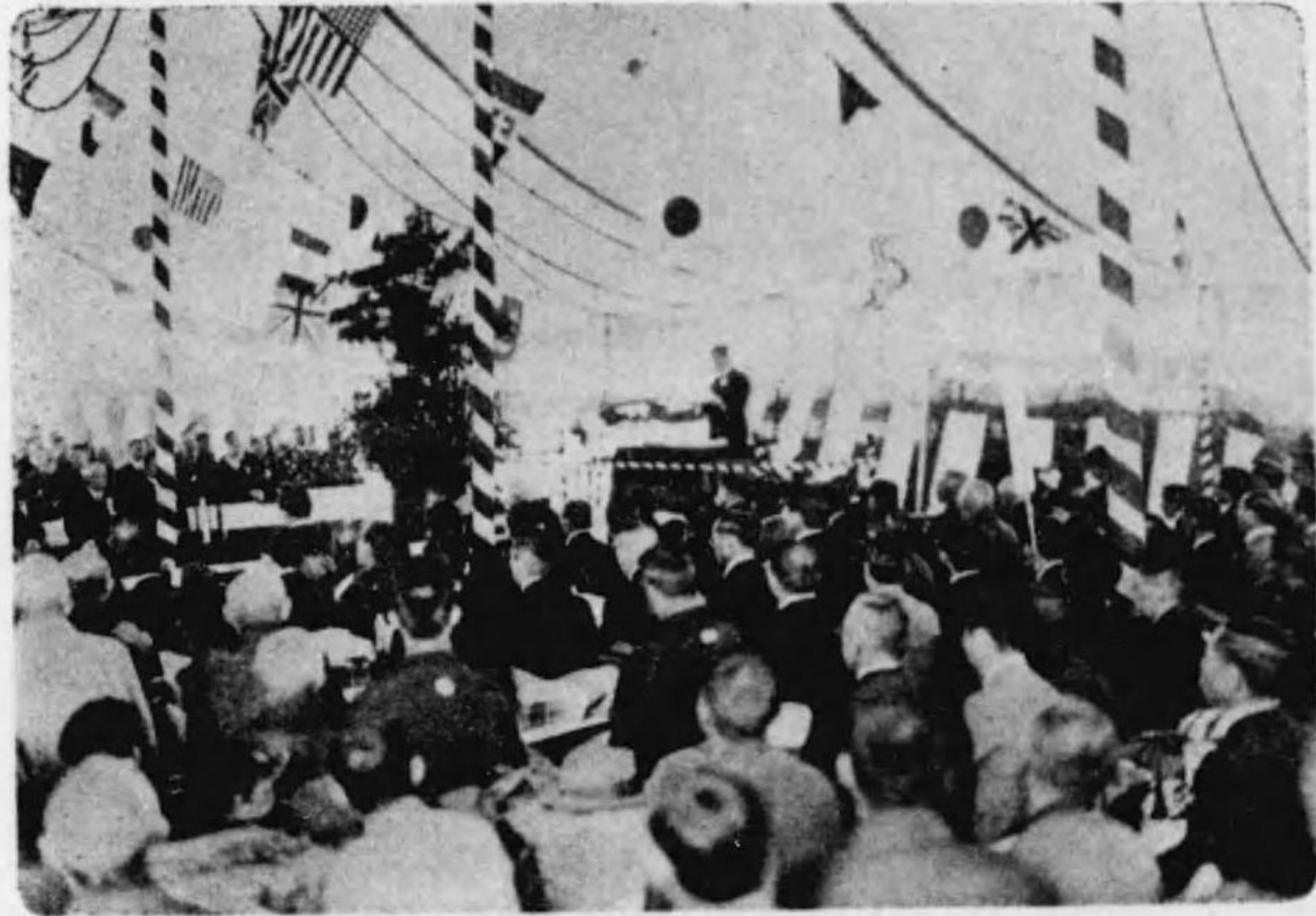
不明な写真



天池餘水吐樋門表面



天池並餘水吐樋門裏面



（日七十月四年二和昭）場式工竣事工



む望を方南りよ前園物動り通郊東區一第



第一區東郊通都島停留所附近より西方を望む



第二區雁道三丁目附近より西方を望む



第二區大喜町二丁目附近より西方を望む



第一區高辻電車停留所附近ノ工場地帯

# 組合解散に因る事業報告誌目次

緒言	一
第一章 組合の設立	一
一、地貌 二、整理前の地勢 三、組合設立の發企 四、組合の成立 五、事業の目的 六、組合の名稱並に事務所 七、事業施行地區 八、整理前後に於ける地區の總地積及賃貸價格	
第二章 組合の規約	一四
第三章 工事施行の狀勢	二七
一、第一期組合設立當時に於ける工事施行の計畫	
二、計畫に於ける當時の輿論	
三、工事計畫の變更	
(イ) 一部施設の變更(地區の變更) (ロ) 工事計畫全般の變更 (ハ) 第二期工事の計畫 (ニ) 溜池の廢止	
(ホ) 第三期工事の計畫 (ヘ) 補全工事の施行	
四、工事實施の概況	
第四章 組合の監理	四一
一、役員	

二、職員

三、役職員の功績

元組合長征原辰太郎氏、故組合長宮田勘三氏、組合長庄田義助氏、故組合副長長谷川紉七氏、組合副長片桐鑑吉氏、評議員高柳光重氏其他

第五章 地区の發展

一、地区内景勢の變遷

二、建物建築の趨勢

三、電車の開通

四、發展の狀態

第六章 組合の財務

一、經濟分擔の基礎

二、組合費の賦課

三、財政の經緯

四、所要經費

五、總決算(各事業年度毎の決算表併載)

六、決算の綱要

七、取引銀行營業不振の損失

第七章 換地處分(耕地整理法第三十條第一項處分)

一、假換地の指定及び變更

二、減歩法の決定

三、總會議に附したる換地處分要綱

(イ)換地の地域 (ロ)換地の地目及び面積の換算 (ハ)新舊兩地の評價決定

(ニ)換地處分の内容 (甲)換地の評定價格 (乙)従前地の評定價格 (丙)有償交付地の清算價格

(一)規約第三十三條第一項による處分 (乙)換地清算の特例 (丙)規約第三十三條第二項による處分 (丁)同條第三項による處分 (戊)同條第四項による處分 (己)同條第五項による處分

(庚)同條第六項による處分 (ホ)換地處分附帶清算

(甲)假換地收益不足補償金の交付 (乙)過渡し豫納金の割戻し

第八章 特別處分(耕地整理法第三十條第二項處分)

一、特別處分の内容

第九章 國有地の無償交付及び編入

一、國有地の無償交付

二、國有地の編入

- 三、新線道路の面積及び延長
- 第十章 行政區畫の變更……………八三
  - 一、行政區に屬する區界の變更
  - 二、字區域變更並に名稱改稱
- 第十一章 貨賃價格の配賦……………九〇
  - 一、舊耕地整理法に依る地價修正及び地價配賦
  - 二、新法に依る貨賃價格の配賦
  - 三、宅地成地目變換
- 第十二章 登記……………九二
  - 一、代位登記
  - 二、耕地整理登記
- 第十三章 換地清算の實行……………九四
  - 一、徵收金の回收
  - 二、交付金の支拂
- 第十四章 解散……………九五
- 附錄 組合設立以來の年次行程……………一二八

### 緒言

本組合設立ノ當時、即チ大正元年末ニ在リテハ、專ラ田園整理ヲ主タル目的ト爲セシモ、多少將來市街地形成ノ豫望ヲ有シ、恰カモ架空的理想ノ下トニ、農耕地整理トシテハ、蓋シ異例ノ設計ヲ行ヒ、識者ノ笑ヒヲ受ケ、組合員ノ批難亦猛烈ナリシガ、時代ノ推移ト名古屋市急速ノ發展トニ依リ、地區長足ノ進歩ヲ來タシ、昨ノ豫望ハ忽チニ其機ヲ早メ、純然タル都市ノ機構ヲ備ヘ、設立後十餘年ヲ經過スルヤ、茲ニ景勢一變シ、整理事業着手前ノ田園ハ、變ジテ大厦高樓ノ巷ト化シ、耕地整理ノ名ニ副ハザルニ至リシモ、設立當時ハ未ダ都市計畫法ノ如キ法規モ存セズ、亦組合ノ目的モ其茲ニアラザリシヲ以テ、世勢ノ進運ニ順應スルノ已ムヲ得ザルニ至リ、一路耕地整理ヲ以テ邁進シ、三回ノ工ヲ竣ヘ、全國稀ニ視ル進展ノ良果ヲ擧ゲ、今ヤ全ク事業ノ終了ヲ告ゲ、組合ヲ解散スルニ至リタリ、欣喜措ク能ハズ、是レ偏ニ監督官廳ヲ始メ關係官公署ノ援護ト役員協力一致加ヘテ、組合員各位ノ鞭撻ニ據ル所ナルト、一



面事業行程ノ難關ト、攝務調理ノ煩雜譬フルニ難ク、第一期工程ヲ了ルヤ、既ニ完了事務ノ一端ヲ開始セシモ、事業ノ趨勢ハ、是レガ遮止セシムルノ已ムナキニ至リ、恰モ再度ノ終盡ニ接シタルガ如ク、攝掌者ノ貢獻亦與カル處不尠ルベシ、サレバ是レ等異數ノ經過ヲ册子ニ録シ、存續期間二十餘星霜ニ於ケル迂餘曲折思ヒ出デノ資ニ供シ事業經過並ニ決算報告トシテ、組合員各位ニ頒ツ所以ナリ然リト雖モ、本誌ノ稿ヲ起コス組合解散ノ直前ニ迫マリ急遽筆ヲ執リ校正ヲ究ムルノ違ナシ、然カモ文筆ノ拙劣、蛇足又ハ欠缺多カラシ、願クバ幸ニ是レヲ寛容シ、座側資料ノ一端ニ供セラル、ヲ得バ欣快ニ堪ヘザル處ナリト云爾。

昭和九年四月

### 名古屋市東郊耕地整理組合

## 組合解散に因る事業報告誌

### 名古屋市東郊耕地整理組合

#### 第一章 組合の設立

一、地 貌 本組合の地域は名古屋市の東部に位し、現今の中區御器所町及南區瑞穂町、南區熱田東町の一部を包容し、東は元郡道千種街道西は新堀川を以て境し南は元郡道平針街道に接し、北は省線中央線鐵道及名古屋市鶴舞公園に隣接し、東西約十町南北約一里に亘る一帯(舊來郷中を稱する部落の部  
分は之れ  
を除外す)にして、昭和四年に至り省線中央線北隣中區御器所町の内七本松と稱ふる一小地域を加へ、組合の全地域を完からしめたり。

二、整理前の地勢 地域内東方三分の一の幅域は、海面上三十二、三尺乃至九十四、五尺の高臺にして、西方三分の二の幅域は、同じく六尺乃至二十一尺の低地に屬し、土質は東方高地部は第四紀古層壤土にして、西方低地部は、第四紀新層壤土なり、然して灌溉の便に至りては、非常

なる旱魃に遭遇せざる限り、概して用水の不足を感じざるも、名古屋市に於て、新たに排水路として、新堀川を開鑿せし爲め、大いに用水の持久力衰へ、年々所用の量水不足を告ぐるに至り、排水に至つては在來の、水路配置は形状断面等頗る不完全なる爲め、大雨の場合は、低地に於ては深さ一尺乃至二尺、期間二日乃至五日間の程度、浸水を蒙れり、次に交通状態に至りては、地區内多くの道路何れも迂餘曲折、幅員狭く、主として作道に過ぎず構造亦粗惡にして、頗る不完不備にてありたり。

### 三、組合設立の發企

整理前の地勢は以上の如きが、隣接舊名古屋市街地の發展は、日に月に進み、組合地區内北東一帯の高臺は、南方國道即ち東海道を隔て、名古屋築港を控えたる景勝地の一部に屬するを以て、其連接一帯の土地、即ち地域の境とする、元郡道を隔て、是れに隣接し高等教育の源泉たる、官公立諸學校、即ち第八高等學校若くは縣立第五中學校又は八幡山を隔て、醫科大學、高等工業學校を始め、各種學校等比隣の地に集り、新堀川を隔て、各種の大會社大工場並び建ち紳士紳商の邸宅、所々に散在するに至りしを以て、四圍の狀況、田畑の耕地を以て甘んずべくもあらず、將來必ずや、一大發展を來し、裕に田園都市を形成するの希望を滿すも、其

の間多少の年月を假し、先以て耕地の便を改むるを道程と定め、用水の害を除き、道路組織の完全を圖り、以て耕耘利便の増進を欲し、明治四十四年の交、時の愛知郡長笹原辰太郎氏専ら耕地整理事業を主唱し、土地所有者中有力者を説き名古屋市長及關係町村長（當時御器所町は町制を布かず）等と協議を重ねしめ、地域内の有力者亦大いに讃議を進め議成り、大正元年十月二十五日左の諸氏申請者として、耕地整理組合設立認可の申請を遂げ、同年十二月十七日其の認可を受けたり。

南區呼續町（後ちに瑞穂町と改稱以下同じ）水野忠三郎、荒川平三郎、篠田榮、大曾根慶次郎、伊藤政次郎、福島利右衛門、篠田長右衛門、

中區御器所村（後ちに町に改む以下同じ）横井覺右衛門、伊藤源兵衛

附記 當時に於ける笹原辰太郎氏の意中を付度するに、既に明治四十二三年頃、時勢の進運は現名古屋をして居座の儘即ち現状維持に止まらざるべく、必ずや一大進展を策するに至るべきを看破し、是れに備ふるの用意を爲すは斷じて、架空の想ひにあらずと豫測せられたるにあるべく、されば郡長として自己の計畫せる既成千種街道を地域の基點とし、事業の名は耕地整理なるも、其實際は宅地整理を行はしむべく、然かも是れが財源は地域内を流る、舊精進川の廢川敷地約三萬坪の、無償交付を受くるにありとし、南區長に謀り其の

快諾を得、次いで當時の市長加藤重三郎氏を説かれしに、即座に賛意を表し以て其廢川敷編入の同意を得たる爲め笹原氏の意大いに昂り、關係町村長並に有力なる土地所有者の意を強くするに至りたるなり。

**四、組合の成立** 設立認可申請に至るまでに於ては、有力土地所有者多數相謀り、先以て縣知事深野一三氏へ實地踏査を願ひ出て、八名の委員を選び、創立事務に當らしめ、明治四十四年十月十七日第一回創立委員會を愛知郡役所に開き、翌四十五年三月十三日、地主一同を同郡役所に集め、更に九名の委員を公選し、創立事務を進め、同年五月其事務を開始し、大正元年十月二十五日(明治四十五年七月三十日大正改元)までに關係圖書の完備を遂げ組合設立の認可を申請し、同年十二月十七日其の認可を受くるや、翌大正二年一月十二日創立總會を開き満場一致創立費金六百八圓六十三錢の承認と共に、規約を是認し、組合長一名同副長二名評議員八名の選舉を行ひ、茲に全く組合の成立を告ぐるに至りたり。

**五、事業の目的** 規約に定めたる事業の目的は左の如し。

土地の交換介合、開墾、地目變換、區劃形質の變更、道路橋梁、堤塘、畦畔、溝渠及溜池の變更廢置並に灌溉排水に關する設備工事及其の維持管理。

附記 組合設立當時は溜池を事業の目的とせざりしも、其後認可を受け是れを加へたり。

**六、組合の名稱並に事務所所在地** 組合は名古屋市東郊耕地整理組合と稱し、設立の始め事務所を現今の瑞穂町字欠の上地内大喜梅林内に之を置き、後ち轉輾し大正三年に至り、現在の場所中區御器所町字小針即中區東郊通一丁目十二番地に新設し今に迄べり。

**七、事業施行地區** 組合設立に際しては、其地域一帯を事業施行の一地區と定めたるも、大正十年十二月十日中區御器所村地域と、南區瑞穂町、熱田東町地域と、經濟分離(法規上の工區別)を行ひ、御器所部、瑞穂熱田部と稱し又は第一部(御器所部) 第二部(瑞穂熱田部)と唱へ來りしが、昭和四年十一月十二日規約變更の認可を受け、純然たる工區、即ち第一區第二區たることを確認し、第三區として中區御器所町の内通稱七本松の小地區を編入せり。

**八、整理前後に於ける地區の總地積及賃賃價格**

甲、整理前

イ、民有地の部

地目	全區				第一區			
	地積	舊地價	賃賃價格	筆數	地積	舊地價	賃賃價格	筆數
田	一、六六九、二二二 外詳詳 七〇、三三三	八七、八一四、九七	六九、五三三、一六	二、七三三	一、〇三六、九〇〇 外詳詳 四七、九〇七	五六、六五五、六二	四六、一四二、五五	一、六二六
畑	六八六、〇一八	一八、四九六、〇〇	二一、七〇二、九四	一、九九一	三、四〇〇、六〇〇	九、五二四、三四	二一、八二四、五七	八、九七
宅地	一九二、六二二	四二、五五七、九五	六三、六六六、〇〇	五二〇	一一三、八一九	二一、八五九、四六	二九、一七〇、八九	二、九二
山林(藪)	二二、四一六	二、四五六、七八	四三九、六一	一〇一	一三、四二四	一、四七、七三	三三、一九三	四、九
山林(林)	二、五三九	七、三五	四九、七〇	六	一、七二四	五、〇一	四一、二二	三
山林(山)	三、三八	三、〇〇	一、六五	一	三、三八	三、〇〇	一、六五	一
原野	七、〇八	二、九四	一、六一	一八	三、四二八	一、四五	七、九四	一〇
池沼	〇、二七	〇、〇四	三	二	—	—	—	—
溜池	一、四三三	假	八、八六	一六	一、一一〇	假	六、七	二
軌道用地	一〇、五三二	〃 五、五九、九二	—	一四	一〇、五〇七	〃 五、三八、四一	—	一三

地目	第二區				第三區			
	地積	舊地價	賃賃價格	筆數	地積	舊地價	賃賃價格	筆數
公立學校地	一八、二二六	〃 七、四八、七三	—	三九	九、一一四	〃 四、五八、九七	—	六
尿溜敷地	五〇〇	〃 二、九	—	—	五〇〇	〃 二、九	—	—
運河用地	一、一三	〃 〇、六	—	—	〇、〇七	〃 〇、三	—	—
墓地	二、二三	〃 一、五	—	—	二、二三	〃 一、五	—	—
道水路	〇、一〇一	〃 〇、三	—	—	〇、〇七	〃 〇、三	—	—
用水路	〇、〇三三	〃 〇、五	—	—	—	—	—	—
惡水路	二、〇四	〃 〇、八	—	—	—	—	—	—
計	二、六二、〇一六 外詳詳 八六、三二五 〇、四〇	一、五〇、四一五、四八 内假地價 一、二九〇、一五	五五、三九八、三八	五、四四二	一、五三五、九二〇 外詳詳 五六、七二八 〇、四〇	八九、一九二、四三 内假地價 九九八、五一	八八、五二〇、七四	二、九〇二
田	六三三、三〇七 外詳詳 三三、三二六 三、四〇、八二二	三、一五九、三五	二、三、三七九、六二	一、一二七	—	—	—	—
畑	三、四〇、八二二 七、二二二	八、九五五、八八	八、八六五、六二	一〇八七	五、二六	一、五七八	二、三七五	一

地目	第一區			第二區		
	積	舊地價	賃貸價格	積	舊地價	賃貸價格
宅地	二八、七〇〇	五、八五二・三九	九・〇八七・五四	四〇・〇三三	一四、八四六・一〇	二五、四七五・七七
山林(藪)	八・九三三	九八・〇五	一〇七・六八	一、二七		
山林(林)	・八五	二・三四	八・四九			
山林(山)						
原野	三・六一〇		一・四九			
池沼	・〇二七		・〇四			
溜池	・三〇三		・一九			
軌道用地	・〇二五	假	一・五〇			
公立學校地	九・一〇二	//	二八九・七五			
尿溜數地						
運河用地	・一〇六	//	・〇四			
墓地						
道路	・一〇一	//	・〇三			
水路	・〇一三	//	・〇五			
計	一〇三、〇〇七	四六、三六二・一八	四一、四五七・三三	四〇、六七八	一四、八六一・八八	二五、四三〇・三三
計	外計 二九、五二七	内計 二九、一六四	二、四五〇	四〇、六七八	一四、八六一・八八	二五、四三〇・三三

地目	積	舊地價	賃貸價格	筆數
惡水路	・二〇四	〇	〇	一
計	一、〇三五・四〇七	四六、三六二・一八	四一、四五七・三三	二、四五〇
計	外計 二九、五二七	内計 二九、一六四	二、四五〇	四〇、六七八

備考 假地價を附したる各地目に就きては、耕法第十四條ノ二條に依り賃貸價格を設定し其相當地目田又は畑に之れを合算す

口、國有地の部

地目	第一區			第二區		
	積	舊地價	賃貸價格	積	舊地價	賃貸價格
道路	五七・七〇八			三三・二一七		
水路	七六・七二二			四〇・八二九		
堤塘	一九・一〇七			一一・九三三		
溜池	一六一・八二六			一四一・二〇七		
計	三二五・五〇三			三二七・二六六		
計	外計 八六・三三三	内計 二九〇・一五八	一一、三九八・三六	外計 五六・七二八	内計 九六・一五三	八八、五二〇・七四
合計	二、九二七・五二八	一五〇、四一五・四八	一、三九八・三六	一、七六三・二〇六	八九、一九三・四三	二、九二〇

(口) 國有地の部

計	畑地 宅地 雑種地 溜池 公立學校地	第一區			第二區			第三區		
		積	貸貸價格 円	筆數	積	貸貸價格 円	筆數	積	貸貸價格 円	筆數
計		二、六〇三、二二九 八六	一、〇三五、一四五・八五	三、三六九	一、五六二、六〇九 四六	七三三、九六八・三四	一、一九七三			
	雑種地	三七・六〇三	六一・五二	四二	二五・二〇四	四四七・三三	一四			
	溜池	一〇・五二二		一	一〇・五二二		一			
	公立學校地	二六・六三〇		一	二六・六三〇		一			
	畑地	二九三・七〇六 反	四、五六六・九三	四六一						
	宅地	六九〇・五〇五 三八	二七五、七九四・九六	八七三	四三・九二二 〇二	二五、六三二・四三	三五			
	雑種地	一三・三三八	一六四・二〇	二七						
	溜池									
	公立學校地									
計		九九六・六〇九 三八	二八〇、五四六・〇八	一、三六一	四三・九二二 〇二	二五、六三二・四三	三五			

乙、整理後  
イ、民有地の部

地目	全區			第一區		
	積	貸貸價格 円	筆數	積	貸貸價格 円	筆數
合計	八三・三三〇	一、〇三三、三六二・一八 内假地費 二九一・六四	二、四五〇	四・八二六	一、八六一・八八	九〇
道路	三・八二二			一・七〇九		
水路	三・七〇五			三・二七		
堤塘	七・二四					
溜池	二〇・六一九					
合計	八三・三三〇	一、二八・七七 四六、三六二・一八 内假地費 二九一・六四	二、四五〇	四・八二六	一、八六一・八八	九〇
畑地	五六三・〇二五 反	九、八二三・四六	八八四	二六九・三〇九 反	五、二六・五四	四三
宅地	一、九六五・三〇 八六	一、〇三四、七二〇・八七	二、四四二	一、二三〇・八二四 四六	七三三・九四・四八	一、五三四

地目	全區		第一區		第二區	
	積	貸賃價格	筆數	積	貸賃價格	筆數
水道路	四八〇・五二	—	—	二八八・三四	—	—
計	八・四三	—	—	五・九二七	—	—
合計	三〇九二・二三	—	—	一、八五六・九二〇	—	—
地目	第二區		第三區		第四區	
地積	一八八・三四	—	—	三八〇三	—	—
貸賃價格	—	—	—	—	—	—
筆數	—	—	—	—	—	—
合計	一九〇・八〇九	—	—	三八〇三	—	—
水道路	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—
合計	一、一八七・四一八	—	—	四七・七二四	—	—

備考 本組合は昭和六年耕地整理法改正後貸賃價格の配賦に着手せしを以て整理後の地目は一旦元地目による貸賃價格の配賦を遂げ更に現地目に依る地目變換を行ひしため整理後に於ける民有地地積貸賃價格等左

の如く異動せり

地目	全區		第一區		第二區	
	積	貸賃價格	筆數	積	貸賃價格	筆數
畑地	六六二・四二五	—	—	三七六・〇二七	—	—
住宅	一、七二一・四一五	—	—	一、〇九五・三三三	—	—
合計	二、五九九・七五	—	—	一、五六〇・四一七	—	—
異動前民有地	二、六〇三・二九	—	—	一、五六二・六〇九	—	—
異動後民有地	—	—	—	—	—	—
合計	二、六〇三・二九	—	—	一、五六二・六〇九	—	—
畑地	二八六・三八	—	—	—	—	—
住宅	六二五・七〇	—	—	—	—	—
合計	九一九・〇八	—	—	—	—	—
異動前民有地	九九五・三七	—	—	—	—	—
異動後民有地	—	—	—	—	—	—
合計	九九五・三七	—	—	—	—	—

## 第二章 組合の規約

組合の規約は設立申請の際申請人に於て作製し、設立と共に本縣知事の認可を受け、爾來數次の變更を加へ、完了期に當り換地處分並に換地清算金の徴収交附に關し特に吾が組合の沿革上に於ける最善の改正を行ひたり、今左に其の全文を掲ぐ。

### 第一章 總 則

第一條 本組合ハ設計書及ビ本規約ノ定ムル所ニ依リ土地ノ交換分合、開墾、地目變換、區劃形質ノ變更、道路橋梁、堤塘、畦畔、溝渠及溜池ノ變更廢置並ニ灌溉排水ニ關スル設備工事及其ノ維持管理ヲ行フ

第二條 本組合ハ名古屋市東郊耕地整理組合ト稱ス

第三條 本組合ノ地區ハ名古屋市中區御器所町、南區瑞穂町及南區熱田東町ノ一部トシ左ノ三區ニ分ツ但シ各區ノ境界ハ設計書添付ノ原形圖ノ通り

第一區 中區御器所町ノ内及南區瑞穂町ノ内、南區熱田東町ノ内、千種街道以西、新堀川以東

第二區 南區瑞穂町ノ内及中區御器所町ノ内千種街道以西、南區熱田東町ノ内新堀川以東

第三區 中區御器所町ノ内中央線西北沿

第四條 本組合ノ事務所ハ名古屋市中區御器所町ニ置ク

### 第二章 組合長、組合副長及評議員ノ定數

選任解任及任期ニ關スル規定

第五條 本組合ニ組合長一名、組合副長二名、評議員十六名ヲ置ク

組合副長及評議員ノ選出區域ハ左ノ通りトス

一、組合副長 第一區及第三區 一名 第二區 一名

二、評議員 第一區及第三區 八名 第二區 八名

第六條 組合長、組合副長、評議員ハ耕地整理法施行規則第四十五條ノ場合ヲ除ク外組合會ニ於テ之レヲ選舉ス

第七條 組合長、組合副長、評議員ノ任期ハ五ケ年トス但シ滿期再選ヲ妨ケス

補缺選舉ニ依リ就任シタル組合長、組合副長、評議員ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス



増員選舉ニ依リテ新タニ就任シタル評議員ノ任期ハ現在員ノ任期ト同一トス  
 組合長、組合副長、評議員ハ任期満了後ト雖モ後任者ノ就職スル迄仍ホ其職務ヲ行フモノトス  
 組合長、組合副長其ノ職ヲ辭スルモ、組合會ニ於テ之レヲ承認スルニ至ル迄尙ホ其職務ヲ行フモノトス

第八條 本組合ニ顧問及相談役ヲ置クコトヲ得

顧問及相談役ハ會議ニ出席シテ意見ヲ開陳スルコトヲ得

第九條 組合長事故アルトキハ年長順ニ依リ組合副長其ノ職務ヲ代理ス

組合長久シキニ亘ル故障アルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラズ組合員ハ其ノ代理スヘキ組合副長ヲ定ムルコトヲ得

第九條ノ二 組合長ハ耕地整理法第六十一條第一號乃至第四號第六號乃至第九號ノ事項ニ付總會、總會議又ハ組合會ノ表決ヲ經ントスルトキハ豫メ評議員會ニ諮詢スヘシ

### 第三章 會議ニ關スル規定

第十條 總會、總會議ニ於テ組合員ノ有スル表決權ハ各一個ノ外其ノ所有スル土地總面積三反歩ヲ

超過スルモノニアリテハ其ノ超過面積三反歩迄毎ニ一個ヲ加フルモノトス但シ一人ノ有スヘキ表決權ノ數ハ表決權總數ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條 本組合ニ組合會ヲ置ク

組合會議員ノ定數ハ二十九名トシ第一區及第三區十五名、第二區十四名トシ各區域毎ニ之レヲ選舉ス

第十二條 組合會議員ノ任期ハ五ヶ年トス

第七條第一項ノ但書及第二項、第三項ノ規定ハ之レヲ組合會議員ニ準用ス

第十三條 組合會議員ノ選舉ヲ行フニハ組合長ハ選舉ノ日ヨリ少クモ五日前ニ選舉スヘキ議員數、選舉ノ日時及場所ヲ記載シテ各組合員ニ通知ヲ發スヘシ

第十四條 組合會議員ノ選舉ハ組合長、組合副長又ハ評議員之レヲ管理シ組合員三名ノ立會ヲ以テ之レヲ行フ

第十五條 組合員ニシテ滿二十五年以上ノ男子ニアラサレハ組合會議員ニ選舉セラル、コトヲ得ス

第十六條 組合會議員ハ各選舉區内ノ組合員連記々名投票ニ依リ之レヲ選舉ス其ノ得票同一ナルト

キハ年長順ニ依リ同年ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ規定ハ前條ノ場合ニ準用ス

第十七條 組合員ハ代理人ヲ以テ前條ノ選舉權ヲ行フコトヲ得但シ代理人ハ代理權ヲ証スル書面ヲ選舉管理者ニ差出スヘシ

第十八條 總會、總會議ニ於テ耕地整理法第五十條ノ條件ヲ具備スルコトヲ要スル事項ノ表決ニ付總會、總會議ヲ招集スルコト再會ニ及フモ猶ホ同條ノ條件ヲ具備スルニ足ルヘキ出席者ナキ場合ニ於テハ耕地整理法第六十八條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ表決スルコトヲ得

第十九條 組合會ニ於テ耕地整理法第五十四條第一項又ハ同第六十一條第二號若クハ第五號ノ事項ノ表決ヲ爲サンカ爲メ同一議事ニ付招集再會ニ至ルモ猶ホ耕地整理法施行規則第五十三條ノ條件ヲ具備セサル場合ハ組合會議員總數ノ半數以上ノ出席ニシテ出席議員過半數ノ同意ニ依リ表決ヲ爲スコトヲ得

#### 第四章 處務及會計ニ關スル規定

第二十條 本組合ノ事務ハ庶務、工事、會計ノ三部ニ區分シ組合長ノ定ムル處ニ依リ組合副長又ハ評議員之レヲ分掌ス

組合長ハ豫算ノ範圍ニ於テ技術員及事務員ヲ任用スルコトヲ得

第二十一條 庶務係ハ文書ノ調製、往復、保管及他ノ係ニ屬セサル事務ヲ掌ル

會計係ハ豫算、決算、金錢及物品ノ出納及保管ニ關スル事務ヲ掌ル

工事係ハ設計書ニ定メタル工事及ヒ設計並ニ工作物其他ノ設備ノ維持管理ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十二條 組合長ハ設計書及ヒ豫算ノ定ムル處ニ依リ直營又ハ請負ノ方法ヲ以テ工事ヲ施行スルモノトス

組合長工事ヲ請負ハシメントスルトキハ競争入札法ニ依ルヘシ但シ至急ヲ要スル場合若クハ金貳拾圓以下ノ小工事及ヒ評議員ノ決議ニ依リ認メタル工事ハ隨意契約ヲ以テ請負ハシムルコトヲ得前項ノ競争入札施行ノ場合ニ於テハ評議員及ヒ組合會議員中ヨリ各一名ツ、立會者ヲ設クルモノトス

第二十三條 組合長工事ヲ請負ハシメントスルトキハ競争入札ト隨意契約トヲ問ハス契約保証金ヲ

徴シ契約ヲ締結スルモノトス

第二十四條 第一條ノ工事ハ各區共通工事及ヒ各區專屬工事ノニ稱トス但シ左ノ區分ニ依リ難キ工事ハ各區協定ノ上施行スルモノトス

土地分合及各區ニ接續ノ道路、溝渠、橋梁等ノ變更廢置並ニ灌溉、排水ニ關スル設備工事及其維持管理ヲ共通工事トス

開墾、地目變換、區劃形質溜池ノ變更廢置其ノ他前項以外ノ設備工事及其ノ維持管理ヲ各區專屬工事トス

第二十五條 組合長、組合副長、評議員及ヒ組合會議員、顧問、相談役ハ報酬若クハ實費辨償、手當又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得

前項ノ支給額及支給方法ハ組合會ノ議決ヲ以テ別ニ之レヲ定ムルモノトス

第二十六條 本組合ノ金錢ハ組合會ニ於テ定メタル銀行又ハ個人ニ預ケ入ル、モノトス

### 第五章 補償金ノ標準及費用分賦ノ方法

第二十七條 耕地整理法第八條及第二十七條ニ依ル補償金ノ額ハ被害者ヨリ損害見積書ヲ提出セシ

メ評議員會ノ議決ヲ經テ組合長之レヲ定ム

第二十八條 工事施行中道路、堤塘、溝渠其ノ他ノ工作物ノ敷地ト爲シタル土地又ハ工事用材料置場ニ充テタル土地ニ對シテハ其ノ借賃ヲ見積リ評議員會ノ議決ヲ經テ補償ヲナスモノトス但シ第二十九條ノ規定ヲ適用スヘキ時期ニ至リタルモノハ此ノ限リニアラス

第二十九條 第三十二條ニ依リ使用スル土地カ工事濟ノ土地ニシテ其ノ收益力之レニ對スル土地ノ從前ノ收益ト異ル場合ニハ其ノ借賃ノ差額ヲ見積リ評議員會ノ議決ヲ經テ補償金ヲ徵收シ又ハ交付ス

前項ニ依リ保証金ヲ徵收シ又ハ交付シタル結果剩餘金ヲ生シタルトキハ之レヲ組合費ニ充當スルモノトス

第三十條 組合費ハ豫算ノ定ムル處ニ依リ第三條ニ定メタル各區ノ區域毎ニ第三十三條ノ第二項ノ金額及ヒ第三十五條ノ清算剩餘金ヲ以テ充當シ尙ホ不足ヲ生シタル場合ハ從前ノ土地面積ヲ標準トシテ分賦ス但シ各區ニ區分シ難キ費用ハ舊民有土地面積ノ比例ニ準シテ分擔スルモノトス

第三十三條及第三十五條ノ處分前ニ於テハ組合費ハ借入金ヲ以テ處理スルモノトス、第三十二條

及第三十三條第二項ニ依リ指定又ハ交付シタル後埋立ヲ爲シタル費用ハ其ノ土地ノ特別負擔トシ  
テ其ノ權利者ヨリ之レヲ徵收ス

第三十一條 組合費及本規約ノ規定ニ依リ徵收スヘキ金銭ノ納付ノ期日及ヒ場所ハ組合長之レヲ定  
メ納付期日十五日以前ニ各組員ニ通知スルモノトス  
前項ノ徵收金ノ納付ヲ怠リタルトキハ其ノ延滞日數ニ應シ金百圓ニ付一日金四錢ノ割ヲ以テ延滞  
利子ヲ徵收シ督促一回毎ニ金二十錢ノ過怠金ヲ徵收ス  
耕地整理法第七十九條ノ規定ニ依リ市町村ニ於テ滞納處分ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ徵收金額ノ百  
分ノ四ニ相當スル過怠金ヲ徵收ス

### 第七章 換地處分及ヒ土地使用ノ方法

第三十二條 耕地整理法第三十條第四項ノ告示前ニ於テ工事ニ妨ケナキ限り組員ハ其ノ所有地ヲ  
使用スルコトヲ得但シ従前ノ地域ニ依リ之レヲ使用スルコト能ハサルトキハ組合長ハ相當ナル使  
用區域ヲ指定スルモノトス

第三十三條 換地ヲ交付スルニハ組合設立及ヒ地區變更認可當時ノ土地臺帳ノ地目、面積、等位ヲ

標準トス但シ換地ハ其ノ交付ヲ受クルモノニ利益ナリト認ムル位置ニ於テ可成取纏メテ交付スル  
モノトス

前項ニ依リ難キ土地アル場合ハ組合長ハ各筆毎ニ豫定價格ヲ付シ組員中ノ豫定價格以上ノ希望  
者ニ之レヲ交付シ其ノ金額ヲ組合費ニ充當スルコトヲ得

従前ノ土地カ少面積ニシテ適當ノ換地ヲ交付スルコト能ハサル時又ハ特別ノ事情アル場合ハ換地  
ヲ交付スルコトナク金銭ヲ以テ清算スルコトヲ得

第三十二條ノ但書ニ依リ使用區域(假換地)ヲ指定シタル後ニ於テ區ヲ分チ各區毎ニ耕地整理法第  
三十條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テ従前ノ土地ト其ノ指定セラレタル使用區域カ區ヲ異ニスル時ハ従  
前ノ土地ニ付テハ其ノ所屬區ニ於テ金銭清算ヲ爲シ使用區域ニ付テハ其ノ所屬區ニ於テ特別ノ處  
分ヲ爲スロトヲ得

公共團體若クハ特別ノ事情在ル者ニ對シテハ特ニ土地ヲ有償又ハ無償ニテ交付スルコトヲ得  
前各項ノ規定ニ依ル處分ノ結果ヲ生シタル殘餘地ハ組合ノ所有トナシ之レヨリ生スル利益ヲ以テ  
各區毎ニ維持管理ノ費用ニ充ツルトヲ得

第三十四條 換地交付ニ關スル土地各筆ノ評定價格及評價ノ清算ハ各區毎ニ工事完了後之レヲ行フモノトス

第三十五條 換地交付ニ關シ徵收又ハ交付スヘキ清算金額ハ從前ノ土地評定價格ト換地ノ評定價格トノ差額トス

前項ニ依リ清算ノ結果剩餘金アリタルトキハ之レヲ組合費ニ充用ス

換地處分認可前ニ於テハ清算金ノ一部ヲ豫納金トシテ徵收スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條ノ規定ヲ準用ス

第三十六條 第三十三條、第三十五條ノ清算金ハ組合費ニ充當シ尙ホ剩餘金アルトキハ之レヲ從前ノ土地ノ評定價額ヲ標準トシテ按分配當スルモノトス但シ組合長ハ組合會ノ議決ヲ經テ配當ニ關シ別ニ適用方法ヲ定ムルコトヲ得

第三十七條 從前ノ土地各筆ノ等位及ヒ價格ハ評議員會ニ諮詢シ組合長之レヲ評定シテ耕地整理法施行規則第五十三條ノ條件ヲ具備スル組合會ノ議決ヲ經ヘシ

換地トシテ交付スヘキ土地ノ等位及ヒ價格ハ工事完了後評議員會ニ諮詢シテ組合長之レヲ評定シ

耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ニ付表決ヲナス總會議ノ議決ヲ經ヘシ

第三十八條 本組合ノ事業年度ハ五月一日ヨリ翌年四月三十日迄トス

第三十九條 第三十五條第一項(換地清算金)ノ徵收金ハ換地處分認可後其ノ金額ニ應ジテ二回若クハ三回ニ徵收シ交付金ハ第二回ノ徵收ヲ了リタル後ニ至ル迄其ノ支拂ヲ行ハザルコトヲ得

前項ノ徵收金ハ昭和八年十二月迄ニ其ノ徵收ヲ了リ各回ノ徵收金ハ分納若クハ延納ノ承認ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條ノ二 受クヘキ換地ノ權利面積ヨリ交付セシ換地面積ノ不足セル組合員ニ對シテハ第三十二條ノ假使用(假換地)收益不足補償金ヲ交付スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ第二十九條ノ規定ヲ適用セス

前項ノ規定ハ換地處分認可告示ノ日ノ清算ニ依ル

第一項ノ規定ハ第三區ニハ適用セス

第三十九條ノ三 組合長ハ組合會ノ議決ヲ經テ各區選出ノ評議員並ニ組合會議員ヲ以テ組織スル區會又ハ其ノ聯合會ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

區會又ハ其ノ聯合會ハ各區又ハ兩區共通ニ屬スル施設若クハ財産處分等ニ關シ總會、總會議又ハ評議員會、組合會ノ表決ヲ求ムヘキ議案ニ付豫メ審議ノ上其ノ意見ヲ評決スヘキモノトス但シ法定會議ノ專屬決議事項ニ付キテハ此ノ限りニアラス

區會又ハ其ノ聯合會ノ評決ハ總會、總會議又ハ評議員會、組合會ノ表決ニ付スベキ組合長ノ提案並ニ各法定會議ノ審議ヲ妨グルコトヲ得ス

第四十條 組合員ハ換地ノ丈量ニ誤謬アリト認ムルトキハ換地交付ノ表決後三十日以内ニ於テ再調査ヲ請求スルコトヲ得

前項再調査ノ結果誤謬ナキトキハ其ノ調査費ハ請求者ノ負擔トス其ノ誤謬カ三百分ノ一以内ナルトキ亦同シ

第四十一條 本組合内ノ土地ニシテ權利義務ニ異動ヲ生ジタル時ハ遲滞ナク之ヲ組合ニ届出ズヘシ

第四十二條 土地ノ所有權ヲ移轉セントスルトキハ組合員ハ豫メ組合ノ承認ヲ受クベシ

第四十三條 耕地整理法施行規則第十九條、第十九條ノ二及ヒ地價配當案ノ基礎ニ影響ヲ來サ、ル修補ニ限り評議員會ノ議決ヲ經テ之レヲ變更又ハ更正スルコトヲ得

換地説明書ノ違算又ハ文字ノ脱漏、誤謬等ハ便宜組合長ニ於テ補正スルコトヲ得

### 第三章 工事施行の状勢

#### 一、第一期組合設立當時に於ける工事施行の計畫

主として道路の完成を圖り、南北幹線として、地區内中央即ち現今に於ける東郊通一丁目動物園前電車停留場より南へ、堀田通六丁目(牛巻電車停留所まで)に至る一直線に幅員八間、東西幹線として、現今の瀧子通三丁目(瀧子電車停留場より)より西へ、新堀川に至る間に、同じく八間の道路を開鑿し、東西南北約六十間毎に、幅員二間の道路を並行せしめ其他支道を開き、以て交通耕耘に便ならしめ各道路の中間に、幅員一間の用悪水路を設け、用水の源泉は主として地區内の溜池を以て之れに充て、悪水は新堀川へ吐出せしむるの計畫を樹て、用排水の遺憾なきを期し、大正二年九月二十一日工事に着手し、同六年十月竣了せり。

#### 二、計畫に於ける當時の輿論

組合設立當時の思想としては、假令其の理想として名古屋市街の發展上、田園都市を形成するの

期至るとしても、それは遠き將來の問題にして、地區の地勢田畑相半はし、濕地の耕田と高臺に屬する畑地、然かも御器所生産の著名とする大根畠の多きを占め、米作亦水害の爲め平年作を得るに究々たる状態なるに於ては、耕地整理事業を超越する、道路の開鑿は蓋し意表とする處にして、時の縣長官にてすら、八間道路の成るや、其の無暴を笑はれたる程なりしを以て、組合員即ち土地所有者を始め、小作者の何れもが工事計畫を頗感せしが、以先東西、南北八間幹線の工了はり、道路の形ち成るや、人馬の通行は愚ろか、雜草繁茂に任せ、其の刈取りに腐心する有様なると、然かも街路樹として公孫樹の苗木を植立せしに、沿地作物に障りありとして是を拔取り一樹も餘さず、殊に組合設立以來轉々せる事務所を、南北幹線の起點に沿ひ、半洋館式の建築を遂げ是れに移りたるに、四周一棟の家屋存せず、ただ視る地區一帶の遠望の眺めあるのみにて、電燈電話を布くに頗る困難を極めたる状態なりしかば、耕耘者の何状態すべき、即ち大正三年三、四月頃より御器所部地主の一部主唱、衆之れに和し、紛々擾々、時に組合長の憤恚却て導火線の如く紛擾其極に達し組合會議員の交迭、屢々を重ね、一旦稍緩和の曙光を視しも、時恰も全國的米騒動勃發するや又も再燃し、役員宅膝詰談話を試み、焼き打ちをも敢て爲し兼ねる等の宣傳

其極に達し不穩の景勢頻りなりしも、同氏は往年に警官郡長の如き職責を果たしたる体験者として克く是に堪へ自重組合總會を招集すること再々に及ぶも毎回成立するに至らず、地主會又は總代會其他評議員會組合會を開くこと屢々なるも、却て反對氣勢益々昂るのみにて收拾の期圖り難く、時に招集を受けざる役員、事務所に參集し來り、終日事務室内筵敷板の間に跪座、罵聲怒聲を放ちて止まざるも、組合長笹原辰太郎氏は、端然自若近き將來を思へとの態度にて、一言も發せず、無言の裡に夕刻、自然退散を敢てせしめたることもありしが、遂に大正三年十一月流石の組合長も責を負ひ、辭任せしに組合幹部の激勵慰留漸く其意を翻し大正四年三月再び其職に復し、役員たる長谷川糾七氏を始め、熱誠なる識者の擁護のもとに其理想を托げず、自己の策畫を遂行し以て第一期工事の完成を告げしむるに至りたり。

### 三、工事計畫の變更

(1) 一部施行の變更(地區の變更) 地區内に存する數個の溜池は、組合設立當時に於ては之れを除外しありしが、灌漑善處の方法を期する上に於て、其の改修の必要切實に迫りしを以て、各所に散在する溜池全部を地籍管理町村長の同意を得て大正二年十月二十七日認可を受け地區に編

入し此の結果御器所町池内天池(龍興寺池)貯水を灌漑に利用し盡したるときの豫備として、其の本源たる千種街道東部に位置を占むる、同町地内廣見ヶ池をも改修し置くの必要を痛感し、管理村長と數次の折衝を経て、其の同意を得大正五年五月十一日認可を受け、次いで同年十月十六日認可龍ヶ池及び附近の土地を地區に編入し、大いに農業上土地利用の増進を圖り之れが溝浚工事の施行を企畫すると俱もに、一面整理施行の利益擴充を圖り、大正十一年八月二十四日認可を受け御器所町字西狭間外二字の一部現今の狭間町一帯を、大正十二年四月十九日認可を受け、同町字小針に於ける中央線鐵道以西舊精進川敷及び其の隣接道路の一部を同十二年十月十六日認可を受け、地域内全般に亘り各所に散在する除斥地にして、整理の須要を感じる總べての土地を編入し、沿く整理の利益を均霑せしむることとし、工事に於ける道水路の貫通又は新設を全からしめたり、然るに之れより先き縣に於て郡廳舎移轉の議成りしを以て、大正六年七月四日認可を受け、廣見ヶ池西端の一部を除斥し其廳舎敷地充用に當て、工事計畫の一小部分を變更せり、後ち昭和四年十一月十三日地區全般に亘る、最後の設計變更並に地區統制による散在地及び第三區地域編入の認可を受け、茲に全く設計と地區の異動を了へたり。

附記 工事計畫の變更に順應して工事施行の擴張を要するに、耕地整理による土地利用増進を得せしむる爲め、溜池以外に於ける當初の除斥地域を漸次編入せん合するに際し、關係土地所有者の認諾を受くるに難く再々折衝の後ち已むなく其の要求を容れ漸く同意を得たる者少なからざりし。

(ロ) 工事計畫全般の變更 時代の趨勢は大いに進展し來り、名古屋市街は大正七年九月市區改正條例の適用を受け、五大幹線道路の計畫成り、次いで大正九年一月一日より都市計畫法の施行と共に、専ら其施設計畫を進むるに伴ひしと、歐州大戰に於ける吾が國財界の好況を來したるとにより、本組合地區の景勢も亦趣を變じ、今や當初の企畫にかゝる農業上の利益増進を圖るべき、普通の耕地整理に甘んずる能はず、曩きに豫望せし、市街地形成の機運早くも到達せし傾向を來たしたり、然るに是れより先兵庫縣神戸市神戸西耕地整理組合役員にして、當組合地區を視察の爲め出張し來りしも、時恰も組合紛擾、然かも工事計畫喧擾の酣はなりし折りなりしかば、説明又は實地案内の如き待遇を顧みるの遑なく、任意の視察に任せしが、後日紛擾鎮靜後、當組合幹部役員謝辭使として、彼の地其の組合に出張せしに、其の組合は却て吾が組



合計畫工事の成立に範を則り得て、現時(其の當時)の理想的工事に着手し得たるを悦び、其の地區内の視察を求められ、謝辭使は面目を施しつゝ、一巡せしに、實に市街形成に遺憾なく、漸次人家建築の曙光明らかなりしを以て、大いに得る處あり、歸來組合長に復命と俱に、當組合役員の視察派遣を圖り、大正十年二月の交以來組合長始め役員數次視察し神戸市組合の急速發展(該組合は後ちに全國的發展の有數組合となる)と吾が組合工事計畫の無暴ならざるを認識し、遂に市街地耕地整理組合として全國に模範を示さんとの大勇猛心を起し、示來銳意市街地としての施設に意を用ひ、名古屋市の都市計畫に順應し、耕地整理の目的に離反せざるを楯とし次に示すが如き既成工事の設計變更に着手せり。

(ハ)第二期工事ノ計畫 前號に説きし動機と勇猛心とに依り工事變更の計畫を樹立し、大正十年

五月是れが工事に着手し同十二年五月其の工を了へたり、計畫大要左の如し。

(A) 主要道路は一問乃至二間の幅員を擴張し車馬の交通に便する事

但し幹線八間道路は此の限りにあらず。

附記 幹線八間道路は、八正十三年六月九日附内閣總理大臣の公告により、名古屋市都市計畫道路一等大路

第三類第四號路線幅員十三間半(南北幹線)同十四號路線幅員十三間半(東西幹線)と認定せられ此他  
未成線として一等大路第三類第七號島退線(幅員十三間半)同第八號神宮線(幅員十三間半)を認定せ  
られたり。

(B) 大部分の耕地は水田にして、既設道路は高きに過ぐる爲め埋立困難なるを以て適當なる  
程度迄の(高きは約四尺、低きは約一尺)切下げ工事を施し、各筆土地埋立並に建築に便ならしむること。

(C) 幹線八間道路には客間五分、其の他の道路には全部客間二分五厘の側溝を道路の兩側に設  
くること。

(D) 車馬摺り違ひの便を圖る爲め、道路交叉點全部(八間道路の交叉を除く)四隅の街角を適  
當に剪除すること。

附記 第一區内の交叉は二間道路に對し「一問」三間半道路「一問半」四間道路「二問」其他の道路は幅  
員の二分の一、第二區内の交叉點は總て一問剪除す。

(ニ)溜池の廢止 田園整理の目的は、自然の趨勢上進んで、都市形成の宅地整理に變更せざるを  
得ざるに至り、舊來唯一の用水源泉として、重要視されたる各所の溜池は究竟存置の必要なき

のみならず、却て低地浸水の害を蒙る因を爲すの虞れあるを以て、斷然廢却埋立に決し、溜池總面積第一區十四町一反二畝七步四合、第二區二町六畝十九步、合計十六町一反八畝二十六步四合の埋立による設計變更を大正十一年十一月九日第一區御器所町天池（龍興寺池）を始とし同十二年四月二日其餘の溜池に就き本縣知事へ申請せしに慎重審議の結果、第一區御器所町廣見ヶ池及び天池は同年十二月八日其餘の溜池は同年十二月三日認可を受け第三期工事としての全部の溜池埋立てを了はりたり。

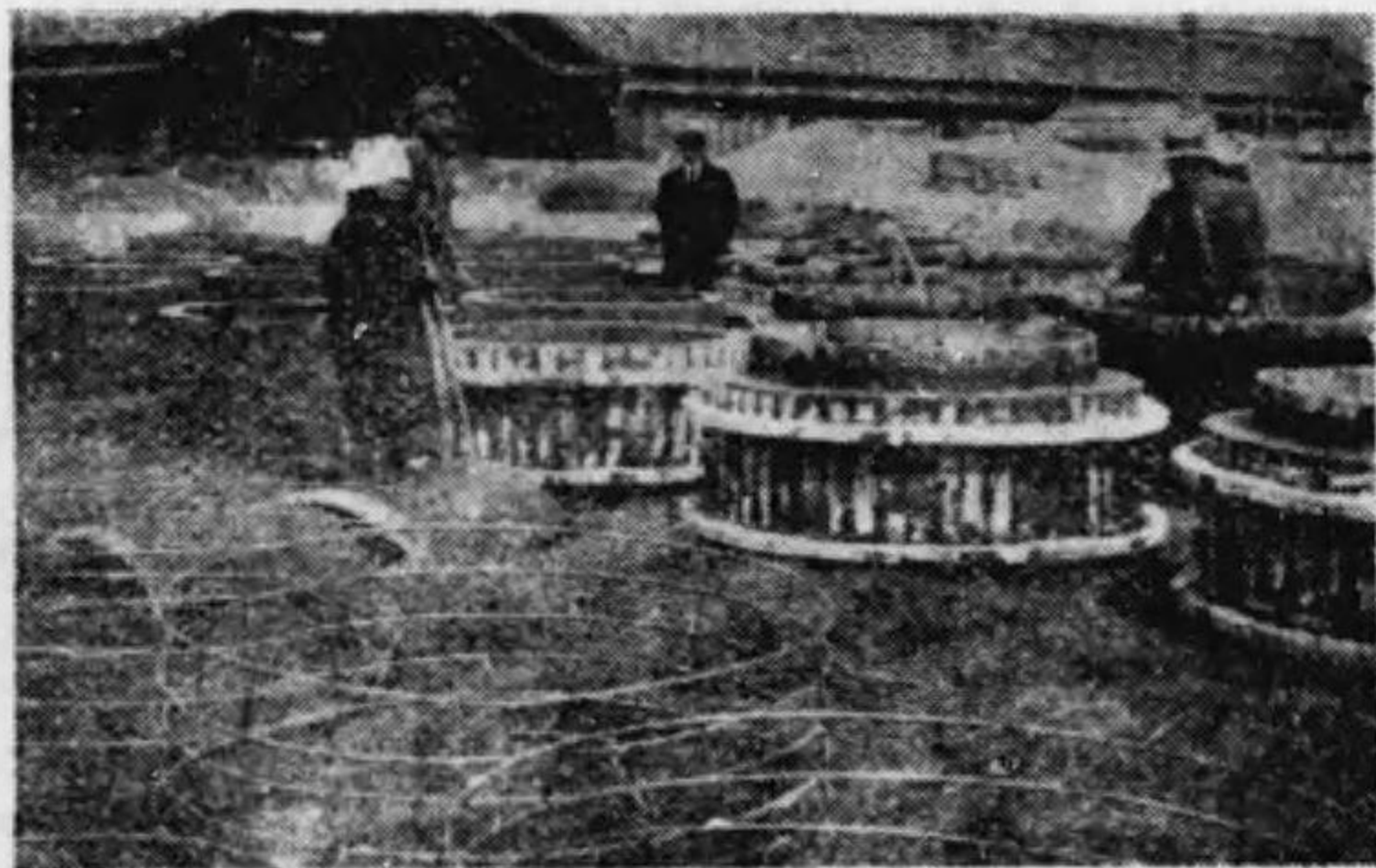
#### 溜池に關する餘説

當初即ち大正五年地區内に散在する、各溜池を編入せんとするの企畫は、各溜池の浚渫を行ひ、貯水を豊富ならしめ一面浚渫土砂を以て、低濕耕地の埋立（地上げ）に充用せしめ、用水の涸渴を防ぐと共に、低惡地を良地たらしむるの理想に外ならざりしが、都市進運の趨勢は遂に溜池を不用に歸せしむるに至り編入當時廣見ヶ池の編入に際し地籍御器所村長の如きは灌漑の須要を強張し、折衝を重ね漸く之を承認せし程なりしが、時勢の然らしむる處と言へば、廢却の要に迫りたるは感慨深かりたり、然るに市區編入の爲め地籍の移屬せし名

古屋市は其管理を楯とし、灌漑水利權侵害の企てなりしとて、特に廣見ヶ池を主とし埋立による設計變更を認めず、縣當局に對し種々陳情果ては自己の主張を破却するが如き、公有水面埋立て申請を爲し「グラウンド」設置を試み或は漁業權繼續を認むる等の擧を以て極力廣見ヶ池の埋立を拒み縣、市兩當局と組合との對策關係を高漲せしむる等種々法理と事實との紛糾を高め時の組合長宮田勘三氏の如きは、組合委員と共に市折衝委員と極力楦俎折衝に是れ勵め其の勢誠なる努力は、遂に縣知事の裁定を仰ぐに至り、組合側は相當の讓歩を爲し、同池埋立地の中央にて八千坪市へ無償交付を諾し、覺書交換の上漸く埋立ての認可を受くるに至り、漁業權賠償も亦其權利者と組合とに於て妥協的協定を遂げ、茲に溜池改善（全部）の目的を達することを得たり。

次に溜池問題に付きては、廣見ヶ池埋立に關する外龍ヶ池問題先きに起こり、即ち大正五年十月同池編入後境界再査に着手せしに、名古屋市は其管理する鶴舞公園内の一部と認めしによるか大いに驚き直に抗議を申込み再三折衝を行ひ漸く妥協的解決の下とに氷解するに至りたり

（\*第三期工事の計畫） 農耕地の本組合事業も亦市街地形我的自然化に伴ひ、地區の發展即ち建



大正十五年七月着工翌昭和二年四月其の工を竣へたり。

遺憾やる方なきを以て、既定の排水工に一大改善を施工の急務なるを來たし、其改善方法を講じ、良工を施すと共に既設の開渠

建築物増加の上へに、最も支障を來たしたるは、表現水路なるも之れを廢するときは、全然排水不可能に歸すべく、殊に人家稠密に隨ひ、雨水下水の停滞甚しく、夏期一朝大雨あらんか、低地部一帯は、恰も湖上に浮ぶが如き觀を呈し、大正十三年十月に於ける浸水は最も克く之れを証するに至りさなきに田園整理の理想の時に於てすら、灌漑排水に焦心せしにも拘らず、却て之れを裏切るの狀態に歸し、



瀧子水路排水管埋設工事中の景



廣見ヶ池埋立工事の景

を悉く暗渠に代へ道路構築に更めて以て排水の改善と土地の利用に便ならしめんとし、他面各溜池の埋立工を施し、土地利用を増進せしむると俱もに、工費約三十萬圓(第一區十九萬圓) (第二區十一萬圓)の豫算を以て、大正十五年七月着工翌昭和二年四月其の工を竣へたり。

(へ) 補全工事の施行

(A) 鐵道省線中央線北隣の小地域を以て第三區を新設し其の地區内に於ける幹線五間道路に連絡する、第一區内の南北第三號道路は幅員二間半の完成なりしも、其先線道路と幅員の軒輊ありては道路貫通の眞の目的を達せざるのみならず、發展に障害を來すを以て第一區にては殘工事として、工費約拾壹萬八千三百圓を費し幅員五間に擴張の企畫を樹て昭和三年之れを完成せしめたり。

附記 茲に於て第三區の梗概を記すこと左の如し

第三區は中區御器所町の西北隅に位し、中央鐵道線路



第三區七本松町通より岩井町線を望む

を隔て、第一區と接し、舊市内中央幹線岩井町線と新堀川との間に介在する地積約一萬四千坪に過ぎざる小地域なりと雖も、往古貫通せし、鳴海街道並木松残存の遺跡地として七本松と喩炙する土地なるも省線中央線の貫通と新堀川の開鑿とに依り田園遠景の眺めを失ふと俱もに古來より水運の便たりし、精進川は廢川に歸し、地區内の道路は屈曲甚しき細條の作道錯綜交通連絡頗る悪しく、隨て各地方への交通も單に其の鐵路又は河川を眺むるに止まり遠近を問はず、極めて不便、而かも雨下水の排除最も悪しく衛生の不良亦言語に絶するを以て、大正十二年精進川の廢川敷を地區に編入の認可を受け事業進行上の機運を待ちしに大正十五年頃に至り、恰も名古屋市に於て幹線岩井町線の補助道路として工費約六萬圓を投じ海前電車停留場より、南行して延長約六十間幅員五間道路を開通

せしめたるを以て、好機至れりとし、其の道路に接続し、精進川廢川敷を全部敷地に充て幹線道路として幅員五間道路を貫通せしめ、是れに三間半若くは二間半の支道を設け、加ふるに排水管の埋設を全からしむる計畫の下とに其の工を竣はれり、然るに此の工の協賛と其土地發展の充善を歸する爲め、第一區に於ける南北第三號道路幅員再擴築の工事を施したるを以て、海前電車停留場より、本組合の都市計畫第十四號路線高辻通に直通し、東郊通電車線路の街路と相併行して、熱田海岸に於ける水産物陸運の捷路と爲り交通の便害壞の差を來すに至りたり。

(B) 本組合第一、第二兩地區に亘り都市計畫路線の認定を受けたるもの四線を有し、此の内二線は東西南北幹線道路として、完成せるも未成線二線あり、然るに其内第一區の一等大路第七號島退線は組合經濟上是れを完成せしむるに至らざりしが、第二區に屬する同第八號神宮線(幅員十三間半)に付きては、道路管理者たる名古屋市の着工を俟つときは、同市の財政上其の期を豫測し難く、殊に同市着工に依るときは受益負擔の過重豫想に難からざるを以て、該路線關係の土地所有者の協同懇請に依り、工作物賠償費並に道路敷地、代償金を關係土地所有者

に於て負擔することの協約の下とに、該路線開設の工事を行ひ、昭和四年に至り道路の構成を了はりたり。

#### 四、工事實施の概況

工事は規約の定めに基き毎年度組合會の議を経たる着工豫劃と其の豫算とに依り、設計書に基き、仕様書を作製し、急施工事又は一廉二十圓以下の小工事を除く外、工事受負規程に依り競争入札に附し、受負者を定むるを主とし、特に評議員會の決議を経たる工事に限り、隨意契約を以て請負はしめ、適確に受負契約を締結し、工事に着手し、其監督に至りては時に役員中より工事分掌若は特定監督を囑託するは言を俟たず、常に技術員を派し嚴重監督せしめ、殊に土管の檢定並に暗渠の整堀等には最も意を用ひ、充全を期し絶へず、道路機構の全きを圖ると共に不時災害の應急工事等、萬遺憾なきを期したり、たゞ理事者の最も苦慮せる處は工作物賠償にして、關係者の見積り書に依り審査を重ね折衝宜しきを圖るも、往々にして交渉難關に接するものありしが、幸に裁判力を請ふに至らず、究竟無事解決を了はり、障害物の爲め已むなき設計の變更を來す等の不幸を視るに至ることなかりたり。

### 第四章 組合の監理

一、役員 本組合は規約の定むる所に依り組合長一名、組合副長二名、評議員十六名、組合會議員二十九名、大地主級に屬する組合員中より選ばれたる適任者其の職に任じ、以て事業施行の監理に膺り、若干の顧問、相談役を置き機宜に適する員數の職員を用ひ庶務、會計、工事等各般の事務を處辨せり、然して組合副長以下組合會議員に至るまで各選出區を定め、任期は全役員(組合會議員は、代議員と呼稱し役員に含ましむ)何れも五ヶ年とせり但し組合設立以來多少の變更あり

(イ)役員選出區域 (現行規約に依る)

組合副長第一區及第三區一名、第二區一名計二名

評議員第一區及第三區八名、第二區八名計十六名

組合會議員第一區及第三區十五名、第二區十四名計二十九名

(ロ)解散當時に於ける役員左の如し

組 合 長(組合會議員を兼ね) 正 田 義 助

組合 副 長 (一名欠員) 片 桐 鎌 吉

評 議 員

第一區及第三區選出

會計分掌 高柳光重、加藤丈左衛門、久野喜代治、荒川啓三郎、荒川幸太郎、見田重次、塚崎貢、八木大次郎、計八名

第二區選出

會計分掌 伊藤政次郎、伊藤邦太郎、水野忠三郎、篠田俊太郎、篠田幸藏、日本車輛製造株式會社、森部鐵三郎、福島増雄、計八名

組合 會 議 員

第一區及第三區選出

岡本徳松、加藤三代吉、横井吉太郎、村瀬猶吉、荒川又次郎、櫻木亀次郎、木村文翁、三尾太傳次、柴田甚藏、疋田義助、廣瀬喜代治、都島輝壽、計十二名(三名欠員)

第二區選出

大曾根仙造、大曾根長治郎、近藤廣作、荒川竹次郎、荒川源三郎、篠田金次郎、日本碍子株式會社、岡崎幸作、加藤秀一、飼沼光造、野村仲太郎、山田與會次郎、奥村哲次郎、計十三名(一名欠員)

第一區相談役

飯 島 亮 之 助

第一區顧問

荒 川 幸 助

附記 設立以來解散に至るまで、役員として勤続せられたるは、第二區選出の現組合副長片桐鎌吉、現評議員水野忠三郎の二氏あるのみなり

役員物故者 (在職中死亡せしもの)

組合長宮田勘三、組合副長溝口清九郎、組合副長長谷川糾七、顧問佐藤清三郎、同野村定吉、同加藤重三郎

評 議 員(第一區選出)都島丈太郎、廣瀬延太郎、横井兼次郎、近藤爲吉

組合會議員(第一區選出)横井覺右衛門、久野梅太郎、加藤善太郎、荒川錠吉、林一郎、松永庄造、八木庄次郎

(第二區選出)大曾根慶次郎、篠田長右衛門、横田久三郎、安藤久藏、落合忠治、近藤

勝一、青山鉞四郎

前役員たりし者

組合長笹原辰太郎、組合副長山上芳太郎、顧問世間瀬千代松  
評議員(第一區選出)荒川幸助(現第一區顧問に再任)

(第二區選出)竹内兼吉、伊藤金太郎

組合會議員(第一區選出)高橋丈太郎、近藤今三郎、加藤啓十郎、伊藤源之助、飯島増次郎、都島  
金作、安藤徳三郎、宮田貞次郎、田島常吉、柴田又藏、愛知和助、柴田  
竹藏、横井久右工門、松永丙内

(第二區選出)荒川平三郎、福島利右衛門、花岡清藏、小出藤十郎、福島金次郎、横田  
増吉、加藤傳右衛門、落合信一郎、鈴木虎之助

二、職員 職員は事務の繁閑に依り、員数の増減常ならざりしが、換地總會議準備に際しては一  
時四十名内外を算せしも、漸次減員を來たし、解散に際しては左の四名に過ぎず

元主事現清算事務囑託 埜々山 鶴三郎

書記兼主事 水谷 一

書記 宇野 武吉

技手 越野良平

三、役職員の功績 組合長以下組合會議員に至る迄何れも熱誠努力事業の遂行に盡瘁し、優劣

なきも理事者側として其職に任せし役員中功勞最も顯著なる者の業績左の如し

元組合長笹原辰太郎氏 氏は本組合設立前愛知郡長を奉職し、夙に舊名古屋市隣接郊外の將來を  
達觀し居られ、土地の整理所謂遠くて近き市街地形成の區畫整理の大理想を抱持し、地方有力  
地主に勸説懈らざりしも遺憾ながら時早く、同氏の理想に共鳴する者多からず、議の纏るに至  
らざりしが、獨り吾が東郊耕地整理組合は豫想地域内に於ける舊精進川廢川敷約三萬坪の無償  
交付を唯一の財源として起業し得る信念の下に、一面縣市當局の度量的諒解を得極力關係者  
に解説を努め是れに名望家片桐藤吉氏外二三の有力者深く讚望し、各地主の賛同を得るに精根  
を盡し、漸くにして組合成るや氏は擧られて組合長の職に就き示來氏の豪膽なる性格の下に  
當時意表の畫策を樹立し、時の縣當局の一笑或は地主の激昂を來すも更に意に介せず耕地異數  
の幅員八間道路を開鑿貫通せしめ、或は散在する國有大溜池の改善方策を企て、確く其の目的  
の貫徹を期し、地區發展の誘引策に腐心し、大工場の誘致或は家屋建築の利便に焦慮する等粉

骨碎身の勞を厭はざりし然るに世勢の變遷に依るとは雖も蓋し氏として豫期せざる發展の期を  
 早め、大正十二年氏が借しくも當組合を去る頃より長足の進運を來たし、今や或は氏の豫期以  
 上の市街地を成し、土地の利用高潮の長點に達せしは、組合として實に氏の光庇に依るものと  
 し、深く其遺蹟を讚稱するに吝かならずとす

故組合長宮田勘三氏 初代組合長笹原氏は所謂事業家とも稱せらるべく、其畫策の大抱負を遺憾  
 なく實行せられ、今や完了の土地清算期に入るに當り突如其の職を去られ、組合は其後任難に  
 遭遇せしが、恰も曾て職を農商務省に奉し、耕地法規に精通然かも耕地整理調理の權威者にし  
 て、曾て組合の顧問を依頼し居りたる、宮田勘三氏の當時閑地に在るを幸とし、擧げて組合長  
 の後繼に任じたるに、氏は其精通の技能を以て前組合長の難關とせし、溜池改善による設計變  
 更の認可を得るに全力を注ぎ、名古屋市の唱ふる異議の圓滿解決、遂に其の變更を法理並に事實  
 上共完全に實行し、利用土地を擴大せしめ、組合の財政を鞏め、街衢として充全を期する排水  
 の工を遂げ或は新たに工區の擴大を行ひ、其地域の整正土地利用の改良を圖り其蹟を擧げ、終  
 局に於ける企工の美成を達せしめ、耕地整理業者の最も焦心する換地處分の總會議も滞りなく

監督廳の認可を受け、將さに換地處分實行の期に入らんとするに際り、不幸病を得る瞬間死去  
 せらる、惜みても餘り有る處にして、笹原氏に次ぎ其功績は最も讚仰する處なり

正田義助氏 氏は大正十三年組合會議員に任じ、時恰も完了期に入りしとて溜池改善又は電車  
 連絡（舊市内との連絡）其他各般の難案審究の任に力を盡し、故組合長宮田勘三氏の死後、組  
 合副長に擧げられ次いで組合長の職務代攝の任に膺り、後ち組合長の繼任に就き、換地處分實  
 行の期、不幸にも財界沈淪換地清算徵收金回収の至難期にも不拘、克く回収の目的を果たし、  
 一面第三區の企業に際り宮田組合長を佐け其業を遂げしめ、第一區南北第三號道路の擴築、以  
 て第三區の幹線道路に連接する遜色を去らしめ、各區財政狀態の調節に努め、以て組合最後の  
 美果を收めしむるに餘念なし、蓋し其心勞は最も多とする處なり

故長谷川糾七氏 氏は組合設立に共鳴し組合成るや同時に評議員次で、組合會議員後ち組合副長  
 等の要職に任じ、常に機務に參畫し、組合長を輔け其企策の過超を諫め、足らざるを補ひ  
 常に豪膽克く難關を解き或は電鐵敷設に多大の努力を拂ふ等誠意力を盡されたるに、不幸病を  
 得て在職の儘死去され、有終の美を觀られざりしは、遺憾なると共に其遺蹟は忘る、能はざる



片桐藤吉氏 氏は故笹原氏と同じく前途達觀の明を有せらる、地方の有力者にして幾多公職を果たされしが、笹原氏の吾が組合を懲慙せらる、や、双手を舉げて之れに協賛し東奔西走成立に努め、其成るや評議員次いで組合副長の任に就き、熱誠克く組合長を輔け時に經理の任又は組合長職務代攝に膺り、笹原組合長の起工せる幅員八間の大道路に連接し、進んで地區外に屬する地域に幅員四間の協賛道路を開設し、以て吾が地區發展の因素となるべき電車開通の畫策達成を圖る等、種々苦心、時に當時全國に範を示したる神戸市に於ける、市街地整理の進展を先んじて視察し、是れを役員に紹介以て第二期改善工の動機を得せしめ、或は組合員其他の不満を解氷せしむる等誠意力を盡し今に至らる、蓋し其辛勞最も多とし記憶に止むべき處なりとす

高柳光重氏 夙に本組合議決機關の要職に任し、經理の衝に當ること再回到迫り、克く組合經濟の調理に意を用ひ、曩年株式會社愛知農商業銀行の破綻次いで株式會社村瀬銀行の營業休停に際しても、事前に於て細心の注意を拂ひ、其損耗をして極めて低額に止まらしめ、或は終局の清算最も力を盡し、換地清算徵收金回収には特に意を注ぎ、以て非常時克く良果を舉げしむる

或は組合長の諮議、能く慎重攝理し、事業遂行の上に、熱心努力を盡されたる等、其勞組合は深く是れを多とする處なり

以上の外設立當時の組合副長山上芳太郎氏を始め、評議員、組合會議員の諸氏何れも、誠意其職務を全ふし、工事施行の調理或は經理の監督又は紛擾の解決等諸般に配意し事業の遂行に力を盡されたるは、組合の深く謝する所なり

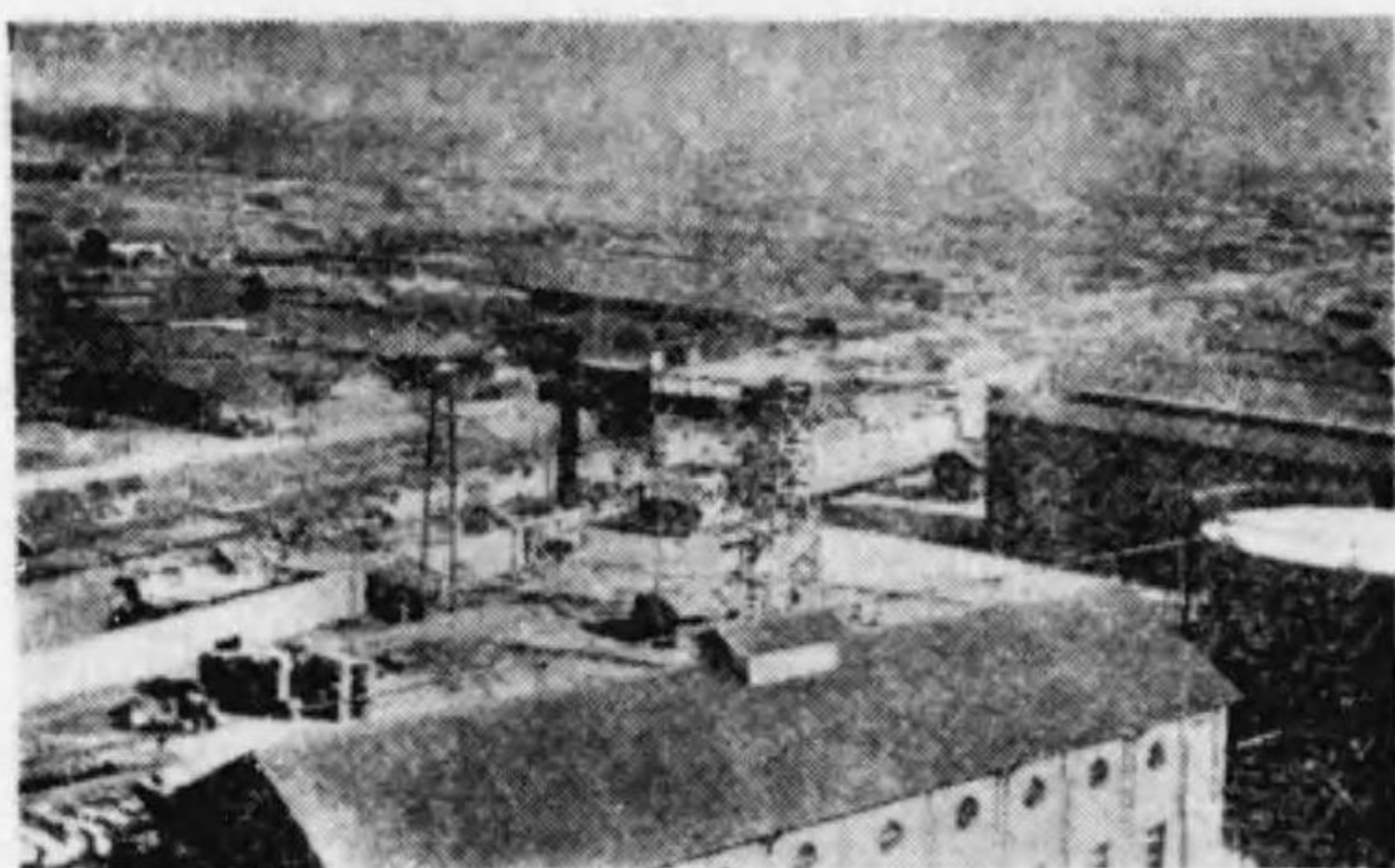
次に組合の職員も、亦何れも恪勤是れ勉め殊に換地總會議の直前、準備期間約三ヶ月間は主として換地事務員日夜の別なく、奮勉克く其擔任事務を果したるは、組合長を始め主腦部役員の激勵に依るとは雖も、總會議了るや、其職に在ると否との別なく、漸次病死者を出だせしは素より發病の動機如何に依るも遺憾の極みにして劇務の同情に堪へざるべく次いで總會議後に於ても煩難なる登記の調理と賃貸價格配賦其他換地清算實行の準備亦頗る煩雜なりしにも不拘努力を盡し其任務を果したる辛勞、亦多とするに足るべく就中元主事現清算事務囑託荻山鶴三郎の組合設立以來、献身努力克く外部の折衝換地の交配、地區發展策の講究等に意を注ぎ然かも齡古稀に達する今日に至るも尚ほ恪勤精勵を盡せしこと、次に會計事務擔任の書記宇野武

吉の如き、其性格廉直、上下に阿ねならず意思頗る硬堅、十餘年間の勤績、其間縣の細密なる出納検査或は役員各年度に於ける決算に對し嚴密なる鑑査を受くるも、一點の暗翳を止めざる或は完了事務主掌の任に當りし書記の如き勤績十年其の經歷による技能と、法の運用宜しきを圖り、煩雜複雜の難務を解く等常に攝務の外他念なく、換地處分其他清算實行の運行を完からしめたる等蓋し三氏の業績亦少なからず此の他工事擔任の技術者等各々其技能を發揮し、事業施行に最善の力を盡したり、終りに特筆すべきは技術顧問として、大正五年十一月招聘せし、元愛知縣耕地整理課技手、次いで蘇東耕地整理組合長たりし故野村定吉氏の第二期工事に屬する、道路切り下げ工事の設計の如き、土地の利用を増進せし程度の多大なるは、當時の組合長笹原氏の激賞せし所にして、氏の辛勞組合として深く偲ぶに足れり次に役職員にあらずして單に有志者たる故吉田亮二氏の大正三年組合紛擾策講の籌畫に參與、日夜斡旋或は電鐵敷設の地區發展に、全力を注がれたるが如き又は岐阜縣人故早川周造氏の電鐵敷設以て組合地勢の振展に、多大の辛勞を拂はれたる二氏の如きは組合の最も多として、是れを偲ぶ所なりとす

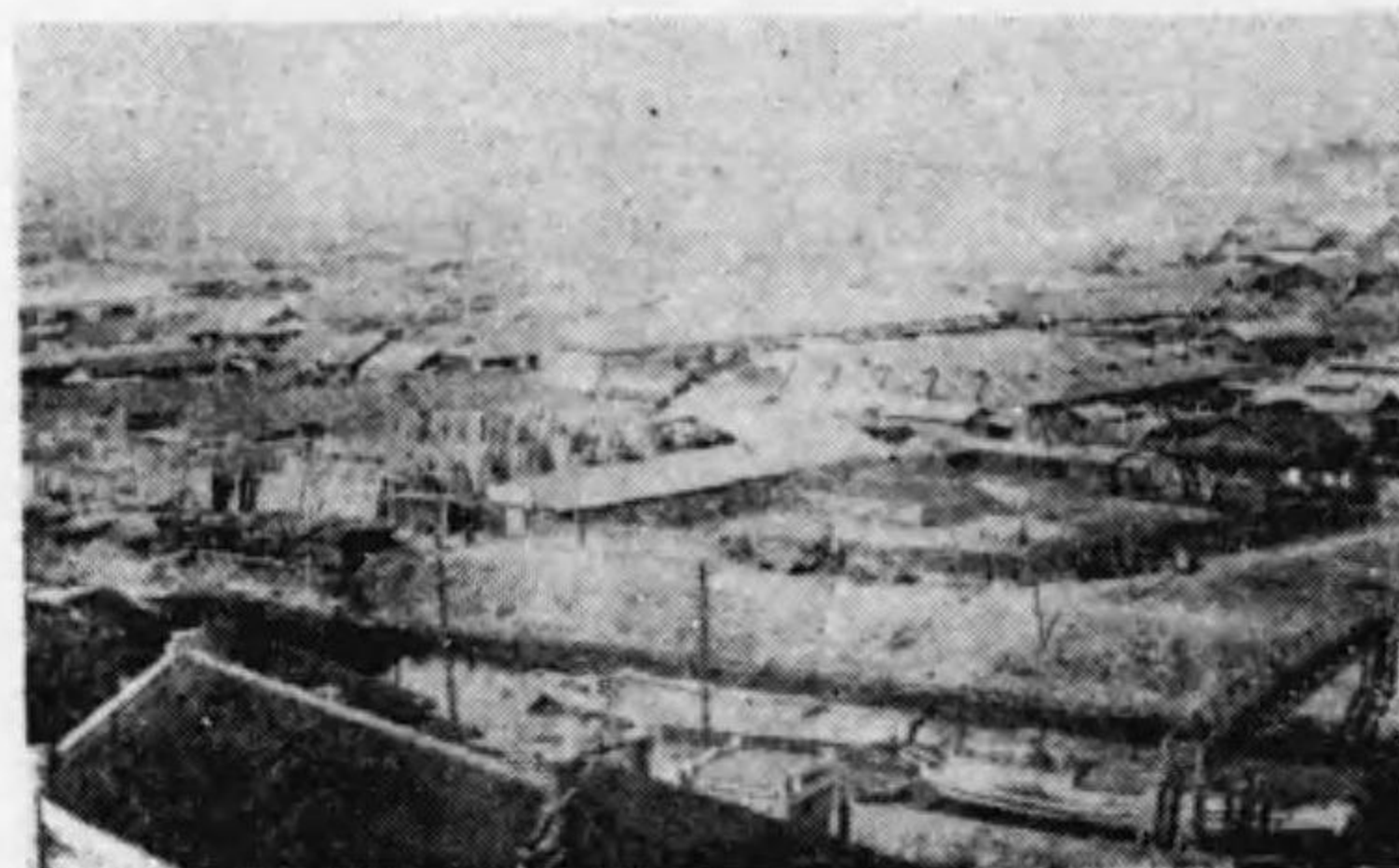
## 第五章 地區の發展

### 一、地區内景勢の變遷

組合設立當時は農耕本位を主とし、傍ら遠き將來は田園都市形成の豫



東邦瓦斯ケンより望みたる東南部一帶



同上瀧子方面

望を有せしを以て、其當時の局外觀よりすれば、恰も空想に等しき施設の下とに東西南北の大幹線道路幅員八間の開設と、是れに配するに概して二間又は三間の支道新設を設計し、大正五年に至り各道水路の工成りしも、未だ曠昔の觀を脱せず、

幹線道路を始め、各道路共、人馬の通行極めて稀にして、路面に雜草生ひ茂り之れを刈取するに日  
 も亦足らず、組合員は言ふも更なり耕作者の批難頗る激しく、遂には幹線道路の廢却をも叫ぶに至  
 り理事者の最も苦慮を極めたる處なりしも、時恰も歐州戰亂に遭ひ、偶々我國の經濟界に異例の好  
 影響を與へ、商工業は破竹の勢を以て、勃興したる結果、事業界の振展に伴ひ、日本碍子株式會  
 社、大正製糖株式會社、株式岡本自動車製作所、亞細亞製靴株式會社等を始め、幾多の大小會社  
 工場地區内に、集中し來りしとに依り、其の狀勢頓みに一變し農耕地整理本位の心理は雲散し愈  
 々都市形成の遠望は早くも其の期に到達するに至り、當初の企畫尙ほ足らず道路幅員を擴め、自  
 動車の運轉其他の交通に便を圖るを得ざるに至り路面の切り下げを施し其殘土を以て低地の埋立  
 てに充て、家屋の建築に便を與ふる等、地區の景勢は一段と向上し來たりたり

二、建物建築の趨勢

地區景勢の變遷を好機來れりとし、建物の建築獎勵に最も力を注ぎ、道  
 路の擴築、路面の切下げ等の工を行ひ其筋の注意と街路機構に支障を避くる爲め建築の都度承認  
 を與へ適地に商家又は住宅等在らゆる建物の建築を奨め、別けて幹線道路沿線を始め樞要路線を  
 主として、是れを勸奨せしに、大正十年以前は地區内を通じて僅々五十餘棟の建物に過ぎずして

漸く同十一年に

至り、百七十六

棟三百五十七戸

を算するに至り

企畫變更の工了

るや、著しく建

築を増加し、幹

線道路に電車開

通するや、忽ち

其數激増し、第

一區内の沿線は



瀧電子車停留所より北方文化住宅を望むる景



龜城町六丁目附近文化住宅地

店舗、娛樂場、市場、活動寫眞館等の建築起り、市街の形成全く成り、其他の路線亦何れも急速に  
 建築を進め第一、第二の兩區を問はず、店舗、住宅等其數を増加し、昭和二年竣工の式を擧ぐる

期に於ては、戸數にして約九千六百餘戸の多きを算し、解散の現今に於ては、裕に一萬二千を越ゆる戸數に上ぼり、人口亦五萬を下だらず、戸口の増殖に伴ひ、小學校々舎亦不足を告げたるに至りしかば、名古屋市は小針小學校を始め高辻、高田、御劍の四校を新築し尙ほ之れに波及して地區境に隣接し吹上、叢雲の二校を建て以て兒童收容の調節を圖るに至り、往年の田園を想ふときは恰も夢想の如し

自大正十二年四月(組合にて建築承認を始めた時) 建物建築統計  
至昭和七年十二月(同上) 承認停止の時

第一區	五千七十二棟	七千八百十三戸
第二區	二千七百十九棟	四千六百六十二戸
計	七千七百九十一棟	一萬二千四百七十五戸

附記 第三區は編入前既に相當の建物存在せしを以て進展の統計に加へず

**三、電車の開通** 電車軌道の敷設は素より耕地整理の目的たるにはあらざるも、本組合發展の生命線にして假令市街地形成の豫望を抱き居るとは雖も眞に農耕地の整理を目的とするならば何んすれど幅員八間の如き大道路を開設せんや、故笹原氏の底意は遠き望にあらず近く必ずや市

街地の望みを達することを得べく、それは舊名古屋市に密接する吾が地域なると同市の進展狀勢とを綜合觀察すれば蓋し無暴の理想にあらざるべし、されば市街地形成機構の主眼は一つに電車の開通に在りとせしなるべし、茲を以て電車軌道の敷設は(以下電車布設と稱す)組合設立前既に豫畫の要目たりしは言ふまでもなく、東西南北の幹線を之れに充當せんとするにありしなり、而して同氏發意の當時財界好況舊名古屋市を中心に、郊外への通路又は郊外循環を目的に、部分的敷設の諸電鐵會社簇出せしを以て必ずや何れかの會社より幹線道路の有償使用を申込み來るべしと、豫想せしに、不幸大正元年九月頃より急轉直下的に財界の大不況を來たし、逐日深刻を加へ爲めに初めの豫想は見事裏切り、數多の創立を企てたる、會社も殆んき雲散霧消し、組合の目的は遂に畫餅に飯したり、茲に於ては最早組合が司催者となり敷設に力を注がざるを得ざる場合に立ち至りしも、素より組合の事業として、行ふは法規の許さざる處なると經費の支辨に途なし故に屢々協議を重ねたる結果、組合員たる資産家にして曾ては貴族院議員たりし最も有力者たる、岐阜縣海津郡今尾町早川周造氏をして投資せしめんと懇々慫慂歡願的に勸誘せしに同氏も將來を達觀し、遂に快諾の上建設費として金拾萬圓何時にても支出すべく聲明せられたれば大いに力を得、愈々會

社設立の途に進まんとし、當時の評議員全員個人の資格にて發起人たらしめんとせしに評議員中認識不足の者ありて、設立願書に署名捺印を肯んぜず、説得再三にして漸く諒解捺印せしを以て評議員其人の外組合長同副長の任にある個人と、舊市内の有力者及び早川氏とを加へ大正三年四月十二日即ち早川周造、後藤安太郎、八木平兵衛、長谷川糾七、吉田亮二、片桐籙吉、山上芳太郎、笹原辰太郎、荒川幸助、都島丈太郎、廣瀬延太郎、伊藤政次郎、水野忠三郎、の十三氏にて電氣鐵道敷設、運輸營業の目的を以て、鶴舞興業株式會社設立、資本金三十萬圓敷設豫定線は地區内南北幹線を主線に南地區外を突破して國道東海道線に達せしめ鶴舞公園に南接し東西に岐かれ、東千種街道に至り、同街道を南北に貫き、南平針街道に出て西折して愛知電鐵線路に接続する所謂地區循環線にして、哩程合計六哩五十二鎖、營業年限三十ヶ年とするとの願書を本縣へ提出し、再三主務省へ進達を迫り居りしに、圖らずも早川氏突如逝去し、不幸該願書は其用を爲さざるに至りしのみならず、主要人物を失ひ呆然爲す處を知らざりしが、斯くては果てじと種々協議の末、長谷川糾七氏を煩はさんとせしに、同氏は容易く承諾せられざりしも、切なる懇望と組合役員の一にして、事情明らかなるを以て己むなく承諾を得、更に會社設立の願書を

提出せしに、幸か不幸か縣の電鐵會社對策一變し、小會社の設立を肯定せず、故に名は一小會社なるも、其の根幹は全面積七十五萬坪を有する、東郊耕地整理組合に在りて、所謂其の變名に過ぎざる旨縷陳し、素より或る時期迄は收支の償はざること覺悟の上、要はたゞ交通の利便と地區發展の向上並に土地價格の昂騰を圖るに在りて、會社其のもの經營よりは、地區内土地の利用増進、加之當時我國に類例なき、田園都市の魁ならしめんとするにある旨、辯護是れ努め極力、力を盡せしも遂に何等得る處なく徒勞に歸せり、然るに其後名古屋市當局も、鶴舞公園舗設の名の下とに、他日電鐵布設の前提たる畫策を樹てたるを以て、組合は双手を舉げて賛意を表せしも、組合對市の感情上市は其畫策を放棄し、最早絶望に沈みしに、大正十年舊名古屋市内を運轉する名古屋電鐵株式會社に於て東郊に線路延長の議ありと聞き、機逸すべからずとし、組合長笹原氏は直に、同社重役と會見し略ぼ諒解を得たるを以て直に役員協議會を開き、委員を設け東西南北の幹線道路々面の提供と其路線の交叉點にて、車庫敷地買収を纏むるの約を結び、同會社より延長線敷設を出願するに至り、近く認可あるべしとの情報を得て喜び勇みたり、茲に遺憾に堪へざるは役員中二派を生じ、愛知電鐵會社に敷設せしめんとする愛電派と一つは名古屋電鐵會社に敷

設せしめんとする、所謂組合理事者側の名電派にして互に利潤問題を提げ、鎬ぎを削りて止まず流言蜚語を放ち合ひ、組合長は苦心焦慮之れが打消し策に勉めしが、名古屋電鐵會社の準備着々進み豫定の大正十年中の認可は、稍々遅れ翌十一年四月頃認可ありて、愈々工事に着手せしに其際既に舊市内線は、名古屋市の直營に歸したるを以て吾が東郊線の進捗如何と痛心せし折から、又もや役員中より組合の名を以て、市會へ市營否認の書面提出の向きありしが、市は何等躊躇なく、市營として工を進め大正十一年中に其工完成し、翌十二年一月に至り運轉開始の認可を受け同月廿三日より當時の御器所町字小針に於ける停留場を起點に、南方熱田東町字牛巻に於ける、地區終點の停留場に至る一線と、御器所町字高辻に於ける幹線道路交叉點を東折して、同町字瀧子に於ける地區終點の停留場に至る一線とに、電車開通し、漸く多年の望みを達し、發展向上の第一歩に進み、喜悅に堪へざる處にてありたり、然かも一瀉千里、此年十二月舊市内高岳線電車線路と連絡の議、市當局との間に擡頭し、組合側は組合長宮田勘三氏(此年六月組合長交代)と、役員より成る委員とに依り、市當局と屢々折衝を遂げ圓滿裡に議纏まり、市は鐵道省に交渉し、中央線の「ガード」開整を了へしめ、連絡土工に着手し、一ヶ年間に總ての工成り大正十四年十

二月廿三日舊市内との連絡運轉を開始し、茲に全く組合の素志を遂げ、彌が上にも悦びを禁ずる能はざる處なり、然かも今や二線の電車線は、何れも延長し、牛巻線は地區外愛知電鐵堀田驛に瀧子線は東進して地區外櫻山町を経て、市民病院前に達し、大名古屋市の西北端淨心より市民病院前に至る直通電車の運轉を視るに至りしは蓋し感慨無量に堪へざる處なり

#### 四、發展の狀態

大正十年八月二十二日名古屋市々區改正の結果、吾が組合も地域全部同市に編入せられ次いで第二期工事の完成と、電車の開通は地區の發展に一大光輝を放ち各種の建築益々増殖し、隨て人口亦之れに伴ひ第一區地區内の如き電車通りを主に、鶴舞公園倚門橋通り並に現時の洲原町吸場町通りを始めとし元都島線並に現今の白金町、鎌田町、圓上町、等之れに次ぎ第二區にありては雁道町通りを主とし電車線東部一帯の進展著しく其餘の地區亦之れに次ぎ、名古屋に於ても都市計畫施設の上に於て、亦多大の意を注ぎ、市の周圍に一大循環認定路線を策すると共に、吾が地區内に在りても四線の一等大路第三類幅員十三間半道路を認定せられ(其路第三章の内の二期工事計畫の部に示せり)其内東西南北幹線に當る路線は全く幅員十三間半に擴張し、第二區に於ける認定路線神宮線は其開設を了はり、建築物地帯の如きも、元熱田東町の地域は工場地帯に其他は



地域外尾陽神社境内より見たる地内西北部の第一帯

是れを組合設立前の蛙田に比すれば、蓋し隔世の感あるべく、組合存立の二十餘年は永しと雖も、發展の比を對照すれば蓋し異數にして、全國に其例乏しかるべしと信ず

六〇

全部住宅地帯に、其地帯内にして、市街構成道路の兩側は殆んぎ、商業地帯に指定せられ、市當局も亦鋭意街路設備の完きを期し、上下水道の敷設を始め、天池水路の土管理設道路構成の工を成し、財界の許す限り路面の舗装に意を用ひ、専ら街區裝置に配意し、此他電燈電話瓦斯等限なく配備し、今や郵便局（三等局）の増設、警察署、警官派出所の増設、消防署出張所の設置等都市としての設備、着々完備し市内電車の外、自動車又は公私營の乗合自動車等の運轉激しく戸數萬餘、人口五萬に上ほり裕に一市を爲すの資格全しと云ふも敢て跨稱にあらず

## 第六章 組合の財務

### 一、經濟分擔の基礎

組合設立當時は、工區の別なく、一個の組合として、事業を行ひしが大正十年に至り、地區内名古屋市中區御器所町の地域と市南區瑞穂町及び熱田東町に屬する地域と、經濟分離所謂工區分設の議調ひ、規約の改正を行ふと共に御器所部（第一區）瑞穂熱田部（第二區）とに地區を分ち經費の負擔は、規約第三十條（現行）を以て左の如く定め

第三十條 組合費ハ豫算ノ定ムル所ニ依リ、第三條ニ定メタル各區ノ區域毎ニ第三十三條第二項ノ金額及ヒ第三十五條ノ清算剩餘金ヲ以テ、充當シ尙ホ不足ヲ生ジタル場合ハ、従前ノ土地面積ヲ標準トシテ分賦ス但シ各區ニ區分シ難キ費用ハ舊民有土地面積ノ比例ニ準ジテ分擔スルモノトス

各區に於ける施設經費は其區の負擔とし、兩區共通支辨の經費に限り規約第三十條但書の定め依り、兩區に於て左の割合に依るものと議定し、是れを實行せり但し第三區は其屬する經費の總てを單獨に負擔し、第一第二の各區に聯繫せず

第一區 ○、五八一五八四九 第二區 ○、四一八四一五一

### 二、組合費の賦課

耕地整理組合としては、年々歳々豫算の定むる處に依り、事業費を組合員

に賦課し、之れを徴収するは法の原則にして、本組合も亦規約に之れが規定を定むる處なるも、本組合の如き、都市郊外の發展地區に在りては、賦課の目的物たる土地其のものは、恰も一個の商品視せられ、所有權の轉々極まりなく、今日の組合員必ずしも明日の組合員たることなき状態なるを以て、事業費を賦課せんか、其の滞納者簇出し、遂には強制處分の途も絶へ、豫定の事業に停頓を來すは必然なるを慮ると、歳々に於ける組合員の痛苦圖り得るを以て、初めより之れが徴收を行はず、代ふるに整理に依る土地價格の騰貴を以て償ふに足り、比較的直接に苦痛を感ぜず且つ徴收上の困難も少なき方案、即ち法定面積の遞減法所謂減歩法を案出し、整理後に於ける土地の位置に應じ、一定の減歩率(減歩率に付きは第七章換地處分の部に詳説す)を定め、従前地各筆土地臺帳面積に對し、相當の減歩面積を算出し、之れを控除し、受くべき換地の權利面積となし、其の減歩し得たる總面積に該當する土地を、換地配當の殘地と爲し、其の殘地並に不用に歸したる國有溜池埋立地を、競争入札を以て、有償交付希望者を募り、一時假交付し又は組合長の定むる價格を以て、希望者に指定有償過交付を行ひ、先以て處分價額の一部金を豫納せしめ、事業費支辨に充たし、換地處分及び特別處分決定後殘金を徴收し、經費に充當せしと、一面假換地指定直後、組合財政

の状態に鑑み、受くべき換地の權利面積より、假換地指定面積が拾坪以上の超過指定者に對し、其超過坪數一坪に付、金三圓次いで五圓の割合を以て、換地清算豫納金として、一時徴收を行ひ經費支辨に補充せり、尤も以上の減歩土地賦課並に土地處分及び豫納金徴收等に付ては、評議員會又は組合會の議決を経て執行せり茲に組合は解散するも、未だ總決算を行ふ能はざるを以て、適確なる數額を示すに至らざるも、各區の總會議にて議定せる、有償交付地價額並に假換地指定超過豫納金として、調定せる徴收金を示せば左の如し

有償交付せる土地清算徴收價額

種別	耕法三〇條一項換地處分ニ 附シタルモノ			同法三〇條二項特別處分ニ 附シタルモノ			合計 (有償交付總額)		
	筆數	地積	價額	筆數	地積	價額	筆數	地積	價額
第一區	一八二	三、九三〇・三四五・八二・七〇・六五	一一七	一四、八〇八・六六	三八五、六五・二五	二九八	三七、七三九・〇〇	九六九、三五・九〇	
第二區	一〇四	一五、七二四・七一	二五六、三二・四七	八八	一〇、六三〇・九三	二二二、二七・二二	一九三	二六、三五・六三	四八八、六〇八・六八
第三區	—	—	—	二	一九・三二	一、二五・二〇	二	一九・三二	一、二五・二〇
計	二八六	三八、六五五・〇五	八四〇、〇四三・二二	二〇七	二五、四五八・八九	六二九、二七・五六	四九三	六四、一三・九四一、四五九、一五九・六八	



備考 耕法第三〇條第一項處分中には換地一筆の一部を有償交付せるものを含み第二區に在りては都市計畫  
神宮線工事後に於ける状態にて表記せるを以て換地處分の部に於ける有償交付地一覽表とは必ずしも一致  
せず

附記 本表の内各區共有溜池埋立地にして有償交付せる地積及價額左の如し  
但し溜池埋立地の内換地として配當せしもの又は組合有として一時交付を保留し、總會議の表決を経、爾  
後漸次處分に附し、尙ほ未處分として清算行為に移すもの多少あるを以て、清算終了後にあらざれば、埋  
立地總處分の結果を示す能はず

第一區溜池埋立地有償交付	一四二筆	一五、七九・九八 <sup>坪</sup>	四五、四三・〇七 <sup>坪</sup>	天池及び廣見ヶ池共
第二區溜池埋立地有償交付	七〇筆	四、七九・二四	一九、三三・三三	高田新池、大喜池、荒 ノ池、下ノ切池
合 計	二一二筆	二〇、七九・二三	六四、六六・二九	

假換地指定超過豫納金調定額 (換地清算徴収金より控除す)

區別	第一(大正七年一坪)第二(大正十二年一坪) 豫納金(三圓ノ割徴収)豫納金(五圓ノ割徴収)	計	摘 要
第一區	四、三三・〇〇	四六、七〇・〇五	五一、〇三・〇五
第二區	九七六・〇〇	四三、二四・四五	四三、二三・四五
計	五、三〇・〇〇	八八、九五・五〇	九四、二六・五〇

第三區間口割負擔金として換地清算豫納金調定額

金二萬六千九百九十一圓四十錢

三、財政の経緯

組合の經濟は前述の如く減歩による捻出殘地と、溜池埋立地處分費等に依り維持せしも、組合設立當時より是れ等の財源確定し居らざるを以て、設立當時は三ヶ年度にて停止せられたる縣補助金七千二百六圓と借入金とに俟つの外なく即ち大正二年より大正七年度に至る間は、尾三農工銀行を主として、短期借入金を爲し、其額十七萬五千六百圓に達し、借入れ年限經過に隨ひ、銀行の督促激しく、遂に工事費を始め職員の俸給支拂にも、支障を來したるが如き、極度の逼迫を來たし、苦心慘愴己むなく大正五年認可を受け、金壹萬千六百九拾圓年利六分の債券を發行し、今井清吉外二十名の應募を受け、大正七年に至り假換地超過指定者に對し先以て一坪に付三圓の割にて、清算金豫納の意味による、徴收を行ひ、(此徴収金は大正十二年十二月以後一坪五圓の豫納金、又は有償交付價額の一部豫納金へ振替へたり)此金額の内を以て、大正七年四月三十日迄に發行債券額を還償し大正八年第一回の殘地處分を行ひ大正十二年十二月に至り更に假換地指定超過面積に對する、換地清算豫納金を徴收する等當時は、工事計畫の實行

進捗に伴ひ、負債整理に最も焦慮せり、然るに大正十四年頃亦もや金融逼迫せしも、最早當時は處分すべき、假換地指定残地の未處分地、相當存せしを以て年度内に於ける眞の一時借入金を行ひ、大正十五年に至り漸次之れが處分を爲し、直に還債を遂げ、爾來財政の安定を保つに至れり

**四、所要の經費**

組合存續期間の長期に亘りたると、工事施行三回を重ねし爲め、其工費並に工作物賠償費等國家經濟の變動に伴ひ、漸次高増するのみにして第一期工事の如きは、今日より考察すれば恰も夢想の如く、南北幹線道路の如き起點より終點までの土工費約一萬餘圓に過ぎざりしが、漸次物價昂騰に伴ひ第二、第三期工事の如きは其比にあらず、尤も第一期は恰も基礎的工事、第二、第三兩期は所謂改善工事なるを以て、其機構内容は同一にあらざるを以て、第一期の比に依り論ずる能はざるは言を俟たず、今左に各期工事完成までの經費（工事費、事務費等總てを含む）を示せば左の如し

種目	第一期 工事		第二期 工事		第三期 工事	
	工事着手	工事完成	工事着手	工事完成	工事着手	工事完成
第一區	大正二年六月	大正六年十月	大正十年五月	大正十二年十一月	大正十五年七月	昭和二年四月
費用額	三三、六九、五九五	三三、六九、五九五	三六、八四、四〇九	三六、八四、四〇九	二五、三九、七四八	二五、三九、七四八

第二區	同	同	同	同	同
費用額	七六、一五、八六七	七六、一五、八六七	一六四、三三、五二六	一六四、三三、五二六	一八七、四六、三七四
計	一八九、八〇、四三二	一八九、八〇、四三二	四九三、一六、九三三	四九三、一六、九三三	四四二、八六、八五五

備考 昭和二年五月以降同四年に至る期間は、第一區南北第三號道路擴張、第二區都市計畫神宮線、其他部分的殘工事多く、同五年以後は全く事業完了の經費に屬するものにして設立以來各年度綜合決算に之れを明示す

因みに本表の外第三區事業費として、金六萬七百七十一圓十七錢を要したり

**五、總決算**

組合成立の大正二年より以來解散に至るまで、毎年度豫算並に決算に付評議員會、組合會の表決又は承認を得、監督官廳へ報告し、同時に各年度に於ける事業報告を爲したるが、今や解散に際したるを以て左に各年度綜合決算を表記し組合員各位に之れを報告せんとす、尤も昭和七年度以降は換地處分に依る、徵收、交付、實行の決算を含み、尙ほ解散期に於ける換地清算の未了即ち些少の徵收滞納金回収と各種交付金其他多少の支拂未済並に組合有土地建物其他の財産處分等は是れを解散後に於ける清算行爲に移し、約一ヶ年間の豫定にて諸清算を終へ總清算の報告を爲すべき豫定なりとす

附記 解散期の收支決算殘額は換地清算交付金支拂ひ未済額の支拂ひと第一區にては御器所區劃整理費補助

等の諸支拂ひ等に充て總清算終了後の残余金は組合經費賦課に代はるべき負擔(減歩)を課したる従前地の評定價額に按分配當すること、せり但し解散直前に於て其残余金の一部支拂ひを行ひたり  
設立以來に於ける各年度決算は誌面の都合に依り本誌巻末に表記す

**六、決算の綱要** 總決算の内換地處分清算に屬する費額を除き、事業費に屬する經費を總括すれば左表の如し

種別	第一區		第二區		第三區		合計
	種別	金額	種別	金額	種別	金額	
工事費並ニ賠償費		五六〇、五八・〇三 <sup>円</sup>		二三四、六三・〇六七		四四、九二・七四〇	
事務其他ノ攝理費		七三〇、二七九・六七三 <sup>円</sup>		四三六、七六〇・一一〇		一六、八二・八七〇	
計		一二九〇、八六一・六九五 <sup>円</sup>		六七一、三九七・一七七		六一、七七一・一七〇	
面積割所要額		一二、〇四、〇四〇・〇四二		一、八三、八六五・六五三		八四〇、一三六・八二九	
反當額	約	八七一・七〇〇 <sup>円</sup>		一、〇六九、八八〇・八八三		二二五、六七三・三四三 <sup>円</sup>	
坪當額		五〇四・九〇〇		五三七、七二七・五四七		一三二、七八一・二〇〇	
計		一・六八三強		二・三三九強		一、八九八・五三〇	
縣費補助		五、〇三七・四七〇 <sup>円</sup>		一、〇六九、八八〇・八八三		一、八九八・五三〇	
雜收入		二二五、六七三・三四三 <sup>円</sup>		一、〇六九、八八〇・八八三		一、八九八・五三〇	
所要殘額		一、〇六九、八八〇・八八三		一、〇六九、八八〇・八八三		一、八九八・五三〇	
合計		八四〇、一三六・八二九		一、八三、八六五・六五三		七、二六〇・〇〇〇	

種別	第一區	第二區	第三區	合計
面積割所要額	一、八三、八六五・六五三	一、〇六九、八八〇・八八三	一、〇六九、八八〇・八八三	一、八九八・五三〇
反當額	約 八七一・七〇〇 <sup>円</sup>	一、〇六九、八八〇・八八三	一、〇六九、八八〇・八八三	七、二六〇・〇〇〇
坪當額	五〇四・九〇〇	五三七、七二七・五四七	五三七、七二七・五四七	一、八九八・五三〇
計	一・六八三強	二・三三九強	二・三三九強	七、二六〇・〇〇〇

**七、取引銀行營業不振の損失** 組合取引銀行の内、株式會社愛知農商銀行の破産並に株式會社村瀬銀行の營業休止に依り、組合の蒙るべき欠損と看做す金額左の如し

銀行名	第一區	第二區	第三區	計
株式會社愛知農商銀行	三、七三三・七六	一、六五三・三六	二、八四六・九二	八、二三四・〇三
同 村瀬銀行	一、四六・八一	—	—	一、四六・八一
計	三、八七〇・五七	一、六五三・三六	二、八四六・九二	八、三七〇・八四

備考 株式會社村瀬銀行の預金に限り債權讓渡の處分を爲したり

**第七章 換地處分 (耕地整理法第三十條第一項處分)**

**一、假換地の指定及び變更** 第一第二兩區第一期工事の進捗に伴ひ、假換地指定の調査に着手し、先づ以て原地域を基礎とし、原地が道路敷地に充當其地域を失したる土地又は事情已

むを得ざる特別の事由ある場合に限り、多少其地域を變更するか又は飛び地域に據るの外なしとして、各般の調査を了はり、大正五年六月第一回の發表を爲し、漸次工事の成るに應じ、假換地の指定を行ひ以て昭和四年に至り之を了はりたり

附記 假換地發表に際しては多少異議を唱ふるものありしも何れも肯認せり

## 二、減歩法の決定

第六章第二項に記すが如く組合費を賦課徴收せざるを原則とする、吾が組合にありては、大正四、五年の候、財政頼みに窮迫し來りしを以て、其當時の状態に依る、完了時期豫定の下とに、換地清算減歩法を案出し、整理後の土地に於ける位置即ち新設幅員二間道路を減歩率の基準とし、其道路沿(所謂平沿)の土地は、配當に當るべき従前地々域の舊六尺道(車道) 舊三尺道(作道) 舊袋地(舊道の何れにも沿はざる所謂盲地)の三類に分ち、六尺道沿を二分、三尺道沿を四分、袋(盲)地を六分、と定め、二間道路と二間道路の交叉點、沿の土地に付きては、舊六尺沿八分、舊三尺沿一割三分、舊袋地一割八分、と定め、丁字形交叉(行止り交叉)又は新堀川沿、公園沿等夫々位置に應じ、二間道路の基準に準じ、相當率を定め、東西、南北、の幹線道路沿は特に、舊六尺道沿五分、舊三尺道沿二割、舊袋地沿四分該二幹線道路の交叉點は

特に最高率即ち舊六尺沿五割、舊三尺沿五割五分、舊袋地六割と定め、新設道路敷潰地負擔と、組合費賦課に代はるべき負擔とし、従前地各筆の土地臺帳面積より、其負擔面積を控除し、殘面積を即ち受くべき換地の權利面積と定め、大正四年三月三十日評議員會の表決を得て決行せり然るに第二期工事の施行により、各道路の幅員を擴張せしを以て、其潰地負擔に付、換地處分の準備に際り、組合長始め各役員慎重審議の結果、昭和三年二月に至り第二區に次いで第一區の各區役員協議會に於て、道路沿兩側土地の負擔、所謂かゝり地負擔(片側にて擴張せしに止まるときは其潰地を二分し兩側負擔とす)と決し次いで組合會に於て之れを可決せり次ぎに第三期工事施行の一部として各水路(概して一間なりしを一間擴張)を道路構成に變更せしを以て、該水路變更道路沿の換地に限り、奥行十間の範圍を支配範圍とし百分の三に當る坪數を、減歩負擔と定めたり、但し換地處分實行に際し組合會の決議により百分の二を輕減せり以上減歩坪數を合し減歩負擔の總坪數とし、換地面積の清算を行ひたり

附記 第三區は新設道路沿各筆土地の、間口割を以て、經費を負擔し、換地處分に依る清算を以て調理し減歩法に據ることなし

## 三、總會議に附したる換地處分の要綱

- (イ) 換地の地域 本換地處分を行ふに當りても、大正五年六月以來假換地として、使用區域の指定し、己むなき事情の下とに多少地域を變更したるもの又は有償交付として假りに指定交付せしもの地域は其儘毫も變更せず、本換地の地域とせり
- (ロ) 換地の地目及面積の換算 換地の地目は、最終の設計變更による豫定圖に基き總會議當時の狀態に據り、宅地を主とし、其他各筆相當の地目を附し、面積に在りては何れも坪數を以て勾位迄清算せしも、地租條例(現地租法)の規定に依り反別に換算を要する地目に付きては、歩以下を切り捨て反別を以て之を表示せり

- (ハ) 新舊兩地の評價決定 組合長の提案並に役員の實地踏査等慎重の調査を経て、昭和四年九月六日評議員會並に組合會の決議に依り左の通り決定す

## 「甲」 換地の評定價格

換地處分に依る清算時期は、第二期工事たる道路幅員の擴張又は切り下げ工事完成の年とす  
(大正十一年大体完成)

換地各筆の評定價格は、地目の如何即ち宅地成なると否とを問はず昭和四年現在に於ける評定價格を査定し、大正十二年以降の土地市場價格昂上率を四割と定め、之れに相當する金額を減じたる價格を以て、清算時期に於ける評定價格とす、即ち現在評價の六割を以て換地の清算評價とせり

## 「乙」 従前地の評定價格

換地清算評價算出額の内より、權利面積に對比せる過交付面積の清算價額を控除し、不足交付に在りては其面積に相當する清算價額を加へたる金額を以て、従前一筆の清算價額とし、之れを臺帳面積にて除し、十錢單位を以て従前地一坪の清算評價とす、隨て地目等位の如何に拘泥することなし

註 換地清算評價を、従前地の權利面積(受くべき換地)に乘じ臺帳面積を以て除し、十錢單位に依り坪當りを算出し、之れを従前地の清算評定價格とするに在りて要するに減歩を基準とし其評定價格を定めたるものにして地區景勢變遷の著しき吾が組合の如きに在りては換地清算徵收交付の緩和調節を図るより外なしとす

## 「丙」 有償交付地の清算價格

事業資金調達のため、評議員會若くは組合會議に附し、組合長に於て競争入札又は特定の方法を以て、有償假交付せる土地にありては、其交付價額を以て清算評定價額とし、換地の清算時期に拘泥することなし

(二) 換地處分ノ内容

〔甲〕 規約第三十三條第一項による處分 一般換地の清算は假換地指定に際し大正四年三月三十日評議員會の議決を経たる國有地増加（道路潰地を主とす）面積補充並に組合經費充當に基く減歩面積及び第二期道路幅員擴張潰地負擔及水路變更道路構成の負擔面積を總括せる減歩負擔積を、従前地臺帳面積より控除せる受くべき換地の權利面積と交付せる換地面積の過不足を定め、組合員毎に集算せる整理前後の評定算出價額の差を徴收又は交付すること、せり

附記 清算の結果に依るときは減歩率第一、第二兩區を通じ、平均一割六分にして第一區にては平均一割七分九八第二區にありては平均一割七分七に當り之れを隣接組合に比すれば、約一割三分内外の低率に了はれり、因みに第三區は金錢負擔とせるも、之れを地積上の負擔に換算するときは、約七分に當り尙ほ同區の換地清算は主として經費負擔額を換地の清算とし、地形の異動に依る面積の過不足清算を加味せり

〔乙〕 換地清算の特例

第二區都市計畫神宮線受益地帯内の換地清算は、名古屋市に於ける受益負擔金賦課法に準じ第一、第二の兩地帯に分ち第一、第二、第三の負擔區を定め、右地帯各負擔區に於ける潰地代償金の各筆負擔額を換地一般清算價額に加算し、徴收交付の清算を行ひたり

〔丙〕 規約第三十三條第二項による處分 大正八年十一月を始めとし、昭和四年九月に至るまでに於て第一區は十回百六十六筆第二區にありては七回百五筆の土地を競争入札に依り組合員中より希望者を募り、又は組合長にて役員會に諮問の上特定有償假交付を遂げたるもの左の如し但し此假交付地に付きては一般換地處分に加へたるもの若くは特別處分に附し總會議の議に附したり

第一區

種別	筆數	指定面積	確定面積	減歩負擔面積	清算面積	清算價額	平均單價	摘要
希望者公募ニヨル假交付	一六六	二五、二五・二六 <sup>坪</sup>	二五、二七・七三 <sup>坪</sup>	一、〇五・四三 <sup>坪</sup>	二五、二九六・二六 <sup>坪</sup>	四、四三・三三 <sup>円</sup>	二五・二〇 <sup>円</sup> 餘	

指定假交付	一三三	一三、五〇・九三	一三、四六・七	三二・五二	一三、七九〇・七八	一、八四一・五八	三、〇八二餘		
計	二九八	三八、六四・一八	三七、七三九・〇〇	一、三三七・九四	三九、〇七六・九四	九六九・三五・九〇	三、四〇六餘	溜池處分ヲモ 含ム	

第二區

種別	筆數	指定面積	確定面積	減歩 擔面積	清算面積	清算價額	平均單價	摘	要
區分	希望者 ヨル 假交付	一〇五	一八、〇二・三 <sup>坪</sup>	一七、〇八・〇〇 <sup>坪</sup>	一、三八・四六 <sup>坪</sup>	一八、五四・八六	三九八・四七・三六	二六・二二餘	
指定假交付	八八	一〇、九六九・六	一四、八二・〇七	三三・九四	一〇、〇三七・七三	一、七九三・三〇	二六・二〇餘		
計	一九三	二八、九八〇・六	三三、〇九二・七	一、五三・四〇	二八、五六三・五九	二〇、二六六・二五		溜池處分ヲモ 含ム	

附記 第二區は都市計畫神宮線に依る清算を含まず該工事前に於ける處分價額のみに止む

第三區

種別	筆數	指定面積	確定面積	減歩 擔面積	清算面積	清算價額	平均單價	摘	要
區分	指定假交付	二	一九・三二 <sup>坪</sup>	一九・三二 <sup>坪</sup>	一九・三二 <sup>坪</sup>	一、二五・〇六	九三餘		
計	二	一九・三二	一九・三二	一	一九・三	一、二五・一〇			

「丁」規約第三十三條第二項に依る處分 從前地一筆の面積僅少にして、利用上適當なる換地を交付すること能はざる土地、又は道路擴築若は開設の爲め潰地のみ編入したる土地並に第二區に於ける都市計畫神宮線開設に當り、全筆其敷地に充當し他に適當なる、代換地の存せざるもの、其の他特別の事情に依り組合員の希望ありし場合等には換地を交付せず其の土地に於ける清算評定價額を以て代償金交付の清算を行ひたり

「戊」規約第三十三條第四項に依る處分 假換地指定後即ち大正十年十二月十日地區を第一、第二の兩區に分ちし結果第二區の從前地に對し第一區の土地を假換地として指定せしときは第二區に從前地に對し換地不交付金錢清算を行ひ、第一區の假換地は特別處分、又は其受交付者の有する他の土地換地處分に併せて換地清算を行ひ、兩者何れも其清算價額を徴收す、第一區の從前地に對し第二區にて假換地指定せしとき亦同じ

附記 斯の如き清算を要するに至りしは工區分設前、一組合地區として假換地を指定せしに依れり

「己」規約第三十三條第五項に依る處分 本項に依り處分せしもの第一區にて中消防署出張所敷地として、天池埋立地の内百六十坪本縣へ無償交付し大正十四年十二月二日の覺書に基き廣

見ヶ池埋立地中央にて八千坪を名古屋市へ無償交付し、天池埋立地の内にて四百七十坪三合六勺を組長同副長の功勞報償として無償交付せり、次に第二區にては耕地整理施行の爲め舊來の慣行に依る部落費又は祭典費支辨の途を失ひたる代償の意味並に整理助勢の報償の意等にて瑞穂町字高田、大喜の舊部落並に一の御前神社へ各適當なる位置の土地にて四百八十坪六合六勺を無償交付し組長同副長の功勞報償として五百十八坪二勺の各適當なる土地を無償交付し各區共特別の事情に依り組合員外の者に對し特に其の希望を容れ有償交付を爲したるもの僅少あり

附記 本項による處分は總て特別處分に附したり

「庚」規約第三十三條六項による處分 種々の事情に依り、總會議に至るまでの間に於て未處分に了はりたる、整理後の土地にして一時組合有に保留せし土地第一區にて三十一筆三千二百二十五坪三合第二區にて一筆百九十六坪四勺計三十二筆三千五百二十一坪三合四勺ありしも、總會議後漸次賣却し、解散に際し第一區に於て廣見ヶ池埋立地約二千四百二坪八合七勺を存するのみに止まり第二區にては殘存せず

(ホ) 換地處分附帶清算

「甲」假換地收益不足補償金の交付 従前地に對する受くべき換地の權利面積より假換地指定面積が不足する向き(不足交付)に對しては、假換地指定當時より換地總會議に至るまでの間、利用を欠きたる補償として不足面積に對する清算評價額の、六割五分に相當する金額を収益不足補償金として規約第三十九條の二に依り交付すること、せり

「乙」過渡し豫納金の拂戻し 大正十二年假換地指定超過面積十坪以上の組合員に對し徴收せし一坪五圓の豫納金は、換地清算徴收金より控除すべきは言を俟たざるも該豫納金に對し換地總會議に至る迄の金利を斟酌し時に超過坪一坪につき三圓即ち五圓づゝの豫納金に對し一圓に付六十錢(約年八分強の利率に當る)の割にて清算實行と共に拂戻しとして、交付すること、せり

第八章 特別處分 (耕地整理法第三十條第二項處分)

一、特別處分の内容 規約第三十三條第三項第四項による換地不交付の處分も亦特別處分に屬するも此の以外有償交付地にして、一般換地處分に附し難き土地、並に工區分設清算に屬する從



前地所屬を異にする換地にして換地處分に依り難き土地及び規約第三十三條第五項に依る土地等特別處分に附し無償交付を除く外其處分價額を徴收すること、せり即ち特別處分として總會議に附したる集計は左表の如し

種目	有償		無償		種目	有償		無償	
	筆數	面積	筆數	面積		筆數	面積	筆數	面積
第一區	一七	一四、八〇八・六六	三	八、七九三・五三	第一區	一七	一四、八〇八・六六	三	八、七九三・五三
第二區	八八	一〇、六三〇・九三	三	七、七六・二七	第二區	八八	一〇、六三〇・九三	三	七、七六・二七
第三區	二	一九・三三	一	一、三五・一〇	第三區	二	一九・三三	一	一、三五・一〇
計	二〇七	二五、四五八・八九	三七	九、五六九・六九	計	二〇七	二五、四五八・八九	三七	九、五六九・六九
第一區	一七	一四、八〇八・六六	三	八、七九三・五三	第一區	一七	一四、八〇八・六六	三	八、七九三・五三
第二區	八八	一〇、六三〇・九三	三	七、七六・二七	第二區	八八	一〇、六三〇・九三	三	七、七六・二七
第三區	二	一九・三三	一	一、三五・一〇	第三區	二	一九・三三	一	一、三五・一〇
計	一〇三	九、五三・三二	二五七	四四、五五六・七九	計	一〇三	九、五三・三二	二五七	四四、五五六・七九

餘説 以上換地處分並に特別處分は第一區にては昭和四年十二月廿五日、第二區にては同年十一月廿六日、各區の總會議にて表決し、第一區は昭和五年十一月十三日第二區同年十月十三日何れも本縣知事の認可を受け、第三區にては昭和七年二月十二日總會議表決同八年二月八日本縣知事の認可を受け確定し、其後各區共所有權の異動其の他に依り評議員會の決議を経て處分の變更、又は更正認可を受け漸次換地清算を實行せり

換地清算實行の結果、總徵收金の内にて不足交付、又は換地不交付に依る清算金又は各種の交付金を交付し餘利を生じたる金額は各區總會議にて承認を得たる、各種の經費に充當し、尙ほ殘餘を生ずる金額は是れを組合員に配當すべく、是等は總て解散後の清算行爲終了の期に於て明らかなるべし。

### 第九章 國有地の無償交付及編入

- 一、國有地の無償交付 耕地整理法第十一條第一項に依り、不用に歸し無償交付を受けたる整理前の道水路堤塘溜池等第一區にては二十二町七反二畝十六步四合、第二區にては八町三反三畝二十步、第三區にては四反四畝五步なり
- 二、國有地の編入 耕地整理法第十一條第二項に依り、耕地整理施行の爲め、開設したる道水路等前項無償交付の代地として、國有地に編入せしもの、第一區にては二十九町四反三畝十一

歩第二區にては十九町八畝九歩第三區にては三反七畝二十九歩なり

附記 無償交付及編入の各地目別面積は本誌地區總地積總括表に詳示せり

以上交付及編入は換地處分並に特別處分と共に總會議を経て縣知事の認可を受けたり

三、新線道路の面積及延長 組合事業として開設せし、道路の面積及延長は左の如くにて、換地處分認可に伴ひ漸次名古屋市と折衝の上、同市にて補装修理等街衢に適應する工事の施行を受け居れり

新線道路積

區別	道路面積	延		長	
		間	數	換算米數	里數
第一區	七五、六〇三・〇六	二〇、二八九・〇六	三六、八八五・五一	九・二三	〇・〇八
第二區	四八、四二〇・二三	一三、四四四・五三	二四、四四二・一五	六・〇八	〇・〇六
第三區	一、三三九・〇〇	三六五・〇六	六六三・六四	〇・〇六	〇・〇〇
計	一二五、一六一・二九	三四、〇九八・六五	六一、九九一・三〇	一六・〇〇	〇・〇〇

### 第十章 行政區畫の變更

一、行政區に屬する區界の變更 組合事業成るに伴ひ、從來の犬牙錯綜せる、中區と南區との境界整正の要あるを以て第一、第二兩區の換地總會議の議を経て、名古屋市長へ具申せしに、同市は市會の決議を経て昭和五年九月五日收庶第三八七號を以て區界變更の義市會通過同月十日より施行の旨、同市長より通知を受け同時に市は其旨告示せられ同年十月七日縣知事よりも亦告示せられたり

中區と南區との境界變更に依る動態

區分	中區ヨリ南區へ編入スル地域					南區ヨリ中區へ編入スル地域				
	面積	畦畔	地價	筆數	戶數	面積	畦畔	地價	筆數	戶數
田	二五、八二四・〇〇	内・四九八・三六 外・三三八・〇〇	八二二・〇六	四二	一	一四、九一〇・〇〇	内・七七一・三四 外・二〇一〇・〇〇	二七・三四	二六	一
畑	二、四三二・〇〇	内・〇〇九・〇〇 外・〇二八・〇〇	七三・四二	六	一	八、八五五・〇〇	外・〇〇四・〇〇	二五・三三	二四	一
山林	一	一	一	一	一	一・八二七	一	二二・四九	一八	一

總計	國有地計	堤塘	溝渠	道路	民有地計		人口內 男六七〇人 女六〇人	面積ニハ 外陸畔算入ス	面積ニハ 外陸畔算入ス	戸數非住家 多シ人口內 男一八人 女一九人
					一八・三五 内・五〇八 外・三〇八	二・二三				
三・四六	三・八〇	—	三・六三	—	—	二七・六三 内・〇〇〇 外・二四	八八・二六	六七	三七	三七
一八九・四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三・四六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一八九・二六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

二、字區域變更並ニ名稱改稱 行政區界と同じく、從來の錯綜せる字區域を變更し、都市化の

景勢に順應して、古來の由緒地名に重もきを置き交通上の不便を避け市街地の名稱に改め第一、第二、第三各區の總會議に附し、其の表決を経て換地處分と共に本縣知事の措置を仰ぎたるに縣は名古屋市會の意見を諮問し、一部の修正を加へ、第二區に在りては昭和六年一月二十三日告示第七〇號を以て告示し同年二月一日より施行、第一區にては同年三月十日告示第二〇四號告示同年四月一日より施行、第二區にありては昭和七年十二月二十日告示第九九二號告示即日より施行せら

れたり

左に各區の新町名を掲ぐ

第一區 (行政區畫名古屋市中區)

新町名

新町名	丁目
村田町	一丁目 二丁目 三丁目 四丁目
圓上町	一丁目 二丁目 三丁目
瀧子通	一丁目 二丁目 三丁目
都島町	一丁目 二丁目
島退町	一丁目 二丁目 三丁目
御所町	一丁目 二丁目
天池町	一丁目 二丁目 三丁目
洲原町	一丁目 二丁目 三丁目 四丁目 五丁目 六丁目
櫻井町	一丁目 二丁目

幸	島	山	狭	東	高	小	吸	鎌	白	福	堀	江
樂	西	脇	間	郊	辻	針	場	田	金	江	江	越
町	町	町	町	通	通	町	町	町	町	町	町	町
一丁目	二丁目	三丁目	一丁目	二丁目	三丁目	一丁目	二丁目	三丁目	一丁目	二丁目	三丁目	一丁目
二丁目	三丁目	四丁目	二丁目	三丁目	四丁目	二丁目	三丁目	四丁目	一丁目	二丁目	三丁目	二丁目
三丁目	四丁目	五丁目	三丁目	四丁目	五丁目	三丁目	四丁目	五丁目	二丁目	三丁目	四丁目	三丁目
四丁目	五丁目	六丁目	四丁目	五丁目	六丁目	四丁目	五丁目	六丁目	三丁目	四丁目	五丁目	四丁目
五丁目	六丁目	七丁目	五丁目	六丁目	七丁目	五丁目	六丁目	七丁目	四丁目	五丁目	六丁目	五丁目
六丁目	七丁目	八丁目	六丁目	七丁目	八丁目	六丁目	七丁目	八丁目	五丁目	六丁目	七丁目	六丁目
七丁目	八丁目	九丁目	七丁目	八丁目	九丁目	七丁目	八丁目	九丁目	六丁目	七丁目	八丁目	七丁目
八丁目	九丁目		八丁目	九丁目		八丁目	九丁目		七丁目	八丁目	九丁目	八丁目
九丁目			九丁目			九丁目			六丁目	七丁目	八丁目	九丁目

出	池	廣	丸	須	二	牛	竹	太	御
口	端	池	屋	田	野	卷	田	田	劍
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
二丁目	三丁目	一丁目	三丁目	一丁目	二丁目	一丁目	二丁目	一丁目	二丁目
三丁目	四丁目	二丁目	四丁目	二丁目	三丁目	二丁目	三丁目	二丁目	三丁目
四丁目	五丁目	三丁目	五丁目	三丁目	四丁目	三丁目	四丁目	三丁目	四丁目
五丁目	六丁目	四丁目	六丁目	四丁目	五丁目	四丁目	五丁目	三丁目	四丁目
六丁目	七丁目	五丁目	七丁目	五丁目	六丁目	四丁目	五丁目	三丁目	四丁目
七丁目	八丁目	六丁目	八丁目	六丁目	七丁目	三丁目	四丁目	二丁目	三丁目
八丁目	九丁目	七丁目	九丁目	七丁目	八丁目	二丁目	三丁目	一丁目	二丁目
九丁目		八丁目		八丁目	九丁目	一丁目	二丁目	一丁目	二丁目

元廣見ヶ池埋立地

附記 地區外に屬する中區御器所町字北丸屋及び字北山の一部を山脇町に編入し昭和九年四月一日より施行の旨全年三月三十一日告示第三十三號を以て名古屋市長より告示せられたり

計 二十六ヶ町 備考 町名の振り假名は縣告示に據る

龜ヶ城<sup>シロ</sup> 雁<sup>ガシ</sup> 船<sup>フネ</sup> 平<sup>ヘイ</sup> 豆<sup>マメ</sup> 直<sup>ナホ</sup> 寶<sup>ホウ</sup> 春<sup>ハル</sup> 大<sup>ダイ</sup> 堀<sup>ホリ</sup> 瑞穂<sup>ミツホ</sup> 町<sup>チヨウ</sup> 道<sup>ミチ</sup> 原<sup>ハラ</sup> 郷<sup>ゴウ</sup> 田<sup>デン</sup> 來<sup>ライ</sup> 田<sup>テン</sup> 田<sup>テン</sup> 敲<sup>カウ</sup> 喜<sup>キ</sup> 新<sup>シン</sup> 通<sup>トウ</sup> 田<sup>デン</sup> 道<sup>ミチ</sup>

二丁目 二丁目 三丁目 四丁目 五丁目 六丁目  
 二丁目 二丁目 三丁目 四丁目 五丁目 六丁目  
 一丁目 二丁目 三丁目 四丁目 五丁目 六丁目 七丁目  
 一丁目 二丁目 三丁目 四丁目 五丁目  
 一丁目 二丁目 三丁目 四丁目 五丁目  
 一丁目 二丁目 三丁目 四丁目 五丁目  
 一丁目 二丁目 三丁目 四丁目 五丁目  
 一丁目 二丁目 三丁目 四丁目  
 一丁目 二丁目 三丁目 四丁目  
 一丁目 二丁目 三丁目 四丁目 五丁目 六丁目  
 一丁目 二丁目 三丁目 四丁目 五丁目 六丁目  
 二四番、二五番ノ五ヲ瑞穂町字田光ニ編入ス  
 計 十六ヶ町一字 備考 町名の振り假名は縣告示に據る

附記 一、除外ある地區外部落を昭和六年九月十七日名古屋市告示第三〇九號を以て左の通り地區内町名に連續し昭和六年十月一日より改稱施行の旨名古屋市長より告示せられたり

南區瑞穂町字池下三十二筆字東豆田一筆雁道町四丁目、同町字下ノ切一一筆字城ノ内一筆を船原町六丁目、同町字下ノ切二六筆同町字神ノ内八筆を船原町七丁目、同町流し一筆を平郷町五丁目ニ編入改稱す  
 二、前同上地區外部落を昭和七年八月三日名古屋市告示第三四七號を以て左の通り地區内町名に連續し、昭和七年九月一日より改稱施行の旨名古屋市長より告示せられたり  
 南區瑞穂町字上の切十五筆を太田町三丁目、同區瑞穂町字上ノ切十六筆字中ノ切二十一筆を太田町四丁目、同區瑞穂町字上ノ切十五筆を御劔町二丁目、同區瑞穂町字上ノ切十筆字中ノ切五十七筆を御劔町三丁目、同區瑞穂町字中ノ切八筆を龜城町五丁目ニ編入改稱す

第三區 (行政區畫名古屋市中區)

新町名  
 七本松町 一丁目 二丁目 丁 目

備考 町名振り假名は縣告示に據る  
 附記 地區に屬せざる隣接地中區御器所町字古市場百三十九筆字大清水三筆を七本松町二丁目、同

區同區字西鶴舞九筆、字小針五十一筆を七本松町二丁目、編入昭和八年四月一日より施行の旨同年三月廿五日告示第一三三號を以て同市長より告示ありたり

## 第十一章 賃貸價格の配賦

一、舊耕地整理法に依る地價修正及地價配賦 昭和四年第一、第二兩區に於ける、換地總會當時は未だ耕地整理法改正前なりしを以て、名古屋市内に於ける他の組合の實例に依り吾が組合も舊耕地整理法第十四條の規定に基き、宅地成地價修正の恩典を受けんとし、總會議前評議員會の決議を経、地價修正申告案を作り同法第十六條に依る申告及び是れを基礎とする地價配賦案を、各區の總會議に附し、換地處分の認可を俟ち、昭和五年十一月廿四日名古屋稅務署へ宅地成地價修正其の他を申告せしに同年十二月廿六日附を以て元地目による換地の地價配賦を要する旨を以て、書類を還戻せられたり、然して昭和六年三月法律第十五號を以て耕地整理法の一部改正を公布せられ、他面地租條例を廢して、地租法を公布せられ、土地法規の大改革を行はれ、吾が組合も亦地價配賦に蹉跌を來したり

餘説 地租法並に耕地整理法規の改正は夙に内議の評説を耳にせしを以て、故組合長宮田勘三氏の如き大いに審究し居られしが、同氏逝去後即ち昭和六年一月以後の頃、愈々帝國議會に當該法案提出せらるゝや、名古屋市内各耕地整理組合は全國府縣の當該組合と歩調を一つにし、吾が組合よりも役員屢々上京し地租上に於ける耕地整理恩典存續の請願運動を爲せしも、何等効を奏せず政府提案の通り議會を通過せり

二 新法による賃貸價格の配賦 地租法並に耕地整理法は改正せられ、吾が組合の換地も亦

改正法に依り、賃貸價格の配賦を行はざるを得ざるに至りしを以て、所管名古屋稅務署と折衝を遂げ、其の指示に依り換地は原地域に於ける元地目を主とし、在來の宅地は之れを据置扱（特別扱）とし、整理を加味する賃貸價格等級を附し、其他は整理等位（宅地以外の新等位に準ずるも）に依り按分配賦する事と決し、昭和七年四月廿五日評議員を開き、耕地整理法施行規則附則第十一條第二項に依り同則第七條の二に則り、第一、第二兩區賃貸價格配賦案の承認を得、昭和七年七月十三日第一、第二兩區共其申請を爲し同年十一月十五日第二區の配賦を同月廿一日第一區の配賦を何も申請の通り決定せられ、第三區に在りては全然新法に依り總會議の決議を経、昭和八年八月十一日賃貸價格配賦の申請を爲し、同年九月十九日是亦申請の通り決定を受けたり

三、宅地成地目變更 換地の賃貸價格は元地目に依り配賦せしも、是れ恰も中間手續とも稱す

べくして、要は換地處分認可に依る新宅地の賃賃價格に更むるを要すべく茲を以て組合は其の修正賃賃價格等級（一般賃賃價格配賦單位に該當す）に付所管稅務署と再三再四役員中の委員並に理事者等打合はせを重ね、兩者誠意妥當なる解決の下とに、最も公平と認めらるべき等位を決し是れに基き地目變換賃賃價格修正申告を爲し昭和七年十二月廿四日申告の通り決定せられたり

## 第十二章 登記

一、代位登記 地區内に於ける即ち土地又は建物所有者の當然に、申請を要する土地建物の分筆分割地目變更又は相續に因る所有權移轉の登記申請（不動産登記法第四一條第七九條第九一條）を遲滯し居る向き多く爲めに耕地整理に因る登記申請は、換地説明書と一致せざる爲め之れを申請する能はず、故に耕地整理登記令第八條ノ二及び第二十六條ノ二を以て耕地整理施行者の代位申請を許したるに依り吾が組合に在りても、數次登記簿戶籍簿等調査の上申請に要する各般の證明書類を調べ、第二區に在りては、昭和五年十一月廿一日より昭和七年五月四日までに百七十件延個數九百七十一個、第一區に在りては同年三月三十日より同七年五月九日まで二百八十五件、延個數八百七十三個、

第三區にては昭和八年八月十五日より同年九月十五日までに、二十九件延個數百八個、代位申請を爲し之れが登記の完済を俟ち、耕地整理に因る登記申請の準備を全からしめたり、蓋し是等に於ける理事者の苦痛は外部に表はれずして、是れを多とするを得ざるを遺憾とする處なり。

### 二、耕地整理登記

換地處分認可告示後、一般の登記は停止せらる、を以て商品視せらる、地

區内土地の賣買若くは抵當權設定等總ての登記を申請すること能はず一般經濟界不振の折、茲に地區内の土地を目的とする金融は確と停止せられ如何とも爲す途なく爲めに組合員の不満不尠然かも多數の代位登記を了らざれば、耕地整理登記申請の受理を得ざるに登記所管廳に於ても、他の一般多數登記に忙殺せられ居らる、こと、て、假令組合が耕地整理登記の申請を爲すも容易く進行するに難く、而かも登記簿記載事項の整理を遂ぐるが如き、難中難たる耕地整理登記簿記入は蓋し想像するに難からず、爲めに登記官廳亦臨時職員の増員を行はれ、第一第二兩區共昭和七年六月一日耕地整理登記の申請を爲し、第二區にては既登記土地二千三百二十七筆、全建物既登記四百七十五棟の耕地整理登記を昭和七年七月廿六日（期間五十六日）完了し、第一區にありては既登記土地二千七百二十六筆、同建物八百九十六棟の耕地整理登記を、同年十月十三日（期間百三十五

日)完了せられたり、尤も第一、第二各區登記管轄を異にするのみならず、第一區所管登記所は第二區所管登記所と其處理同一ならざりし關係ありし爲め多少日子の多きを費したり、次に第三區に在りては換地處分の變更々正、重なりし爲め申請の遅延を來たし、漸く昭和九年一月廿五日申請し同年二月五日既登記土地九十筆同建物三十五棟の耕地整理登記を了へたり。

### 第十三章 換地清算の實行

一、徴收金回収 換地處分總會議後大正七年一坪三圓の割による徴收金を始め同十二年一坪五圓の豫納金徴收に過ぼり、組合員千餘名の各一人毎に付、詳細なる清算調査を遂げ、是れが計算書を各組合員に發送し、規約第三十九條の定むる處に依り、一般換地清算徴收金を三回に分ち、其の第一回を昭和七年五月第二回を同年十一月、第三回を昭和八年三月に亘り、徴收せしに財界沈淪の折柄にも不拘、組合員各位の眞實なる諒解の下に、各回共收納成績頗る良好にして、第一第二各區共百萬圓を越ゆる徴收金なるにも強制徴收を關係區役所へ依託せしもの極めて少なく、解散後に於ける清算行爲の回収に移すもの、亦た僅少にして組合の満足する處なり。

二、交付金の支拂 換地清算交付金を始め、各種の交付金も亦百萬圓に垂々たる金額に及びしを以て昭和七年十二月第一回の支拂ひを開始し爾來四回に亘り交付せしも、個人間の裁判關係其の他特別の事情に依り、些少の支拂ひを了らざるものあり、是れ等は徴收金の回収と共に解散後に於ける清算行爲の一つに屬するものなり。

### 第十四章 解散

設立以來多年を要したる吾が組合も茲に全く耕地整理法上の行事を終はり、目的たる事業を完成せしを以て同法第五十三條第一項第二號前後の規定に依り昭和九年三月三十一日解散の旨役員會の承認を得同年四月四日日本縣知事へ届出たり。

以上各般に亘り報告し組合員各位と俱もに整理事業の餘慶保浴せんごす。

昭和九年四月十七日

名古屋市東郊耕地整理組合長

正田義助



名古屋市東郊 耕地整理組合 組合設立以來收支決算書 (自大正二年度 至昭和九年三月末日)

總 收 入

一金四百貳拾壹萬六千九百拾六圓八錢貳厘 總 收 入 決 算 高

總 支 出

一金四百貳萬千四百四拾四圓貳拾錢貳厘 總 支 出 決 算 高

收支差引殘高 金拾九萬五千四百七拾壹圓八拾八錢

各工區別總收支決算左ノ通り

種 別	第 一 區	第 二 區	第 三 區	合 計
總 收 入 決 算 高	二、五二、二六・二六三	一、七九六、四二・八七〇	六九、三五・九五〇	四、二六、九一六・〇八三
總 支 出 決 算 高	二、三九、九六・〇三五	一、七六、六六・〇〇七	六四、八九・一七〇	四、〇一、四四四・二〇一
收 支 差 引 殘 高	一三二、二九九・二二七	六九、七五・八六三	四、五五・七八〇	一九五、四七二・八八〇

各區ニ於ケル收支差引殘高處分ノ豫定左ノ如シ

種 別	第 一 區	第 二 區	第 三 區
換地清算ニ因ル各種交付金ノ未拂	三六、八五二・九六〇	六三、七五一・八六三	
御器所區劃整理組合補助	六九、三三〇・二七七		
昭和八年度經費ニ屬スル未支拂金 (解散式費ヲ含ム)	一五、〇〇〇・〇〇〇	七、〇〇〇・〇〇〇	三〇〇・〇〇〇

備 考

- 一、本表ハ昭和九年三月三十一日現在ニ於ケル總收支決算差引殘金ニ於ケル處分ノ豫定ヲ示シタルニ止マルモノトス
- 二、第三區ニ於ケル殘餘金ノ内昭和八年度未拂金並ニ清算事務費等ニ充當シ尙ホ剩餘アリトキハ組合員ニ之ヲ配當スルノ豫定ナリ

自大正二年度 歲入歲出決算總額表  
至昭和九年三月三十一日

歲入之部

年度別	區別			計	記 事
	第一區	第二區	第三區		
大正二年度	二四、四三、八七八	一七、四四五、九一〇		四一、八六九、七八八	
大正三年度	二五、六三、一〇三	一七、五三、九〇八		四三、一五六、〇一〇	
大正四年度	一三、五四二、二六三	八、六六二、三三九		二二、二〇四、五〇一	
大正五年度	五、三五、六四九	三、九八一、六六六		九、二七、三一五	
大正六年度	四五、六七八、三五九	二七、九七九、八九九		七三、六五八、一五八	
大正七年度	二、九六四、三五四	一〇、〇八〇、六三六		一二、〇四四、九九〇	
大正八年度	二〇、八四三、八一六	二〇、九六三、〇六四		三二、八〇六、八八〇	
大正九年度	七、三〇六、九〇九	五、七四五、三八一		一二、九五二、二九〇	
大正十年度	一一、三七四、三二六	三、三九一、八三四		一四、七六六、一六〇	

大正十一年度	五八、二五九、八三〇	一、九三六、〇二〇		六〇、一八五、八五〇	
大正十二年度	三九、一七八、三九七	三四、七三七、九八三		七三、九一六、三八一	
大正十三年度	一五、八九三、八六〇	八、三三三、四八〇		二四、二二七、三四〇	
大正十四年度	五七、三七、七三〇	一三、九一三、五五〇		七一、三三一、三四〇	
大正十五年度	一二四、九三六、七二〇	一一三、四一九、四九〇		二三八、三五六、二一〇	
昭和元年度	八九、八二五、九六〇	三八、〇七七、一三〇		一二七、九〇三、〇九〇	
昭和二年度	一二三、七九七、四六〇	五二、三四五、八九〇		一七五、一四三、三五〇	
昭和三年度	八九、七九〇、一一〇	三二、八〇五、五九〇		一二一、五九五、七〇〇	
昭和四年度	二二〇、五三四、六二〇	五八、一〇一、二四〇		三三二、八二九、九五〇	本年度ヨリ有償交付地ノ清算 殘金徴收ヲ始ム
昭和五年度	三三、九四九、七二〇	六一、三三、一八〇		九五、九〇三、〇一〇	
昭和六年度	八〇、七三五、五〇〇	八四二、八〇七、八八〇		一、六四七、二八九、三八〇	本年度ヨリ換地處分ニヨル清 算金ノ徴收ヲ始ム
昭和七年度	三五、〇二六、八一〇	三三三、八九六、〇〇〇		六八五、六〇八、四五〇	
昭和八年度	二、三五、一一八、三三三	一、七九六、四一一、八七〇		四、二六、九一六、〇八二	
計		六九、三七五、九五〇			

自大正二年度 歲入歲出決算表  
至昭和九年三月三十一日

歲入之部 (其ノ一)

種目別	年度別						
	大正二年度	大正三年度	大正四年度	大正五年度	大正六年度	大正七年度	自大正二年度 至同七年度計
換地清算 徵收金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計
換地清算 徵收金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計
清算豫納金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計
補助金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計
借入金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計
預金利子	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	第一區 計

計	年度別						
	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計
不用品拂代	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計
雜入	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計
土地使用料	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計
埋立金	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計
寄附金	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計
規約第三十 三條六項 收入金	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計
過怠金	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計
計	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計	第二區 計	第一區 計

歳入ノ部 (其ノ二)

種目別	年度別		大正八年度	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十一年度	大正十一年度	大正十一年度
	第一區	第二區							
換地清算徵收金	計	第一區							
換地清算徵收金	計	第二區							
清算豫納金	計	第一區	一九八,三三二,二七〇	一九九,九三三,四三〇	三二八,二八五,六九〇	二六二,〇〇〇	四八,六六六,七四〇	三六,六五五,〇三〇	八,〇一四,六〇〇
清算豫納金	計	第二區							
補助金	計	第一區							
補助金	計	第二區							
借入金	計	第一區							
借入金	計	第二區							
預金利子	計	第一區	一,三七〇,〇〇六	九八五,六四四	二,三五五,六六〇	一,一三六,二〇〇	九七五,七〇〇	五〇五,五五五	四〇五,五五五
預金利子	計	第二區							
不用品拂代	計	第一區	一三七,四四〇	五二七,一九〇	七,一五三,〇〇一	六,八四〇,五六〇	一,三五六,五五〇	一,三六八,八五〇	一六,一四一,六三二
不用品拂代	計	第二區	一三七,四四〇	九〇〇	五二九,七四九	九〇七,二〇〇	五〇七,七五〇	四,二三〇	一,五〇一,八二九
計	第一區	第一區	一三七,四四〇	五二七,一九〇	七,一五三,〇〇一	六,八四〇,五六〇	一,三五六,五五〇	一,三六八,八五〇	一六,一四一,六三二
計	第二區	第二區	一三七,四四〇	九〇〇	五二九,七四九	九〇七,二〇〇	五〇七,七五〇	四,二三〇	一,五〇一,八二九
計	計	計	一三七,四四〇	五二七,一九〇	七,一五三,〇〇一	六,八四〇,五六〇	一,三五六,五五〇	一,三六八,八五〇	一六,一四一,六三二

種目別	年度別		大正八年度	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十一年度	大正十一年度	大正十一年度
	第一區	第二區							
雜入	計	第一區							
雜入	計	第二區							
土地使用料	計	第一區	一,九五四,〇九〇	一,〇一九,三四〇	一,一四一,二五〇	一五,五七〇	三七,五〇〇	三七,五〇〇	二,〇七六,〇〇〇
土地使用料	計	第二區	二,〇二八,〇九〇	一,一四一,二五〇	一五,五七〇	三七,五〇〇	三七,五〇〇	三七,五〇〇	一,一四六,四一〇
埋立金	計	第一區							
埋立金	計	第二區							
寄附金	計	第一區							
寄附金	計	第二區							
規約第三十條六項收入金	計	第一區							
規約第三十條六項收入金	計	第二區							
過怠金	計	第一區							
過怠金	計	第二區							
計	第一區	第一區	一,九五四,〇九〇	一,〇一九,三四〇	一,一四一,二五〇	一五,五七〇	三七,五〇〇	三七,五〇〇	二,〇七六,〇〇〇
計	第二區	第二區	二,〇二八,〇九〇	一,一四一,二五〇	一五,五七〇	三七,五〇〇	三七,五〇〇	三七,五〇〇	一,一四六,四一〇
計	計	計	一,九五四,〇九〇	一,〇一九,三四〇	一,一四一,二五〇	一五,五七〇	三七,五〇〇	三七,五〇〇	二,〇七六,〇〇〇

歳入ノ部 (其ノ三)

一〇四

種目別	年度別			自大正十四年度 至昭和六年度計
	大正十四年度	大正五年度 昭和元年度	昭和二年度	
換地清算 徴収金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	三〇九、五六二、四七〇 一四七、一八、四四〇 六四、五〇一、一六〇 五二、一八二、〇七〇
清算豫納金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	三七三、六三八、八八〇 二〇八、二七七、三八〇 六四、七三〇、三九〇 五八一、九一六、二六〇
補助金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	一五、八〇五、〇六〇 五九、九〇九、四七〇 一、六五八、七〇〇 七七、三七三、二三〇
借入金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	二、五六二、四二〇 九三五、〇四〇 七、七二二、三九〇 一八、九二一、〇〇〇
預金利子	第一區 計	第一區 計	第一區 計	一一、九五八、三二〇 六、三三〇、三九〇 一、二六六、七六〇 一、九二七、八八〇
不用品拂代	第一區 計	第一區 計	第一區 計	四〇五、四六〇 八四、五七〇 六四七、二五〇 一、一三七、二八〇
雑入	第一區 計	第一區 計	第一區 計	一八、三三四、〇一〇 二、七二四、六三〇 五三、六〇〇 二〇、九九二、二六〇
土地使用料	第一區 計	第一區 計	第一區 計	二九九、九三〇 一八六、一九〇 五三、六〇〇 五三九、七二〇
埋立金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	二三五、九八〇 二三五、九八〇 三、五五五、二一〇 三、五五五、二一〇
寄附金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇
規約第三十 條第六項 收入金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇
過怠金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇
計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	七二八、一四二、三三〇 三六八、八八五、九三〇 六五、九三三、三〇〇 一二六二、九六二、五九〇

種目別	年度別			自大正十四年度 至昭和六年度計
	大正十四年度	大正五年度 昭和元年度	昭和二年度	
換地清算 徴収金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	三〇九、五六二、四七〇 一四七、一八、四四〇 六四、五〇一、一六〇 五二、一八二、〇七〇
清算豫納金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	三七三、六三八、八八〇 二〇八、二七七、三八〇 六四、七三〇、三九〇 五八一、九一六、二六〇
補助金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	一五、八〇五、〇六〇 五九、九〇九、四七〇 一、六五八、七〇〇 七七、三七三、二三〇
借入金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	二、五六二、四二〇 九三五、〇四〇 七、七二二、三九〇 一八、九二一、〇〇〇
預金利子	第一區 計	第一區 計	第一區 計	一一、九五八、三二〇 六、三三〇、三九〇 一、二六六、七六〇 一、九二七、八八〇
不用品拂代	第一區 計	第一區 計	第一區 計	四〇五、四六〇 八四、五七〇 六四七、二五〇 一、一三七、二八〇
雑入	第一區 計	第一區 計	第一區 計	一八、三三四、〇一〇 二、七二四、六三〇 五三、六〇〇 二〇、九九二、二六〇
土地使用料	第一區 計	第一區 計	第一區 計	二九九、九三〇 一八六、一九〇 五三、六〇〇 五三九、七二〇
埋立金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	二三五、九八〇 二三五、九八〇 三、五五五、二一〇 三、五五五、二一〇
寄附金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇
規約第三十 條第六項 收入金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇
過怠金	第一區 計	第一區 計	第一區 計	一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇 一四、三三三、一八〇
計	第一區 計	第一區 計	第一區 計	七二八、一四二、三三〇 三六八、八八五、九三〇 六五、九三三、三〇〇 一二六二、九六二、五九〇

一〇五

歳入ノ部 (其ノ四)

種目別	年度別			總計	記	事
	昭和七年度	昭和八年度 <small>(昭和八年五月一日ヨリ 昭和九年三月三十一日ニ至ル)</small>	昭和八年度計			
換地納算 徴收金	計 第一區 七九六、四四三、六二〇 第二區 八三七、一九三、八七〇 第三區 二、七五五、〇〇〇 計 一、六六六、五九二、四九〇	計 第一區 三四〇、〇七八、八四〇 第二區 三〇〇、八三〇、五七〇 第三區 五三八、九五〇 計 六五一、四三八、三六〇	計 第一區 一、三六六、五三三、四六〇 第二區 一、四八〇、〇四四、四四〇 第三區 三、一八三、九五〇 計 二、二八七、八三〇、八四〇	計 一、四四六、〇八四、九二〇 第一區 一、二九五、一四二、八八〇 第二區 六七七、七八五、一一〇 第三區 二、八〇九、〇〇二、九一〇		
清算豫納金	計 第一區     第二區     第三區 	計 第一區     第二區     第三區 	計 第一區     第二區     第三區 	計 一、〇五一、四七〇、七〇〇 第一區 六八四、〇三九、二九〇 第二區 三六七、四三一、四一〇		
補助金	計 第一區     第二區     第三區 	計 第一區     第二區     第三區 	計 第一區     第二區     第三區 	計 五、三〇七、四七〇 第一區 一、八九八、五三〇 第二區 七、二〇六、〇〇〇		
借入金	計 第一區     第二區     第三區 	計 第一區     第二區     第三區 	計 第一區     第二區     第三區 	計 一〇六、四二四、二一四 第一區 七六、五六五、七八六 第二區 一八、二九九〇、〇〇〇		
預金利子	計 第一區 四、一五七、二三〇 第二區 二、三三九、四七〇 第三區 六、四九六、七〇〇	計 第一區 九、一四三、五五〇 第二區 七、八二一、五五〇 第三區 一六、九六五、一〇〇	計 第一區 一三、三〇〇、七八〇 第二區 一〇、一六一、〇〇〇 第三區 二五、四六一、八〇〇	計 二六、九〇三、六九三 第一區 三、七四四、七二八 第二區 二、二一九〇、〇〇〇 第三區 三〇、八九九、七二〇		
不用品拂代	計 第一區 三〇、一八〇 第二區 一八七、三二〇 第三區 四九七、五〇〇	計 第一區 一、四〇〇 第二區 三、〇〇〇 第三區 三三、四〇〇	計 第一區 三、一、五八〇 第二區 二、八、三三〇 第三區 五、三九、九〇〇	計 一八、〇六六、三七六 第一區 二、四〇〇、〇〇九 第二區 六、四四七、二五〇 第三區 二、一三三、六三五		

種目別	年度別			總計	記	事
	昭和七年度	昭和八年度 <small>(昭和八年五月一日ヨリ 昭和九年三月三十一日ニ至ル)</small>	昭和八年度計			
雑入	計 第一區 二五三、六六〇 第二區 一〇五、三六〇 第三區 一、〇〇〇 計 三五九、九二〇	計 第一區 三三三、七八〇 第二區 一一〇、五〇〇 第三區 一、五七、六九〇 計 六〇〇、九七〇	計 第一區 五七七、四四〇 第二區 二三五、七六〇 第三區 一、五七、六九〇 計 九六〇、八九〇	計 二六、九〇三、六九三 第一區 三、七四四、七二八 第二區 二、二一九〇、〇〇〇 第三區 三〇、八九九、七二〇		
土地使用料	計 第一區     第二區     第三區 	計 第一區     第二區     第三區 	計 第一區     第二區     第三區 	計 八、三六九、二四〇 第一區 三、八三五、七七九 第二區 四、五三三、四六一		
埋立金	計 第一區 二、一〇六、九六〇 第二區     第三區 二、一〇六、九六〇	計 第一區 九三三、六八〇 第二區     第三區 九三三、六八〇	計 第一區 三、〇二九、六四〇 第二區     第三區 三、〇二九、六四〇	計 二、一九二、九七〇 第一區 一、二九四、九七〇 第二區     第三區 一、一九二、九七〇		
寄附金	計 第一區     第二區     第三區 	計 第一區     第二區     第三區 	計 第一區     第二區     第三區 	計 一、三五一、一四〇 第一區 一、三五一、一四〇 第二區     第三區 		
規約第三十 三條第六項 收入	計 第一區 五六〇、八二〇 第二區 八七五、〇〇〇 第三區 一、四三五、八二〇	計 第一區 一、四五六、〇〇〇 第二區 四、〇二一、七五〇 第三區 五、四六七、七五〇	計 第一區 二、〇一六、八二〇 第二區 四、八八六、七五〇 第三區 六、九〇三、五七〇	計 一六、三七〇、〇〇〇 第一區 四、八八六、七五〇 第二區     第三區 二、二五六、七五〇		
過怠金	計 第一區     第二區     第三區 	計 第一區 二、三三、二四〇 第二區 一、五七、九五〇 第三區 一八、一一九〇	計 第一區 二、三三、二四〇 第二區 一、五七、九五〇 第三區 一八、一一九〇	計 二、三三、二四〇 第一區 一、五七、九五〇 第二區     第三區 一八、一一九〇		
計	計 第一區 八〇一、七五、五〇〇 第二區 八四三、八〇七、八八〇 第三區 二、七五六、〇〇〇 計 一、六四七、二八九、三八〇	計 第一區 三五一、〇二六、八八〇 第二區 三三三、八九六、〇〇〇 第三區 六八五、六四〇 計 六七五、六〇八、四五〇	計 第一區 一、一五二、七五二、三二〇 第二區 一、一六六、七〇三、八八〇 第三區 三、四四一、六四〇 計 二、三三三、八九七、八三〇	計 二、三五一、二八、二六三 第一區 一、七九六、四二一、八七〇 第二區 六九、三七五、九五〇 第三區 四、二六、九六、〇八二		

自大正二年度 歲入歲出決算總額表  
至昭和九年三月三十一日

歲出之部

年度別	區別			計	記 事
	第一區	第二區	第三區		
大正二年度	一六、〇八九・八九〇	八、八七四・八一	—	二四、九六四・七〇一	
大正三年度	二五、六七三・四四六	一七、四三六・二四六	—	四三、一〇九・六九二	
大正四年度	一八、五六三・七八〇	九、六六三・八八八	—	二八、二二七・六六八	
大正五年度	一〇、八〇〇・二〇三	九、二二〇・二四五	—	二〇、〇二〇・四四七	
大正六年度	四二、五三二・六六七	三、九六六・七五九	—	四六、四九九・四二六	
大正七年度	一六、五三六・一三九	一〇、四九一・八五六	—	二七、〇二七・九九五	
大正八年度	九一、八二五・二〇四	六九、一四八・一七六	—	一六〇、九七三・三八〇	
大正九年度	一九、七二五・〇二四	七、〇一〇・一七六	—	二六、七三五・二〇〇	
大正十年度	五八、五一・五四三	一一、八〇五・四八八	—	七〇、三二七・〇三〇	

大正十一年度	一〇四、二八・三六〇	一七、一〇〇・〇〇〇	—	一二一、三三八・四一〇	
大正十二年度	三八、一三五・一四〇	四八、七八五・七八〇	—	八六、九六〇・九二〇	
大正十三年度	二七、七三・五五〇	一四、八〇三・八七〇	—	四二、五三七・四二〇	
大正十四年度	四四、四六六・九九〇	一七、三九三・〇二〇	—	六一、八六〇・〇一〇	
大正十五年度	二二、一六四・八三〇	一一、五三三・七七〇	—	三三、六九八・六〇〇	
昭和元年度	四六、〇五二・五一	三九、八三三・三四	—	八五、八八四・八二五	
昭和二年度	一四六、六七二・九三〇	五五、九三三・八七〇	—	二〇二、五六六・八〇〇	
昭和三年度	八八、一四三・八六〇	二九、一五・七九〇	—	一一七、二五九・六五〇	
昭和四年度	五三、六一八・四三〇	三〇、七一・五五〇	—	一三五、五六〇・三三〇	
昭和五年度	九五、六四三・三九〇	六一、九三九・五八〇	—	一五六、三〇七・七五〇	本年度ヨリ換地處分ニヨル各種交付金ノ支拂ヲ始ム
昭和六年度	五八二、七八・七三〇	六九二、八七〇・八二〇	—	一二七六、一九一・四四〇	
昭和七年度	五六六、二七八・八一〇	四二八、一三・〇九〇	—	九九七、六七二・〇四〇	
昭和八年度	—	—	—	—	
計	二、二二九、九六五・〇五	一、七二六、六六〇・〇七	六四、八一九・一七	四、〇一一、四四四・一〇一	

自大正二年度 歲入歲出決算表  
至昭和九年三月三十一日

歲出ノ部 (其ノ一)

種目別	年度別							自大正二年度 至同七年度計	
	大正二年度	大正三年度	大正四年度	大正五年度	大正六年度	大正七年度			
創立費	第一區 三五三、九七〇 第二區 二五四、六六〇 計 六〇八、六三〇							三五三、九七〇 二五四、六六〇 六〇八、六三〇	
事務所費	第一區 一、一八八、七二二 第二區 八五五、二二四 計 二、〇四三、九四六	第一區 三、六一六、〇〇四 第二區 二、六〇一、四七八 計 六、二一七、四八二	第一區 二、三六八、四八〇 第二區 一、七〇三、九六八 計 四、〇七二、四四八	第一區 三、五五四、四五二 第二區 二、三四一、三八一 計 五、五九五、八三三	第一區 二、二八九、五二二 第二區 一、六四七、一七二 計 三、九三六、六九四	第一區 三、六四三、七五二 第二區 二、六二二、四五八 計 六、二六五、二一〇	第一區 一、六、三六〇、九二九 第二區 一一、七〇七、六八〇 計 二八、一三一、六〇九		一六、三六〇、九二九 一一、七〇七、六八〇 二八、一三一、六〇九
事業費	第一區 一三〇、六八三 第二區 六、六七二、五五六 計 一、九、七〇一、三七八	第一區 一六、六〇八、八三七 第二區 一〇、九二五、〇五一 計 二七、五三三、八八八	第一區 八、八九四、八六八 第二區 二、七〇七、六六一 計 一一、六〇二、五五九	第一區 一、四四四、八五八 第二區 二、五二九、六三八 計 三、九七四、四九六	第一區 二、三九一、四九四 第二區 二、〇四六、〇一八 計 四、四三七、五二二	第一區 三、一〇一、六四七 第二區 八二六、五五三 計 三、九二八、二〇〇	第一區 三、一〇一、六四七 第二區 八二六、五五三 計 三、九二八、二〇〇		一三〇、六八三 六、六七二、五五六 一、九、七〇一、三七八
賠償費	第一區 六、一三三 第二區 四三、九八七 計 一〇九、一六〇	第一區 一、二九五、九四五 第二區 九三二、三五五 計 二、二八八、三〇〇	第一區 二、〇六五、二七 第二區 一、四八五、七三三 計 三、五五〇、〇〇〇	第一區 一九三、五九七 第二區 一三九、二八三 計 三三二、八八〇	第一區 五五、二二六 第二區 三九、七二四 計 九四、九四〇	第一區 八〇、七九〇 第二區 三三、八〇四 計 一一四、五九四	第一區 八〇、七九〇 第二區 三三、八〇四 計 一一四、五九四		六、一三三 四三、九八七 一〇九、一六〇
測量費	第一區 八七一、七三五 第二區 六二七、一六〇 計 一、四九八、八九五	第一區 一、五〇〇、四九五 第二區 一、〇九七、五七一 計 二、五九八、〇二二	第一區 一、六九九、二六九 第二區 一、二二三、五三三 計 二、九二二、八〇二	第一區 一、二八九、三三八 第二區 九二七、六〇一 計 二、二一六、九三九	第一區 二、〇九二、九二三 第二區 一、五〇五、六八一 計 三、五九八、六〇三	第一區 一、九八三、八六八 第二區 一、四二七、七七二 計 三、四一一、一四〇	第一區 一、九八三、八六八 第二區 一、四二七、七七二 計 三、四一一、一四〇		八七一、七三五 六二七、一六〇 一、四九八、八九五

計	博覽會費		組合葬費		竣工式費		雜支出		交付金		借入金償還	
	第一區計	第二區計	第一區計	第二區計	第一區計	第二區計	第一區計	第二區計	第一區計	第二區計	第一區計	第二區計
計	第一區 一六、〇八九、八九〇 第二區 八、八七四、一一一 計 二四、九六四、〇〇一										第一區 一、〇〇六、七三七 第二區 四、五六一、〇一〇 計 五、五一七、七四七	第一區 一、〇〇六、七三七 第二區 四、五六一、〇一〇 計 五、五一七、七四七
	第一區 二、五、六七三、四四六 第二區 一、七、四三六、二四六 計 四三、一〇九、六九二										第一區 三、五三六、〇六六 第二區 二、五四三、九六四 計 六、〇八〇、〇〇〇	第一區 三、五三六、〇六六 第二區 二、五四三、九六四 計 六、〇八〇、〇〇〇
	第一區 一八、五三三、七八〇 第二區 九、六六三、八八八 計 二八、二七、六六八										第一區 四、六二二、九四五 第二區 三、三二八、七三三 計 七、九五一、六八〇	第一區 四、六二二、九四五 第二區 三、三二八、七三三 計 七、九五一、六八〇
	第一區 一〇、八〇〇、二〇二 第二區 九、二六〇、二四五 計 二〇、〇六〇、四四七							第一區 五、〇一三 第二區 三、六〇七 計 八、六二〇			第一區 三、五、六九三、五四四 第二區 二、五、六七八、一六五 計 六、一、三七一、六七九	第一區 三、五、六九三、五四四 第二區 二、五、六七八、一六五 計 六、一、三七一、六七九
	第一區 四二、五三三、六六七 第二區 三〇、九一六、七五九 計 七三、四三九、四二六										第一區 七、五四二、四五五 第二區 五、四三六、三四〇 計 一二、九六八、七九五	第一區 七、五四二、四五五 第二區 五、四三六、三四〇 計 一二、九六八、七九五
	第一區 一六、五三六、一三九 第二區 一〇、四九一、八五六 計 二七、〇二七、九九五										第一區 二、二七、四三二 第二區 一、五六、四二九 計 三、八三、八六〇	第一區 二、二七、四三二 第二區 一、五六、四二九 計 三、八三、八六〇
	第一區 一三〇、一八六、二四 第二區 八六、六四三、八〇五 計 二一六、八二九、九二九										第一區 五、四、六三二、六八 第二區 三、九、二九六、二八 計 九、三、九二八、九六	第一區 五、四、六三二、六八 第二區 三、九、二九六、二八 計 九、三、九二八、九六



歲出ノ部 (其ノ二)

種目	年度別		大正八年度	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	自大正八年度計 同十四年度計
	第一區	第二區								
創立費	計	第一區								
事務所費	計	第一區	四、八九六、六二五	五、四四八、四六八	五、九〇〇、三〇一	一〇、〇九〇、七九〇	九、〇三三、一四〇	八、三八六、七三〇	九、六五五、一九〇	五三、四〇一、二四四
		第二區	三、五三二、八二五	三、九一九、八四二	四、二四四、九〇九	六、六六三、五二〇	六、四三九、八五〇	五、八八〇、五三〇	六、七四四、四四〇	三七、四一五、九一六
事業費	計	第一區	八、四一九、四五〇	九、三六八、三三〇	一〇、一四五、二一〇	一六、七五四、三二〇	一五、四六二、九九〇	一四、二六七、二六〇	一六、三九九、六三〇	九〇、八一七、一六〇
		第二區	一、七四四、二二八	一〇、八〇三、六六〇	四、七、七五四、七七〇	八、一八七、五九〇	一五、三七一、三九〇	八、八三九、九六〇	一〇、二六四、二四〇	一七五、九六五、七四八
賠償費	計	第一區	七九、二四七	一、二九一		五、三三九、〇八〇	五、九八七、六三〇	三、〇七、九三〇	一七、五二六、五四〇	三三、五四一、七七八
		第二區	五七、〇二三	九、九二九		二二三、三九〇	三、〇九四、三三〇	一、〇五八、六一〇	一七、五二六、五四〇	四、四三四、〇三二
測量費	計	第一區	三、八二四、四六七	三、三五四、五二二	四、七〇五、三七七	七、二七一、六三〇	七、五四四、三三〇	六、八七八、五三〇	七、二七七、八六〇	四〇、八〇六、七二六
		第二區	二、七五一、四七三	二、四一三、三六八	三、三八五、二三三	四、九二八、七五〇	五、八六七、六四〇	四、九八四、〇七〇	五、三二八、八六〇	二九、六四九、三三四
借入金償還	計	第一區	八二、二八、一七四							八二、二八、一七四
		第二區	五八、四三、五五六							五八、四三、五五六
交付金	計	第一區								
		第二區								
雜支出	計	第一區	五、五六三	一〇、八〇九三	一五、〇〇四	二二九、二七〇	二〇、八六五〇	七、九三一、一六〇	七、九三一、一六〇	一、五五一、八二〇
		第二區	三七、〇九七	七七、七七七	一〇、八、六九六	三七、二四〇	一三、三九九〇	一、九三三、二六〇		三、八三三、七九〇
竣工式費	計	第一區								
		第二區								
組合葬費	計	第一區								
		第二區								
博覽會費	計	第一區								
		第二區								
計	計	第一區	九一、八一五、二〇四	一九、七五五、〇三二	五八、五一、五四三	一〇、四、二八、三六〇	三八、一三五、一四〇	二七、七三三、五五〇	四、五、四六六、九九〇	三八五、四八五、四〇〇
		第二區	六九、一四八、一七六	七、〇〇〇、一七六	一一、八〇五、四八八	一七、一一〇、〇五〇	四八、七五、七八〇	一四、八〇三、八七〇	一七、三九三、〇二〇	一八六、〇五七、三九八
計	計	第一區	一六〇、九六三、三八〇	二六、七五五、二〇〇	七〇、三二七、〇三〇	二二、二二八、四一〇	八六、九二〇、九二〇	四二、五二七、四二〇	六一、八六〇、〇一〇	五七一、五四二、八〇八
		第二區								

歲出ノ部 (其ノ三)

種目	年度別		昭和大正十五年 昭和元年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	自大正十五年 至昭和六年計
	第一區	第二區							
創立費	計	第一區 第三區							
事務所費	計	第一區 第二區 第三區	一六、三九六、五九〇 二、五四三、七〇〇 二八、九四〇、三〇〇	一四、〇一六、七一一 一一、三四一、二九四 二五、三四一、〇〇五	四一、六六六、〇四〇 二七、一五八、八一〇 六八、八二四、八五〇	一八、九一八、五三〇 一四、四三三、一七〇 三三、三四一、六六〇	二二、五四七、〇二〇 一一、六三三、七八〇 三、五五七、八九〇 三七、七三九、六八〇	二〇、五六六、六六〇 八、五八五、八一〇 二、七六三、四六〇 三、八五六、〇三〇	一三三、〇五一、六三二 八六、六七〇、五七四 六、三二一、三五四 三六、〇四三、五五五
事業費	計	第一區 第二區 第三區	八五、六七九、三五〇 七七、九六〇、三三〇 一六三、六三九、五八〇	一五、一六六、二六〇 一七、一一一、六五〇 三三、三七九、九一〇	三三、七四九、六七〇 九、六六九、四〇〇 三三、四一九、〇七〇	二八、九三六、四九〇 二、三三一、六三〇 三、一六八、二一〇	九、一六〇、四二〇 八、一六〇、五三〇 三七、九八七、六三〇 五五、四〇八、五七〇	二、四五〇、四三〇 四、四四二、三〇〇 六、八九二、七三〇	一六五、〇九二、六二〇 一一九、六七五、七四〇 三七、九八七、六二〇 三三、七五五、九八〇
賠償費	計	第一區 第二區 第三區	三、七七七、三三〇 五、一九九、九五〇 四、二九〇、〇八〇	五、五六〇、三三〇 八、八八八、四五〇 六、〇四四、四八〇	六五、八四九、七九〇 六、七九三、六七〇 七二、六四三、六四〇	二、一六二、四九五〇 一、六二八、八六〇 二、八三五、三一〇	六、七〇四、三六〇 五、三四三、三三〇 六、九三四、一一〇 一四、一七二、八〇〇	一三、一八六、六七〇 七、三八七、一一〇 二〇、五七三、七九〇	一一六、三三九、六一〇 一六、二八六、三七〇 六、九三三、一一〇 一三九、五六〇、一〇〇
測量費	計	第一區 第二區 第三區	一二、七四四、八七〇 九、七四九、一〇〇 二二、二三三、九七〇	一〇、六三四、七九〇 七、六八二、五〇〇 一八、三三七、三五〇	一三、九九〇、五六〇 九、九五五、五二〇 一三、九四六、〇八〇	一四、七三四、五八〇 九、九五〇、六四〇 二四、六八五、二二〇	一〇、一六八、八九〇 六、九七七、一五〇 一、四二〇、一一〇 一八、五五四、一六〇	七、一五六、九一〇 五、一〇二、一八〇 二二、二五九、〇九〇	六九、三七八、六〇〇 四九、一四七、一五〇 一、四二〇、一一〇 一一九、九四五、八七〇

種目	年度別		昭和大正十五年 昭和元年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	自大正十五年 至昭和六年計
	第一區	第二區							
借入金償還	計	第一區 第二區 第三區							
交付金	計	第一區 第二區 第三區							
雜支出	計	第一區 第二區 第三區	五、四八六、〇〇〇 六、二三四、二七〇 一一、七二〇、二七〇	一、二八八、七三〇 二、八二五、三六〇 三、九五四、〇八〇	一、〇八一、〇二〇 二、一〇四、九六〇 三、一八五、九七〇	三、八八一、八二〇 二、三四七、四七〇 六、三三九、二九〇	四、五五三、三二〇 一、九一一、六五〇 二、三三〇、六〇〇 八、七八五、五七〇	五、一〇四、九〇〇 一、一七八、八四〇 五三、二八三、七四〇	六八、二三五、七七〇 一六、六二〇、五五〇 二、六二〇、六〇〇 八七、一五八、九〇〇
竣工式費	計	第一區 第二區 第三區	二、〇八七、八九〇 八、六九六、五二〇 二〇、七八四、四〇〇						
組合葬費	計	第一區 第二區 第三區							
博覽會費	計	第一區 第二區 第三區							
計	計	第一區 第二區 第三區	一三六、一六四、八三〇 一一五、四三三、七七〇 三五、一五九、八六〇	四六、〇三二、五一一 三九、八三三、三四〇 八五、八八四、八二五	一四、六七二、九三〇 五五、九二二、八七〇 二〇、二五九、八〇〇	八八、四三三、八六〇 二九、一一五、七九〇 一七、二九九、六五〇	五二、六一八、四三〇 三〇、七一、五五〇 五二、二二〇、三五〇 一三五、五六〇、三三〇	九五、六四三、三九〇 六一、九三九、五八〇 八、七四四、七八〇 一六六、三〇七、七五〇	五六五、二九五、九五〇 三三三、九五六、八五四 六〇、九五五、一三〇 九五九、二〇七、九三五

歳出ノ部 (其ノ四)

種目別	年度別		昭和七年度計	總計	記	事
	昭和七年度	昭和八年度 <small>(自昭和八年十月一日 至昭和九年三月三十一日)</small>				
創立費	計	第一區 第二區 第三區				三五三・九七〇 二五四・六六〇 六〇八・六三〇
事務所費	計	第一區 第二區 第三區	一〇七、一五〇・一四〇 七、三三八・〇七〇 六〇一・九八〇 一八、五七一・四〇〇	一七、八二七・五七〇 七〇、四四二・六六〇 七八八・四八〇 一八九、〇五八・七一〇		三三〇、六四一・三七四 二〇八、二九九・八五〇 七、一〇九・八三〇 五三四、〇五一・〇五四
事業費	計	第一區 第二區 第三區	八、四五〇・九一〇 五、四九三・二八〇 一三、九四四・一九〇	一三六、六八〇 四〇、三三〇 一七七、〇〇〇		三九五、一六・八八四 二〇六、六四八・四五九 三七、九八七・六二〇 六三九、七五二・九六三
賠償費	計	第一區 第二區 第三區	七、一六六・七五〇 三、三八二・〇五〇 一〇、五六八・八〇〇	五、六七九・〇六〇 一、二〇七・〇〇〇 六、八八六・〇六〇		一六五、四六五・一三八 二七、九八四・六〇八 六、九三四・一二〇 二〇〇、三八三・八六六
測量費	計	第一區 第二區 第三區	七、四七七・六七〇 五、三七七・九三〇 一、二八四・五・六〇〇	四、三五九・〇八〇 三、一三三・四五〇 七、四八一・五三〇		一三一、四四九・六九三 九四、〇八六・六七七 一、四二〇・一〇〇 二二六、九五六・四九〇
<p>人件費ヲ含ム</p>						

種目別	年度別		昭和七年度	昭和八年度 <small>(自昭和八年十月一日 至昭和九年三月三十一日)</small>	昭和七年度計	總計	記	事
	昭和七年度	昭和八年度						
借入金償還	計	第一區 第二區 第三區				一三五、八四〇・三九二 九七、七二八・七〇七 二三三、五六九・〇九九		
交付金	計	第一區 第二區 第三區	一、二七九・七二〇 一、三〇二・一五〇 六七〇・五二一・一五〇	三九一、四五四・〇五〇 三四九、五〇七・三五〇 三、〇七五・五六〇 七四四、〇三六・九六〇	九三八、八六九・六一〇 一、〇〇〇、〇一九・五〇〇 三、〇七五・五六〇 一、九六一、九六〇・六七〇		九三九、一〇三・三三〇 一、〇五五、二六二・八三〇 三、〇七五・五六〇 一、九九七、四四一・七二〇	換地清算ニ關スル總テノ交付金ヲ含ム
雜支出	計	第一區 第二區 第三區	一、五二四・四二〇 八六七・三三〇 二、三九一・七四〇	五七、四九九・八〇〇 一、〇四九・三七〇 六八、五四九・一七〇	五九、〇三四・二二〇 一一、九一六・七〇〇 七〇、九四〇・九一〇		一二、〇八七・八九〇 八、六九六・五一〇 二六、七四五・七二〇	
竣工式費	計	第一區 第二區 第三區					五四六、四三〇 三九三、一一〇 九三九、五五〇	
組合葬費	計	第一區 第二區 第三區					三三五・六八〇 二四一、五一〇 五七七・一九〇	
博覽會費	計	第一區 第二區 第三區					二、二九九・九六五・〇三五 一、七三六・六六〇・〇〇七 六四、八一九・一七〇 四、〇二一、四四四・二〇〇	
計	計	第一區 第二區 第三區	一、二七六、一九一・四四〇 六九二、八七〇・八一〇 五八二、七二八・七三〇	九七七、六七三・〇四〇 四三八、一三一・〇九〇 五六六、二七八・八一〇	二、二七三、八六三・四八〇 三、二六二、一四〇 四三、二二二・〇〇〇 一、一四八、九九七・五四〇		二、二九九、九六五・〇三五 一、七三六、六六〇・〇〇七 六四、八一九・一七〇 四、〇二一、四四四・二〇〇	

### 名古屋市東郊耕地整理組合年次事業行程

大正元年 (明治四十五年)

(大正元年ト改元セラル)

- 一、明治四十四年十二月十七日第一回創立委員會開會以來凝議ヲ重ネ同四十五年五月愛知郡會議事堂内ニテ創立事務ヲ開始シ專ラ同意書ノ取纏メ其他諸般ノ準備ヲ了ヘ大正元年十月廿五日水野忠三郎外八名ヨリ組合設立認可ヲ申請シ同年十二月十七日認可ヲ受ケタリ

附記 認可直後ノ法定手續ハ翌年一月十二日迄ニ之レヲ履行セリ

大正二年

- 一、一月十二日設立總會ヲ開キ創立費金六百八圓六十三錢ノ承認ヲ得左ノ者役員ニ當選セリ  
 組合長 笠原辰太郎 組合副長 山上芳太郎  
 評議員 長谷川糾七、片桐鎌吉、都島丈太郎、廣瀬延太郎、荒川幸助、水野忠三郎、伊藤政次郎、竹内兼吉

附記 組合會議員ノ配置ハ御器所部八名、呼籲部五名、熱田部二名ナリトス

- 一、二月三日ヨリ五日ニ亘リ第一回組合會議員十五名ノ選舉ヲ執行セリ當選者左ノ通り  
 御器所村當選者 横井覺右工門、高橋丈太郎、近藤今三郎、加藤啓十郎、久野梅太郎、伊藤源之

助、飯島増次郎、荒川錠吉

呼籲町當選者 荒川平三郎、福島利右工門、大曾根慶次郎、篠田長右工門、安藤久作

熱田東町當選者 横田久三郎、花岡清造

- 一、五月七日事業費會計年度ハ 自五月一日 期間ヲ一年度トスル規約變更ノ件申請シ五月十三日認可ヲ受ケタリ

- 一、五月二十七日規約第三十二條第二項ノ改正並ニ金九萬六千圓起債ノ件ヲ申請シ規約變更ハ六月十七日起債ノ件ハ七月九日認可ヲ受ケタリ

- 一、五月二十日組合笹原辰太郎選任ノ認可ヲ申請シ六月十六日之レガ認可ヲ受ケタリ

附記 組合副長山上芳太郎ハ組合長ニ先チ當選直後認可ヲ受ケ組合長選任ノ認可ヲ受ケルニ至ル迄事務ノ總テヲ掌理セリ

- 一、九月二十一日工事ニ着手シ其ノ旨本縣知事及稅務署長ニ届出デタリ

- 一、工事ハ設計仕様書ニ基キ規約ノ定ムル所ニ依リ漸次直營又ハ請負ニ依リ施行セリ

- 一、日不詳ナルモ本年秋起工ノ式典ヲ舉行セリ

大正三年

- 一、三月三日瑞穂町字南蛇塚外五筆ノ官有地(塚其他)拂下ゲノ許可(代金三百五十三圓)ヲ受ケ

大正八年五月廿九日請書ヲ提出セリ

- 一、三月廿七日縣費補助ニ關シ設計變更ヲ申請シ三月廿八日認可ヲ受ケタリ
- 一、四月三十日同上ニ關シ再ビ設計變更ヲ申請シ五月五日認可ヲ受ケタリ
- 一、七月一日昨大正二年九月七日ヨリ欠員中ノ組合會議員補欠選舉ヲ行ヒタルニ左ノ者當選セリ  
御器所部 都島金作、廣瀬喜代治、安藤德三郎  
熱田部 加藤秀一

一、本年三、四月頃ヨリ御器所部地區内有志者二、三ノ地主主唱者トナリ衆之レニ和シ整理工事ニ不滿ヲ抱キ紛擾ニ紛擾ヲ重ネ組合總會ヲ召集スル三回ニ及ブモ毎回成立セズ五反歩以上ノ所有者會一回地主總代會ヲ開クコト數回評議員會組合會ヲ開クコト數ヲ知ル能ハザルモ鎮靜スルニ至ラズ遂ニ組合會議員安藤德三郎辭職セルヲ以テ九月十四日補欠選舉ヲ行ヒ、久松寺代表トシテ木村文翁當選シ紛擾ノ緩和曙光ヲ視タルモ組合長笹原辰太郎氏ハ責ヲ負ヒ大正三年十一月二十三日辭任セリ、然レ共激勵慰留ノ上漸ク其職ニ留マレリ

一、月日不詳、法律顧問トシテ佐藤清三郎氏ニ是レヲ囑託セリ

### 大正四年

一、二月十九日紛擾緩和組合内ノ平和ヲ圖ル爲メ組合會議員八名増員ニヨル規約變更ヲ申請シ三月

廿三日認可ヲ受ケタリ

一、三月三十日組合費金錢賦課ハ代ニルベキ假換地減歩法案ヲ評議員會ニ諮問シ之レガ是認ノ表決ヲ得タリ

一、四月十二日組合會議員八名増員ニヨル選舉ヲ行フ當選者左ノ如シ

御器所部 加藤善太郎、村瀬猶吉、宮田貞次郎

呼續部 小出藤十郎、福島金次郎、荒川竹次郎

熱田部 横田増吉、加藤傳右工門

一、五月二十一日組合副長一名増員ニヨル規約變更ヲ申請シ八月九日認可ヲ受ケタリ

一、九月六日組合會議員欠員二名ノ爲メ補欠選舉ヲ行ヒ左ノ者當選セリ

呼續部 野村仲太郎、奥村哲次郎

一、九月二十八日常任組合副長溝口清九郎選任認可ヲ申請シ十月十二日之レガ認可ヲ受ケタリ

一、十一月十一日御器所部選出ノ評議員、組合會議員全部辭職セシヲ以テ十二月一日以先組合會議員ノ補欠選舉ヲ行ヒタルニ左ノ者當選セリ

組合會議員 加藤啓十郎、伊藤源之助、荒川錠吉、廣瀬喜代治、加藤善太郎、村瀬猶吉、宮田貞次郎、八木庄次郎、柴田又藏、愛知和助

附記全部ニテ十一名、ルモ飯島増次郎ノミハ辭職セズ

- 一、十二月六日御器所部選出ノ評議員三名補欠選舉ヲ行ヒ左ノ者當選ス  
都島丈太郎、廣瀬延太郎、横井兼次郎

大正五年

- 一、一月三日組合會議員福島金次郎辭任ニヨリ同月十一日補欠選舉ヲ行ヒ森部鐵三郎當選セリ
- 一、組合會議員横田増吉、一月十七日同ジク加藤傳右工門、同月二十七日何レモ辭任セリ
- 一、一月十二日評議員任期滿了ニ付改選ヲ行フ當選者左ノ如シ  
御器所部選出 都島丈太郎、廣瀬延太郎、横井兼次郎、近藤爲吉  
瑞穂部選出 水野忠三郎、伊藤政次郎、篠田俊太郎、片桐鎌吉  
熱田部選出 伊藤金太郎
- 一、二月四日組合會議員二十二名全員任期滿了ニ付改選ヲ行フ當選者左ノ如シ  
御器所部選出 加藤啓十郎、伊藤源之助、荒川錠吉、廣瀬喜代治、加藤善太郎、村瀬猶吉、宮田貞次郎、八木庄次郎、愛知和助、荒川又次郎、荒川幸太郎、長谷川糾七  
呼籲部選出 大會根慶次郎、小出藤十郎、荒川竹次郎、野村仲太郎、奥村哲次郎、森部鐵三郎、安藤久藏  
熱田部選出 横田増吉、落合忠治、伊藤邦太郎

- 一、四月十一日地區内各溜池ヲ地區ニ編入ニヨル地區變更ヲ申請シ五月十一日之レガ認可ヲ受ケタリ
- 一、四月二十五日評議員横井兼次郎死亡ニヨル補欠選舉ヲ行ヒ荒川幸助當選セリ
- 一、六月五日規約第三十二條（現行）但書ニヨル第一回使用區域（假換地）ヲ指定シ以後漸次之ヲ指定ス
- 一、六月十三日名譽組合副長任期滿了ニ付改選ヲ行ヒ山上芳太郎當選セシテ之レガ認可ヲ申請シ其ノ認可ヲ受ケタリ
- 一、六月十五日組合長笹原辰太郎任期滿了ニ付再選ニヨル認可ヲ申請シ七月十一日之レガ認可ヲ受ケタリ
- 一、九月十一日龍ヶ池及其ノ附近追加編入ノ爲メ地區變更ヲ申請シ十月十六日之レガ認可ヲ受ケタリ
- 一、十一月十二日組合會議員愛知和助辭任セリ
- 一、十二月一日舊債償還（金七萬六千圓）ノ爲メ起債ヲ申請シ十一月十二日認可ヲ受ケタリ
- 一、十二月十六日組合會議員荒川幸太郎辭任セリ
- 一、十二月廿六日大正二年組合設立當時ヨリノ借入金借リ換へ其他ノ資金ニ充ツル爲メ金壹萬千九百九拾圓年利六分ノ債券ヲ募集セリ

大正六年

- 一、四月五日起債利子變更ヲ申請シ四月十八日認可ヲ受ケタリ
- 一、五月七日愛知郡役所敷地充當ノ爲メ廣見ヶ池一部埋立ニヨル設計變更ヲ申請シ五月十八日認可ヲ受ケタリ

一、六月二十日右埋立地除斥ノ爲メ地區變更ヲ申請シ七月四日認可ヲ受ケタリ

一、七月十七日地區内假換地指定濟ノ各筆測量終了ス

一、七月十八日舊債借換ヲ申請シ八月三日之レガ認可ヲ受ケタリ

一、十月十五日第一回ノ計畫(當初ノ設計)ニヨル工事ハ總テ竣工セリ

一、十一月十日本年六月九日辭任ノ組合會議員荒川又次郎及ビ十月中死亡ノ組合會議員荒川錠吉並ニ安藤久藏其他二名ノ欠員補充ノ爲メ補欠選舉ヲ行ヒタルニ左ノ者當選セリ

御器所部選出 高柳光重、荒川又次郎、木村文翁

呼續部選出 近藤勝一

大正七年

一、四月十一日假換地過渡計算ニヨル壹萬貳百八拾八坪ニ對シ一坪金三圓ノ割ニヨル豫納金ヲ徵收セリ

一、大正五年十二月廿六日ヨリ發行セル債券募集額ハ大正七年四月卅日マデニ於テ全部之レヲ償還セリ

一、十二月十九日名譽組合副長山上芳太郎、組合副長溝口清九郎辭任セリ

一、十二月日不詳、法待顧問佐藤清三郎死亡ス

大正八年

一、一月十日法律顧問佐藤清三郎死亡ニ付加藤重三郎氏へ囑託シ其ノ承諾ヲ得タリ

一、一月十日評議員八名ノ任期滿了ニ付改選ヲ行ヒ左ノ者當選ス

御器所部 都島丈太郎、廣瀬延太郎、近藤爲吉、荒川幸助

呼續、熱田部 水野忠三郎、篠田俊太郎、奥村哲次郎、伊藤金太郎

一、一月十三日組合副長任期滿了ニヨリ長谷川糾七、片桐鎌吉選任ニヨル認可ヲ受ケタリ

一、二月二日ヨリ四日ニ亘リ組合會議員任期滿了ニ依ル改選ヲ行フ當選者左ノ如シ

御器所部 加藤啓十郎、久野梅太郎、松永丙内、八木庄次郎、荒川又次郎、荒川幸太郎、高柳光重、横井吉太郎、柴田竹藏、林一郎、横井久右工門

呼續、熱田部 伊藤政次郎、大曾根慶次郎、荒川竹次郎、野村仲太郎、奥村哲次郎、森部鐵三郎

荒川源三郎、伊藤邦太郎、落合信一郎、鈴木伴之助

右當選者ノ内八木庄次郎、荒川又次郎、林一郎ノ三名ハ當選ヲ辭シタルヲ以テ左ノ次點者三名ヲ當選者トセリ

木村文翁、村瀬猶吉、櫻木龜次郎

- 一、三月三日評議員奥村哲次郎辭任ニヨリ補欠選舉ヲ行ヒシニ篠田幸藏當選セリ
- 一、五月十日組合評議員横井久右工門、村瀬猶吉、久野梅太郎ノ三名辭任ニヨリ補欠選舉ヲ行ヒタルニ廣瀬喜代治、八木庄次郎、荒川又次郎ノ三名當選セリ
- 一、七月十六日組合長任期滿了ニ依ル笹原辰太郎重任ノ認可ヲ申請シ八月六日之レガ認可ヲ受ケタリ

一、十月二十四日評議員伊藤金太郎辭任ニヨリ補欠選舉ヲ行ヒ青山鉞四郎當選セリ

一、十一月十一日規約中一部(第二七條第三〇條第三)變更ノ認可ヲ申請シ大正九年一月十三日之レガ認可ヲ受ケタリ(一條第三二條ノ改正)

大正九年

一、五月十日顧問一名ヲ増員シ宮田勘三ニ囑託セシニ其ノ承認ヲ得タリ

大正十年

一、四月十六日組合會議員三名欠員ニヨリ補欠選舉ヲ行ヒ左ノ者當選セリ

村瀬猶吉、田島常吉、松永庄三

一、五月五日、第二回計畫ニヨリ道路切下、幅員擴張及ビ排水路ノ改修工事ニ着手ス

一、八月三日舊精神川用悪水路及ビ道路追加編入ノ爲メ地區變更ヲ申請シ大正十二年四月十九日之レガ認可ヲ受ケタリ

一、八月二十二日名古屋市區改正ノ爲メ地區内瑞穂町(呼續町ノ一部町名改稱)及ビ御器所村ヲ名古屋市ニ編入セラレ瑞穂町ハ南區ニ御器所村ハ町ニ改メ中區ニ屬セシメラル

一、十二月十日地區ヲ法規上ノ第一區(御器所町地域)同ジク第二區(瑞穂町、熱田東町ノ各一部地域)トシ工區ヲ分設(當時ハ經濟分離トセリ)スルノ協約兩區(部ト稱セリ)ノ役員間ニテ成立セリ

大正十一年

一、一月十八日組合會議員及評議員ノ定數ヲ増員シ組合長以下組合會議員ニ至ルマデ任期ヲ五ケ年(從來三ケ年)ト改メ、組合會議員ト評議員ト相ヒ兼ヌルヲ得セシメ、組合會議員ノ現任期ヲ増員評議員ト共ニ一律ニ大正十三年滿了ト定メ評議員ハ本年一月十三日任期滿了スルモ之レヲ一月三十日迄延長スル事ニ議決シ工區分設ニ依ル規約ノ變更認可ヲ申請シ一月廿五日之レガ認可ヲ受ケタリ



附記 工區分設スルモ規約面ニテハ御器所部、瑞穂熱田部ト表ハセリ

一、一月三十日評議員任期滿了ニ付増員數ト共ニ改選々舉ヲ行ヒ左ノ者當選シ十六名ノ定數ヲ充員セシメタリ

第一部 都島丈太郎、廣瀬延太郎、荒川幸助、近藤爲吉、木村文翁(兼務)、村瀬猶吉、高柳光重(兼)、櫻木龜次郎(兼)

第二部 水野忠三郎、伊藤政次郎(兼)、奥村哲次郎(兼)、森部鐵三郎(兼)、篠田俊太郎、篠田幸藏、伊藤邦太郎、青山鉞四郎

一、二月二十日組合副長任期滿了ニ依ル改選(長谷川糾七、片桐鏗吉重任)ノ認可ヲ申請シ二月二十九日之レガ認可ヲ受ケタリ

一、三月廿五日第一御器所町字西狹間、東狹間、北丸屋ノ一部追加編入ノ爲メ地區變更ヲ申請シ八月廿四日之レガ認可ヲ受ケタリ

一、十一月九日天池設計變更ヲ申請ス  
一、十二月五日道路幅員擴張ノ爲メ假換地面積異動ノ旨各組合員へ通知ス

大正十二年

一、一月廿三日中區御器所町字小針ヨリ南區熱田東町字牛卷(現今ノ東郊通及ビ堀田通)ニ至ル幹線道路並ニ其中間中區御器所町字高辻交叉點ヨリ東折シテ同町字瀧子元郡道ニ至ル幹線道路ニ東郊

線電車開通ス

一、三月廿九日除斥及追加編入ニヨル地區變更ヲ申請シ十一月廿六日認可ヲ受ケタリ

一、四月二日各溜池設計變更ヲ申請ス

但シ天池設計變更ハ大正十一年十一月九日申請済

一、五月五日第二回計畫ニヨル工事施行ヲ了ル

一、六月九日地區内南北幹線ヲ名古屋都市計畫、道路一等大路第三類第四號路線(幅員十三間半)東西幹線ヲ同第十四號線(幅員同上)未成島退線ヲ同第七號線(幅員同上)地區南方未成神宮線トシテ同第八號線(幅員同上)ニ認定ノ上内閣總理大臣ヨリ公告アリタリ

一、六月九日組合長笹原辰太郎辭職即日補欠選舉ヲ行ヒ宮田勘三當選セシヲ以テ直ニ認可ヲ申請シ六月十三日之レガ認可ヲ受ケタリ

一、十一月六日地區内土地ニ家屋建築ノ場合當組合ノ承認ヲ要スル旨組合會へ通知ス

附記 建築ノ承認ハ豫テ組合限リ通知シアリシモ承認申請怠慢勝チナリシガ本年十月廿五日縣ヨリ市へ通牒市又移牒セシ次第アリシニ因リ更ニ其移牒文ヲ添へ通知ヲ發シタルナリ

一、十二月十四日東郊線電車舊市内連絡(御器所町字小針停留場ヨリ鶴舞公園前ニ至ル連絡)折衝ノ件評議員會ニテ可決ス

一、同日評議員會ニ於テ假換地過渡壹萬九千五百八十五坪五勺(第一、第二兩區集計)ニ對シ壹坪ニ

金五圓ノ割ニテ換地清算豫納金ヲ徵收シ組合經費ニ充當ヲ決議セシヲ以テ同月二十日ヲ期日ト指定シ之レヲ徵收セリ

大正十三年

一、二月八日御器所部選出同月九日瑞穂熱田部選出ノ組合會議員任期滿了ニ依ル改選ヲ行ヒ左ノ者當選セリ(此時ヨリ御器所部ヲ第一部(第一區)瑞穂熱田部ヲ第二部(第二區)トノ稱呼起レリ)  
御器所部(第一部) 廣瀬喜代治、木村文翁、村瀬猶吉、八木庄次郎、荒川又次郎、高柳光重(評議員兼任)、横井吉太郎、櫻木龜次郎(評議員兼任)、田島常吉、松永庄三、柴田甚藏、三尾太傳次、加藤三代吉、疋田義助、岡本德松 以上十五名

瑞穂、熱田部(第二部) 水野忠三郎(評議員兼任)、大曾根慶次郎、加藤秀一、荒川竹次郎、野村仲太郎、森部鐵三郎(評議員兼任)、荒川源三郎、篠田金次郎、中村賢之助、近藤廣作、原口晃、内藤春次郎、飼沼光造、岡崎幸作 以上十四名

附記 中村賢之助ハ日本碍子株式會社ヲ原口晃ハ日本車輛株式會社ヲ代表シタルモノトス  
備考 今回ノ改選ニ際シ第一部ニ於テ加藤丈右工門ノ委任狀ニ關シ訴願アリシモ無事解決シ第二部ニ於テモ亦委任其他ノ問題ニテ訴願者ヲ出ダシ紛議ヲ醸モセシガ大正十五年二月ニ亘リ總テ解決セリ

一、八月十五日組合長任期滿了ニ依リ宮田勘三再選ノ認可ヲ申請シ九月一日之レガ認可ヲ受ケタリ

大正十四年

一、十一月二日第一區地區内廣見ヶ池ニ關スル名古屋市トノ交渉ニ付知事裁定ニヨル覺書ヲ交換ス

一、十一月三日第一區天池廣見ヶ池ヲ除ク外各溜池設計變更ノ認可ヲ受ケタリ

一、十二月八日天池、廣見ヶ池、各溜池設計變更ノ認可ヲ受ケタリ

一、十二月二十日溜池問題並ニ東郊線電車連絡問題ニ關スル經過ヲ組合會ヘ報告シ其承認ヲ受ケ組合會ハ兩問題ニ付理事者並ニ關係交渉員諸氏ノ勞苦ヲ謝シタリ

一、十二月廿三日東郊線連絡工事完成電車運轉ヲ開始ス

大正十五年

(此年十二月廿五日昭  
和元年ト改元セラレ)

一、三月八日第二區選出ノ組合會議員水野忠三郎、森部鐵三郎ノ二名辭任ト大曾根慶次郎死亡ニ依ル補欠選舉ヲ行ヒ大曾根仙造、大曾根長治郎、山田與會次郎ノ三名當選セリ

一、六月廿九日第一區地區ニ隣接スル中區御器所町通稱七本松地域(中央鐵道線以北)ノ一帯ヲ編入シ第三區ヲ新設スル爲メ委員十名ヲ選任ス其ノ氏名左ノ如シ

矢野美彦、岡田久太郎、加藤豊吉、高松定一、林喜兵衛、松岡鏡造、加藤三代吉、疋田義助、岡本德松 (就任中一名死亡シ九名ニ減ジタリ)

附記 右委員ハ地區編入、區設立、事業ノ施行等總テノ任ニ當ル

一、七月二十日終局工事トシテ第三回計畫ニヨル溜池ノ埋立並ニ地區内排水及下水工事ノ施行ニ着手ス

一、八月二十七日中消防署出張所敷地トシテ組合有地中區御器所町一丁目二番百六坪無償交付ヲ申請シ同年十一月十七日採納セラレタリ

一、十月廿八日大正十四年十二月二日附覺書ニ基キ廣見ケ池埋立地積八千坪ヲ名古屋市ヘ無償交付セリ

一、十一月二十日組合會ニ於テ地區内水路ニ土管ヲ埋設シ道路ニ變更ヲ行フ事ヲ決議シ第三回計畫工事ト共ニ施行スル事トセリ

### 昭和二年

一、四月十五日第三回計畫ノ溜池埋立並ニ排水ノ各工事成ス

一、四月十七日中區御器所町高辻交叉點西南角地廣場ニ於テ工事成工式ヲ舉行ス

一、四月十九日四月七日申請ニ依ル組合副長片桐謙吉、同長谷川糾七任期滿了再選ニヨル認可ヲ受ケタリ

一、四月廿八日東西南北第一號幹線道路ノ内車道並ニ東西第二號幹線道路ヲ供用開始ノ旨名古屋市長ヨリ告示セラレタリ

長ヨリ告示セラレタリ

一、六月二十四日評議員任期滿了ニ依リ改選ヲ行ヒ同時ニ相談役及顧問ヲ選任ス其氏名左ノ如シ

第一部選出 木村文翁(兼)、村瀬猶吉(兼)、近藤爲吉、松永庄三(兼)、岡本徳松(兼)

第一部相談役 飯島亮之助、見田重次、加藤丈左衛門、荒川啓三郎、久野喜代治、荒川幸太郎

第一部顧問 荒川幸助、都島丈太郎

附記 相談役ノ内飯島亮之助ヲ除ク外五名ハ昭和四年二月辭任セリ次ニ顧問都島丈太郎ハ昭和三年二月七日死亡ス

第二區選出 伊藤政次郎、伊藤邦太郎、水野忠三郎、篠田俊太郎、篠田幸藏、森部鐵三郎、青山

鉞四郎、奥村哲次郎

### 昭和三年

一、一月二十日地區内主要道路ノ一部ニ付供用開始ノ旨名古屋市長ヨリ告示セラレタリ

一、三月十八日組合副長長谷川糾七死亡ス

一、七月八日評議員近藤爲吉死亡ス

### 昭和四年

一、二月八日、九日二日間ニ亘リ組合會議員任期滿了ニ依ル改選ヲ行フ當選者左ノ如シ

第一部選出 岡本徳松、加藤三代吉、横井吉太郎、高柳光重、村瀬猶吉、八木庄治郎、松永庄藏

荒川又次郎 櫻木龜次郎、木村文翁、三尾太傳次、柴田甚藏、疋田義助、廣瀬喜代治、都島輝壽 以上十五名 (八木庄治郎、松永庄藏ノ二名ハ選任後死亡セリ)

第二部選出 大曾根仙造、大曾根長次郎、近藤廣作、荒川竹次郎、荒川源三郎、篠田金次郎、日

本碍子株式會社、岡崎幸作、加藤秀一、飼沼光造、野村仲太郎、山田與曾次郎、奥村哲次郎、青山鉞四郎 以上十四名

一、二月九日評議員ト組合會議員ノ兼職ヲ避クル爲メ木村文翁、村瀬猶吉、奥村哲次郎、松永庄三岡本徳松、青山鉞四郎ノ六名評議員ヲ辭任シ一名死亡ノ爲メ欠員ニ付同月十三日補欠選舉ヲ行ヒ左ノ者當選セリ

第一部選出 荒川幸太郎、見田重次、如藤丈左工門、荒川啓三郎、久野喜代治

第二部選出 日本車輛製造株式會社、福島増雄

附記 評議員ト組合會議員トノ兼務ハ之レヲ避クルコト、セリ

一、十一月八日組合長宮田勘三任期滿了ニ依ル改選ヲ行ヒタル處重任セシヲ以テ同月十二日認可ヲ申請シ同月十五日之ガ認可ヲ受ケタリ

一、十月九日御器所部ヲ第一區瑞穂熱田部ヲ第二區ト改稱シ新タニ第三區新設並ニ換地處分ニ關スル規定其ノ他一部改正ノ爲規約ノ變更ヲ申請シ十一月十二日認可ヲ受ケタリ(此ノ時ヨリ第一部第二部ノ呼稱ヲ第一區第二區ト改ム)

一、十一月十三日第一、第二兩區全般並ニ第三區新設ニヨル設計及ビ地區編入(第一、第二兩區内ノ一部除斥地及ビ第三區地域編入)ニヨル變更認可ヲ受ケタリ

一、十一月十九日日本日ヲ以テ第二區工事完了ノ旨本縣知事へ届出デタリ  
一、十一月廿五日規約第九條ノ二ニ依リ評議員會ヲ開キ第二區ニ於ケル耕地整理法第三十條第一項第二項ノ處分ヲ諮問シ提案ノ是認ヲ得次ニ耕地整理法施行規則第十二條ノ二ニヨル耕地整理法第十四條ノ地價設定並ニ修正地價見積リノ件可決セリ

一、十一月廿六日第二區換地處分審議ノ爲同區總會議ヲ開キ提案全部原案ヲ可決セリ  
一、十二月十九日日本日ヲ以テ第一區工事完了ノ旨本縣知事へ届出デタリ

一、十二月廿四日規約第九條ノ二ニ依リ評議員會ヲ開キ第一區ニ於ケル耕地整理法第三十條第一項第二項ノ處分案ヲ諮問シ提案是認ヲ得次ニ耕地整理法施行規則第十二條ノ二ニヨル耕地整理法第十四條ノ地價設定並ニ修正地價見積リノ件可決セリ  
一、十二月廿五日第一區換地處分審議ノ爲メ同區總會議ヲ開キ提案全部原案ヲ可決セリ

附記 兩區總會議ノ提案左ノ如シ

一三六

- 第一號議案 行政區劃變更案 (中區、南區トノ境界變更字區域變更、並ニ名稱改稱)
- 第二號議案 國有地編入並ニ無償交付案
- 第三號議案 換地處分案
- 第四號議案 耕地整理法第三十條第二項ニヨル特別處分案
- 第五號議案 地價配當案
- 第六號議案 耕地整理法第十六條ニヨル申告 (地價修正申告不受理ノ爲メ實行不可能ニ歸シタリ)  
以上ノ外換地處分ニヨル徵收過金ニシテ總會議以後解散ニ至ル迄ノ諸經費充當ノ豫定額並ニ殘餘金配當豫定額等ノ承認ヲ求メタルニ總會議ハ總テ之ヲ承認セリ

### 昭和五年

- 一、四月一日地區内主要道路ノ一部ニ付供用開始ノ旨名古屋市長ヨリ告示セラレタリ
- 一、四月十七日第一、第二兩區換地處分總會議ノ議決ヲ經タル換地處分(字區域變更及ビ名稱改稱、並ニ國有地無償交付編入等ヲ含ム)及ビ耕地整理法第三十條第二項ニヨル特別處分ノ認可ヲ申請ス
- 一、九月五日曩ニ第一第二兩區總會議ノ議決ヲ經タル中區南區兩區境界變更ノ義ニ付其後名古屋市長へ稟申中ノ處九月十日ヨリ實施ノ旨同市長ヨリ通知アリ同時ニ其旨告示セラレ

- 一、十月七日行政區界變更ノ旨本縣知事ヨリモ告示アリタリ
- 一、十月十三日第二區ニ於ケル耕地整理法第三十條第一項處分(換地處分)同第二項處分(特別處分)認可セラレ同月十八日其ノ旨縣知事ヨリ告示アリタリ
- 一、十一月十日第二區換地處分並ニ特別處分認可ノ旨同區組合員へ通知シ換地説明書ヲ配布シタリ
- 一、十一月十三日第一區ニ於ケル耕地整理法第三十條第一項處分(換地處分)同第二項處分(特別處分)認可セラレ同月十八日其ノ旨縣知事ヨリ告示アリタリ
- 一、十一月廿二日日本ヨリ第二區從前地ニ於ケル分筆地目變換等、土地建物ノ異動並ニ所有者ノ相續開始住所氏名ノ異動ニシテ其ノ變更々正登記未済ニ依ル爲メ耕地整理登記申請ニ支障ヲ來スヲ以テ組合ノ代位申請ヲ開始シ昭和七年五月四日終了セリ
- 一、十一月廿四日第一區工事昭和四年十二月十九日完了ノ旨名古屋稅務署へ届出テ同時ニ民有免租地々價設定ヲ申告セリ
- 一、全日第二區工事昭和四年十一月十九日完了ノ旨名古屋稅務署へ届出テ同時ニ民有免租地々價設定ヲ申告セリ
- 一、同日第一、二兩區地價修正(舊法地目變換ニヨル)申告書ヲ名古屋稅務署へ提出セシ處元地目ニヨル換地ノ地價配當ヲ要スル旨大藏省ヨリ通牒アリシ旨ヲ以テ昭和五年十二月廿六日還戻セ

一三七

ラレタリ

一三八

- 一、十二月十日第一區換地處分並ニ特別處分認可ノ旨同區組合員へ通知シ換地説明書ヲ配布シタリ
- 一、十二月廿二日第一第二兩區ニ於ケル耕地整理地價据置年期申請書ヲ名古屋稅務署へ提出セシニ十二月廿六日地價修正ト同一ノ理由ヲ以テ還戻セラレタリ

### 昭和六年

- 一、一月十二日組合長宮田勲三名古屋市下中耕地整理組合顧問トシテ其ノ役員會ニ臨席中腦溢血ニテ急逝ス
- 一、同日組合副長片桐鎌吉組合長代理攝掌ニ任ス
- 一、一月十五日故組合長宮田勲三ノ組合葬ヲ行ヒ名古屋市中區日ノ出町徳林寺ニテ告別式ヲ行ヒタリ
- 一、一月二十三日第二區内字區域變更並ニ名稱改稱ノ義告示第七〇號ヲ以テ本縣知事ヨリ告示セラレ昭和六年二月一日ヨリ施行セララル
- 一、二月二日組合會ニ於テ組合長補欠選舉ヲ保留シ第一區及ビ第三區選出ノ組合副長一名欠員中ニ付其ノ補欠選舉ヲ行ヒタルニ組合會議員疋田義助當選ス依テ即日認可ヲ申請シ三月廿五日之レガ認可ヲ受ケタリ

- 一、同日第一區及ビ第三區選出ノ評議員三名欠員中ノ處一名補欠選舉ヲ行ヒ組合會議員高柳光重當選同人ハ直ニ組合會議員ヲ辭シ他ノ欠員二名ハ其ノ補欠選舉ヲ保留セリ
- 一、同日組合會ニ於テ第一區及第三區擔任ノ會計分掌トシテ評議員高柳光重第二區擔任ノ會計分掌トシテ評議員伊藤邦太郎ノ兩人ヲ推薦ス
- 一、二月三日組合會ノ推薦者第一區及第三區會計分掌トシテ高柳光重第二區會計分掌トシテ伊藤邦太郎ノ二名ヘ夫々會計事務分掌ヲ囑託ス
- 一、三月十日第一區内字區域變更並ニ名稱改稱ノ義告示第二〇四號ヲ以テ本縣知事ヨリ告示セラレ昭和六年四月一日ヨリ施行セララル
- 一、三月三十日第一區從前ノ土地建物ニ付第二區ト同ジク各異動ニヨル登記ノ變更々々正ヲ組合ニテ代位申請ヲ開始シ昭和七年五月九日終了セリ
- 一、六月廿七日組合長代理片桐組合副長ハ其代理攝掌ヲ辭任セシヲ以テ組合會ハ之レヲ承認シ組合副長疋田義助ヲシテ組合長代理攝掌ト定メ縣知事へ報告ス
- 一、七月七日規約中第七條第九條第三十六條第三十七條第三十九條等改正又ハ條項追加ニヨル變更ヲ申請シ八月十七日認可ヲ受ケタリ
- 一、十二月十日第一區組合員八百八十六名ニ對シ換地清算徵收又ハ交付ニ係ル詳細ノ計算書ヲ發送

一三九

セリ

昭和七年

- 一、一月九日第一區換地處分ニ附シタル土地ノ内第三權利ノ目的タル土地ニ付清算狀態ヲ通知シ交付金供託ノ否ヤヲ知照セリ
- 一、一月二十一日第二區換地處分ニ附シタル土地ノ内第三權利ノ目的タル土地ニ付前同様知照セリ
- 一、二月一日第二區組合員五百五十名ニ對シ換地清算徵收交付ニ係ル詳細ノ計算書ヲ發送セリ
- 一、二月五日第三區工事本日ヲ以テ完了ノ旨本縣知事及名古屋稅務署長ヘ届出デタリ
- 一、二月十二日第三區總會議ヲ開キ第一號議案字區域變更並ニ名稱改稱案、第二號議案國有地編入交付案、第三號議案換地處分案、第四號議案耕地整理法第三十條第二項ニヨル特別處分案第五號議案賃賃價格配賦案等ヲ附議シ何レモ原案ヲ可決シ、併セテ徵收過金ノ内組合解散ニ至ル迄ノ經費充當並ニ殘餘金配當豫定等承認セリ
- 一、三月四日第一第二兩區總會議後換地處分認可告示ノ日ニ至ル迄ノ間ニ於テ土地所有權ノ移轉又ハ第三權利ノ設定、消滅又ハ換地處分ノ錯誤（基礎ニ影響ヲ及ボサザル錯誤）等ニ依ル耕地整理法第三十條第一項第二項處分ノ變更々々正ヲ認可セラレ同月八日其ノ旨告示セラレタリ

（昭和六年十一月十九日申請）

附記 本日認可ヲ受ケタル申請ニ際リ換地説明書中町名ノ異動其ノ他ノ誤謬訂正ヲ縣ヘ届出テタリ

- 一、三月八日第三區ニ於ケル耕地整理法第三十條第一項第二項處分（字區域變更及名稱改稱、國有地無償交付編入ヲ含ム）ノ認可ヲ申請セリ
- 一、三月廿二日縣告示第二三九號ヲ以テ市街地建築物法第二十六條第一項ニ依リ當組合地區内ノ計畫道路ヲ告示セラル
- 一、四月六日組合副長二名任期滿了ニ付改選ヲ行ヒシニ二名共重任シ組合長代理攝掌疋田組合副長亦其ノ攝掌ヲ重任ス
- 一、四月廿五日評議員會ヲ開キ耕地整理法施行規則附則第十一條第二項ニヨリ同則第十七條ノ二ニ則リ第一第二兩區賃賃價格配賦案ノ承認ヲ得タリ
- 一、五月四日組合副長二名ノ重任ヲ認可セラル但組合長代理攝掌ノ重任モ亦報告ヲ了ハリタリ
- 一、五月十一日第一、第二兩區換地處分變更又ハ更正認可ヲ受ケタル組合員百九十八名ニ對シ其ノ換地説明書ヲ送付シ第一區ハ清算金ノ計算書ヲモ發送セリ
- 一、五月十六日日本日ヨリ第一第二兩區共換地清算徵收金第一回ノ徵收ヲ開始ス
- 一、六月廿二日第二區換地處分變更々々正認可ヲ受ケタル組合員五十六名ニ對シ清算金ノ計算書ヲ發送セリ但説明書ハ五月十一日送付済

- 一、七月二十六日、六月一日申請ニ係ル第二區耕地整理土地建物登記完了シ其ノ旨所轄古澤登記所ヨリ通知アリタリ
- 一、七月二十七日第二區耕地整理登記完了ノ旨同區組合員へ通知シ同時ニ本縣知事へ報告セリ
- 一、十月十三日、六月一日申請ニ係ル第一區耕地整理土地建物登記完了シ其ノ旨所轄廣路登記所ヨリ通知アリタリ
- 一、十一月十五日第二區賃貸價格配賦決定セラレ十一月廿六日名古屋稅務署ヨリ其告知書到達ス  
(昭和七年七月十三日申請)
- 一、十一月十六日第一區耕地整理法第三十條第一項二項處分更正(第二回目ノ錯誤發見ニヨルモノ)認可セラレ同月廿二日其ノ旨告示アリタリ (昭和七年九月三日申請)
- 一、十一月廿一日第一區賃貸價格配賦決定セラレ十二月二日名古屋稅務署ヨリ其告知書到達ス  
(昭和七年七月十三日申請)
- 一、十一月廿一日日本日ヨリ第一、第二兩區換地清算徵收金第二回ノ徵收ヲ開始ス
- 一、十一月廿五日第一區耕地整理土地登記ノ追完(十一月十六日認可ノ換地處分更正ニ依ルモノ)ヲ申請シ十一月廿八日完了其旨所轄廣路登記所ヨリ通知アリタリ
- 一、十一月廿九日第二區賃貸價格配賦決定ノ旨縣知事並ニ所管南區役所へ報告セリ

- 一、十二月二日第一區耕地整理登記完了ノ旨同區組合員へ通知シ同時ニ本縣知事へ報告セリ
- 一、十二月二日第一區賃貸價格配賦決定ノ旨縣知事並ニ所管中區役所へ報告セリ  
附記 賃貸價格配賦ノ決定ハ換地々番ノ確定效ヲ有スルヲ以テ地區内存在ノ營利非營利私人ノ本支店又ハ主タル事務所若ハ其ノ重役居住者ノ地番變更ニヨル登記申請ノ便ヲ圖ル爲メ知レタル法人へ是レヲ通知セリ
- 一、十二月十日日本日ヨリ第一第二兩區共順次回ヲ重ネ換地清算交付金(換地々積不足交付ニヨル)ノ支拂ヲ開始ス
- 一、十二月十六日第一第二兩區賃貸價格配賦決定ノ旨各區組合員へ通知セリ
- 一、十二月二十日第三區字區域變更並ニ名稱改稱ノ義縣告示第九九二號ヲ以テ縣知事ヨリ告示セラレ即日ヨリ施行セララル
- 一、十二月廿四日第一第二兩區宅地成地目變換申告ノ通り決定セララル

昭和八年

- 一、一月廿四日去ル大正十二年十月廿五日縣ノ通達ニヨリ從來承認中ノ建物建築申請ハ事業ニ屬スル工事完成ノ爲メ本日限り承認停止ノ義本縣知事へ申告セリ
- 一、二月十日評議員任期滿了ニヨル改選ヲ行ヒ左ノ者當選シ會計分掌ノ高柳光重、伊藤邦太郎ノ兩



名亦重ネテ其分掌者ニ推薦セシヲ以テ再ビ會計分掌ヲ囑託セリ

第一區及ビ第三區選出 高柳光重、加藤丈左衛門、久野喜代治、荒川啓三郎、荒川幸太郎、見田重次、塚崎貢(新任)、八木大治郎(新任)

第二區選出 伊藤政治郎、伊藤邦太郎、水野忠三郎、篠田俊太郎、篠田幸藏、森部鐵三郎、日本車輛製造株式會社、福島増雄

一、二月八日第三區換地地處分並ニ特別處分(耕地整理法第三十條 第一項第二項處分)認可セラレ二月十四日縣知事ヨリ告示セララル

附記 第三區換地處分ハ總テ徵收金ニ歸スルモ既ニ豫納金トシテ徵收ヲ了ハリタルヲ以テ換地處分認可後ニ於テモ之レガ徵收ヲ行フニ及バザルコト、ナレリ

一、三月十七日第一第二兩區共本日ヨリ換地清算徵收金第三回(最終)ノ徵收ヲ開始ス

一、七月五日第三區換地處分變更(總會議後換地處分認可告示ノ)ヲ認可セラレ同月十一日縣知事ヨリ告示セララル (昭和八年五月二十五日申請)

一、九月一日第三區換地處分變更々々正(家督相續ニヨル)ヲ認可セラレ同月五日縣知事ヨリ告示セララル (昭和八年八月十二日申請同時ニ換地説明書中誤謬訂正ヲ届出テタリ)

一、九月十九日第三區賃貸價格配賦並ニ假賃貸價格決定ノ旨名古屋稅務署ヨリ通知アリタリ

(昭和八年十一月申請)

一、九月三十日第三區賃貸價格配賦決定ノ旨同區組合員ニ通知シ本縣知事並ニ所管中區役所へ報告セリ

一、十一月十七日第三區換地處分更正(第三權利ノ設定消滅遺脱)ヲ申請シ同月廿八日認可セラレ同年十二月八日縣知事ヨリ告示アリタリ

附記 右認可申請ト同時ニ換地説明書中訂正ヲ届出テタリ

### 昭和九年

一、一月廿五日第三區耕地整理登記ヲ申請ス

一、二月五日第三區耕地整理登記完了ノ旨所轄廣路登記所ヨリ通知アリ依テ同月六日其旨本縣知事へ報告シ同時ニ同區組合員へ通知セリ

一、二月七日規約第十二條第一項ノ任期變更認可ヲ申請シ同月廿二日之レガ認可ヲ受ケタリ

一、同月七日組合長補欠トシテ組合副長疋田義助選任ニヨル認可ヲ申請シ同月廿二日認可ヲ受ケタリ

一、二月八日規約中維持管理ノ規定削除ニヨル變更ヲ申請シ同月廿二日認可アリタリ

一、三月三十一日日本日ヲ以テ會計ノ收支ヲ締切リ總決算ヲ行ヒ解散セリ

一、四月二日評議員會、組合會ヲ開キ解散ヲ報告シ本縣へ之レガ届出方ヲ諮問セシニ是認ノ答申ヲ得タリ

一、四月四日耕地整理法第五十三條第一項第二號前段ノ事由ニ依リ組合解散ノ旨本縣へ届出デタリ

一、四月十日本日ノ縣公報ヲ以テ本縣知事ヨリ本組合ノ解散ヲ告示セラレタリ (終)

昭和九年四月十五日印刷  
昭和九年四月十七日發行

非賣品

發行者 名古屋市中區東郊通一丁目十二番地  
名古屋市中區東郊耕地整理組合  
(電話南局四〇三番)

代表者 組合長 疋田義助

同所 同番地

編輯者 事務員 水谷一

名古屋市中區東郊大津町一丁目一番地

印刷所 秀英社

電話東局七五六番

印刷者 同所 同番地 菊井政之助

組合解散に因る事業報告誌正誤表

頁	行又ハ欄	誤	正	頁	行又ハ欄	誤	正	頁	行又ハ欄	誤	正
四	山林(蔽)	〇〇一	〇〇一	空	第一區	九八、二七〇・六五	九八、二七〇・六五	一〇三	種目別	入	雑入
六	山林(林)	〇〇一	〇〇一	空	第二區	四三六、七四〇・二〇	四三六、七四〇・二〇	一〇六	測量費	換地納算	換地清算
八	宅地	三六・七〇〇	三六・七〇〇	空	第三區	一六、八八二・八七〇	一六、八八二・八七〇	二四	〇	〇	〇
九	山林(林)	・八五〇〇	・八五〇〇	〇	合計	一、八三、八六五・	一、八三、八三三・	二五	〇	〇	〇
九	溜池	・二九	・二九	〇	第一區	八七一・七〇〇	六七七・七〇〇	二五	計	〇	〇
九	軌道用地	假一・五〇	假一・五〇	〇	〇	二・三三九強	二・三三九強	二八	〇	〇	〇
〇	備考	四六、三三・二八	四六、三三・二八	〇	〇	一、二四九・〇四五	三四九、〇四五・二八二	二八	〇	〇	〇
〇	合計	五・五四	五・五四	〇	〇	二八	二八	二八	〇	〇	〇
〇	全地區	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇
元	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇
三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇
三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇
三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇
二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇
二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇
九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇
二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇
九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇
二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇
二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇

終

